







114  
1  
1  
1





已令解舟

胡塔之雅





梅

竹

此天年小





敬音



者馬

法之

基

武藝

五





詠二首和歌

庭雪

音夢丸

ゆきしとまをりては又

ゆきさきむらもれは

ゆきしはは乃し

雪初

みきりまねふとせの

なみをんといふわれ

れまのう風



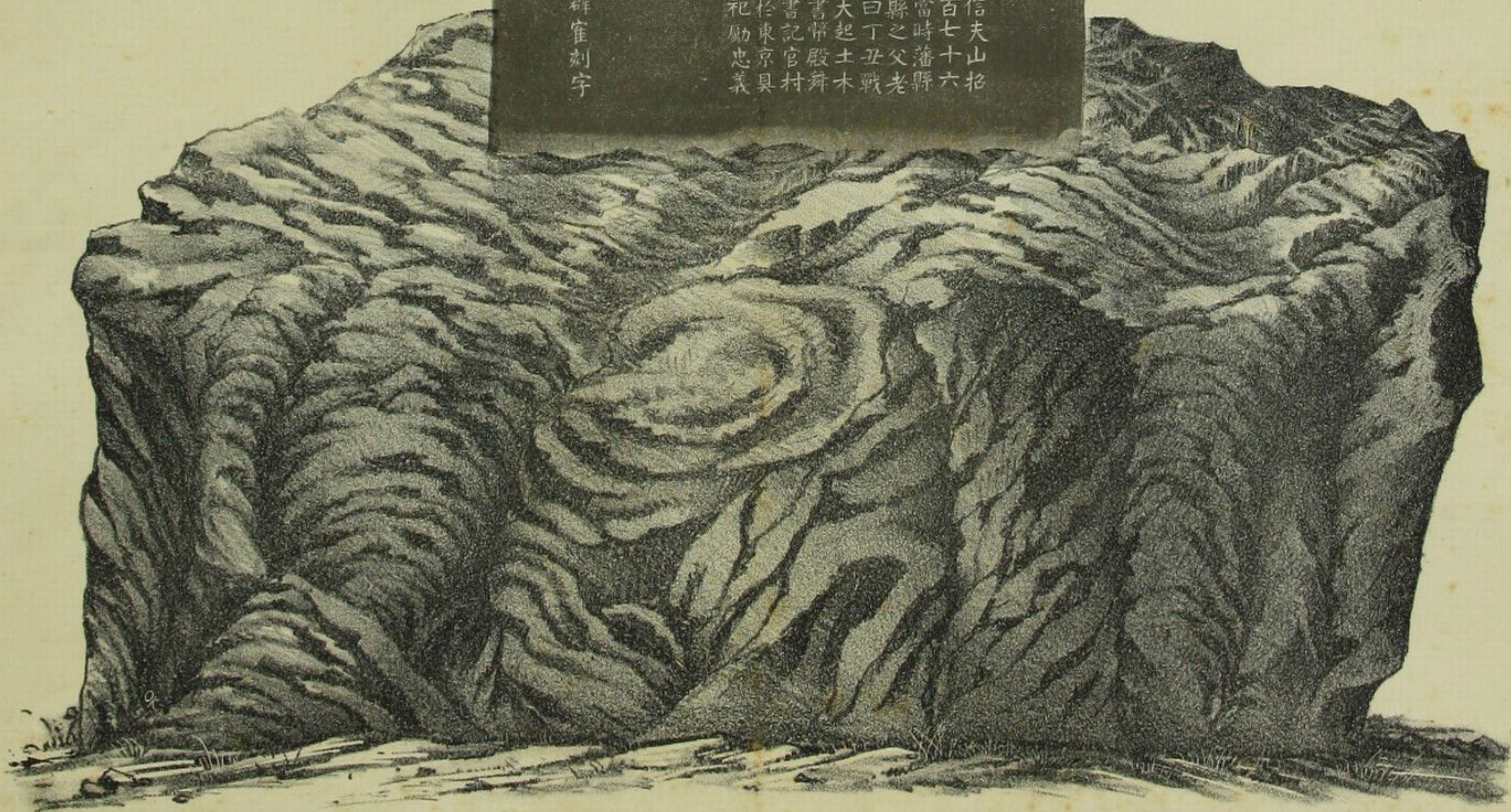
招魂碑

信夫山招魂碑  
 福島縣治之北二十許町岡巒隆起曰信夫山一水流其下曰逢隈川樹林泉石映帶左右有堂起其中此為信夫山招魂社祀戊辰死事而祀者三百四十九人初明治中興官分祀於宇多郡黑木村田村郡三春會津郡若松然當時藩縣人及戊辰死事而祀者三百四十九人初明治中興官分祀於宇多郡黑木村田村郡三春會津郡若松然當時藩縣分治祀典未一也既而廢藩置縣又廢若松郡前二縣併之本縣丁丑西鄉隆盛及縣下士民死之者泉明年縣之父老胥議欲捐貲設招魂之社於信夫山合三所為一且附丁丑戰死者由縣令山吉盛典請之內務省內務省令曰丁丑戰死者官已祀靖國神社若欲私祭者從所請於是世良氏以下承官祭依舊而佐川氏以下為私祀父老乃大起土木為公園營社其中社廣一丈五尺縱九尺強拜殿在其前揭扁二曰壯芳有柘川親王書曰揚烈三條相國書幣殿拜場百爾器具盡備焉已卯十一月始舉祀典落之為費無慮金八千三百九十餘圓越乙酉縣令赤司欽一大書記官村上楠朝以下有志諸人更釀四千圓三千圓備修繕之費以其餘充建碑諸費以圖不朽遺傳屬治澤七郎等於東京具狀來請余文嗚呼二役諸士誠忠偉烈捨身報國光簡冊而垂萬古其績固可傳矣有志諸人捐私資以修祭祀勵忠義以勸將來亦發予愛國之誠良可嘉尚已故余不辭而為之文係以詩春秋俾歌以祀之其辭曰  
 身死王事名不朽  
 生同蟬蛻死螻蟻  
 輪奐之社理所止  
 無車而楚詎有是  
 公私奠祭永罔改  
 元老院議官從四位中村云直撰  
 內閣書記官正五位勳四等金井之共書  
 庶群宦刺字

明治十九年十一月

信夫之山逢隈水子

春花秋月萬景美兮



石碑高三丈一吋 中五尺三寸 厚一尺一吋 石臺上地高一尺四吋 中五尺三寸 厚一尺一吋



風月江山結夙緣  
不帶一成  
佛心帶像昭朝  
恩澤一  
河厚游裁人間  
七十年

一  
与  
老  
迂  
窮  
之  
吟



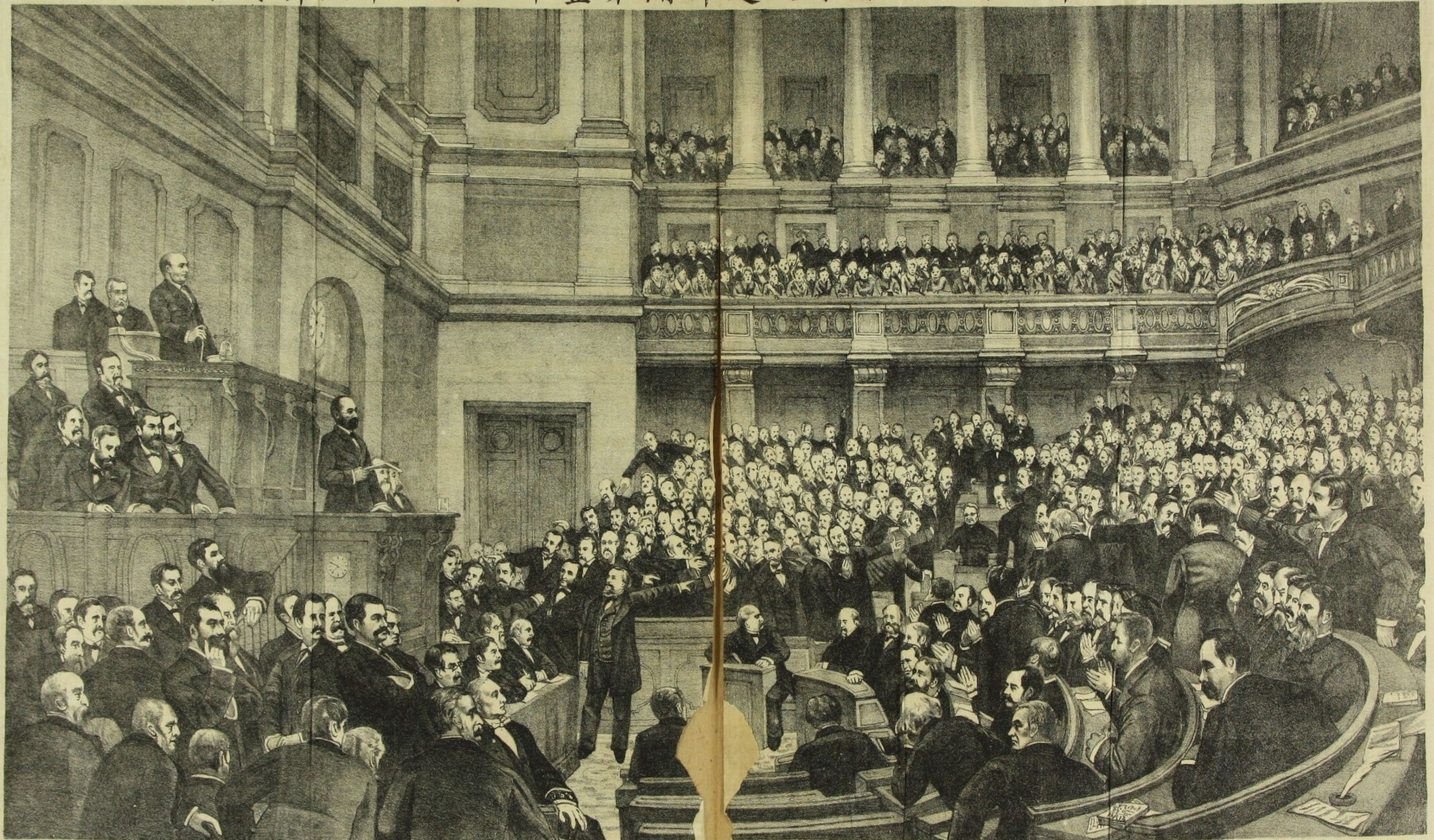
此六先生從筆條易策前二所作其詩畫之妙在  
身者比之平生之作或有如無誠如先生真可稱翰墨  
場中神仙矣其人己亡嗚呼哀哉  
年五不克  
印





# 佛國下議院之圖

明治二十一年四月四日刊行改進黨新聞第四千四百五十五號附錄



主兼印刷人水野昌幸編輯人岩井益之助

發行所東京區南橋六番地三益社

SÉANCE DE LA CHAMBRE DES DÉPUTÉS DU 17 JUIN 1877

8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4



扇形に書かれた漢文の文書。表紙の裏側に貼られている。文字は非常に小さく、縦書きで、扇形の枠内に収められている。内容は、おそらく歴史的な記録や法律文書の一部であると思われる。

紙に貼られた紙片に、縦書きの漢文が書かれている。文字は非常に暗く、ほとんど黒く塗りつぶされたように見える。しかし、一部の文字は黄色いインクで書かれており、読み取ることが可能である。右側の文字は「かき」と始まり、左側の文字は「あ」と始まり、それぞれ縦書きで書かれている。





雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

雜錄

一、...

二、...

三、...

四、...

五、...

六、...

七、...

八、...

九、...

十、...

十一、...

十二、...

十三、...

十四、...

十五、...

十六、...

十七、...

十八、...

十九、...

二十、...

二十一、...

二十二、...

二十三、...

二十四、...

二十五、...

二十六、...

二十七、...

二十八、...

二十九、...

三十、...

三十一、...

三十二、...

三十三、...

三十四、...

三十五、...

三十六、...

三十七、...

三十八、...

三十九、...

四十、...

四十一、...

四十二、...

四十三、...

四十四、...

四十五、...

四十六、...

四十七、...

四十八、...

四十九、...

五十、...

五十一、...

五十二、...

五十三、...

五十四、...

五十五、...

五十六、...

五十七、...

五十八、...

五十九、...

六十、...

六十一、...

六十二、...

六十三、...

六十四、...

六十五、...

六十六、...

六十七、...

六十八、...

六十九、...

七十、...

七十一、...

七十二、...

七十三、...

七十四、...

七十五、...

七十六、...

七十七、...

七十八、...

七十九、...

八十、...

八十一、...

八十二、...

八十三、...

八十四、...

八十五、...

八十六、...

八十七、...

八十八、...

八十九、...

九十、...

九十一、...

九十二、...

九十三、...

九十四、...

九十五、...

九十六、...

九十七、...

九十八、...

九十九、...

一百、...









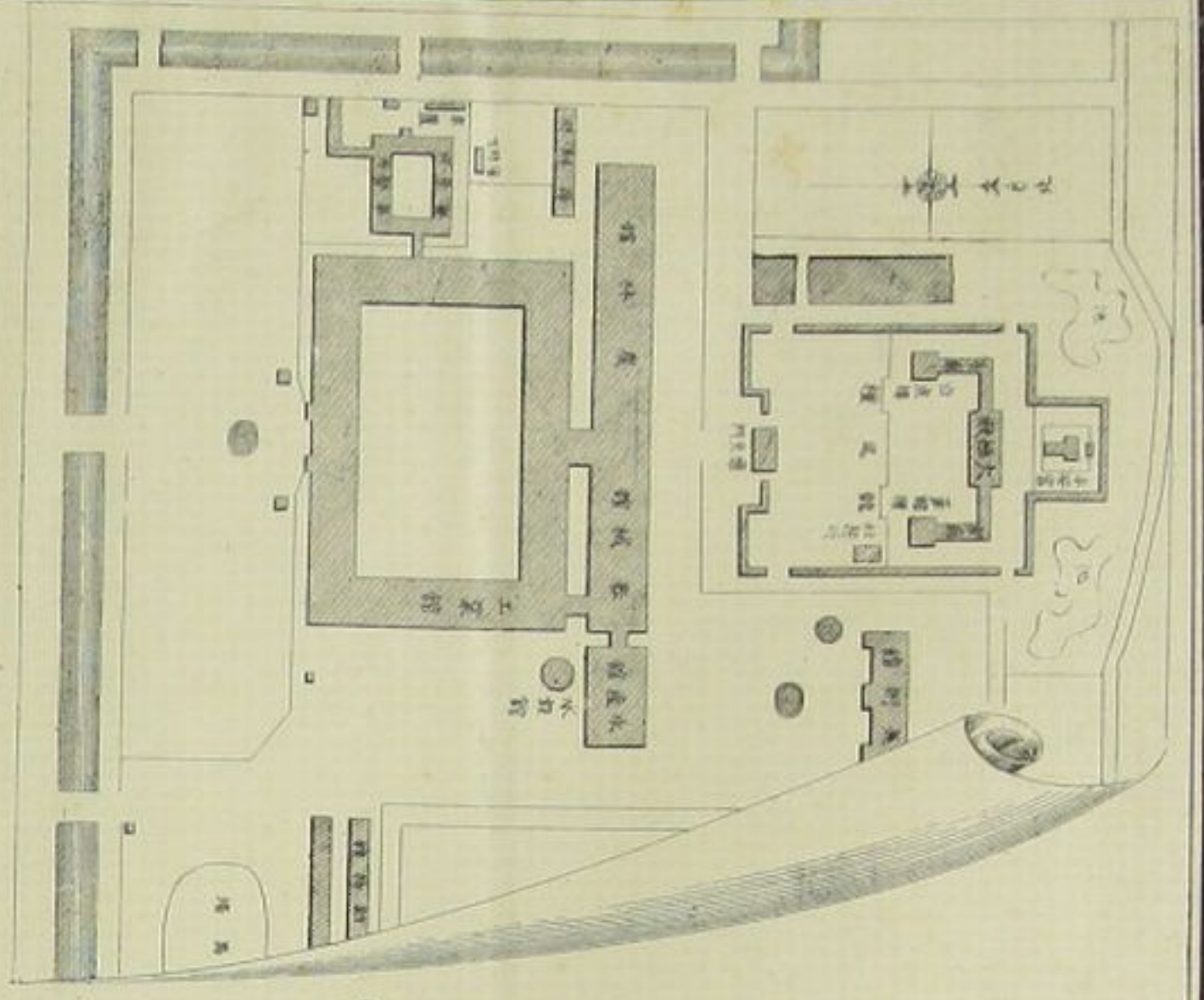


桓武天皇  
平安遷都  
千百年紀念祭協賛會

京都市上京區園寺町  
京都事務所

平安神宮建築一覽表

名稱	桁行及梁間	坪數
本殿	桁行廿七尺八寸 梁間廿八尺一寸五分	三坪三合三勺
透櫓	長二百六十六尺	
祝詞屋	桁行廿七尺八寸五分 梁間廿八尺一寸五分	六坪七合
後門	柱間九尺	
櫻櫓	桁行百一十尺 梁間四十四尺	五坪三合七勺
步廊	桁行三百八十八尺 梁間十二尺	五坪七勺
蒼龍樓	桁行廿八尺 梁間廿九尺	三合
白虎樓	桁行廿八尺 梁間廿九尺	三合
龍尾櫓	長三百八十八尺	
櫻櫓	桁行六十四尺 梁間廿四尺	四坪
土壘	二千〇四尺	





平安遷都千百年紀念祭趣意書

遷都千百年紀念祭趣意書
遷都千百年紀念祭趣意書
遷都千百年紀念祭趣意書

遷都紀念祭協賛會設立趣意書

遷都紀念祭協賛會設立趣意書
遷都紀念祭協賛會設立趣意書
遷都紀念祭協賛會設立趣意書

規約

規約
第一條 本會ハ明治廿八年京都市ニ於テ執行スル 恒武天皇平安遷都千百年紀念祭ニ協同シ其事業ヲ贊助スルヲ目的トス

平安神社

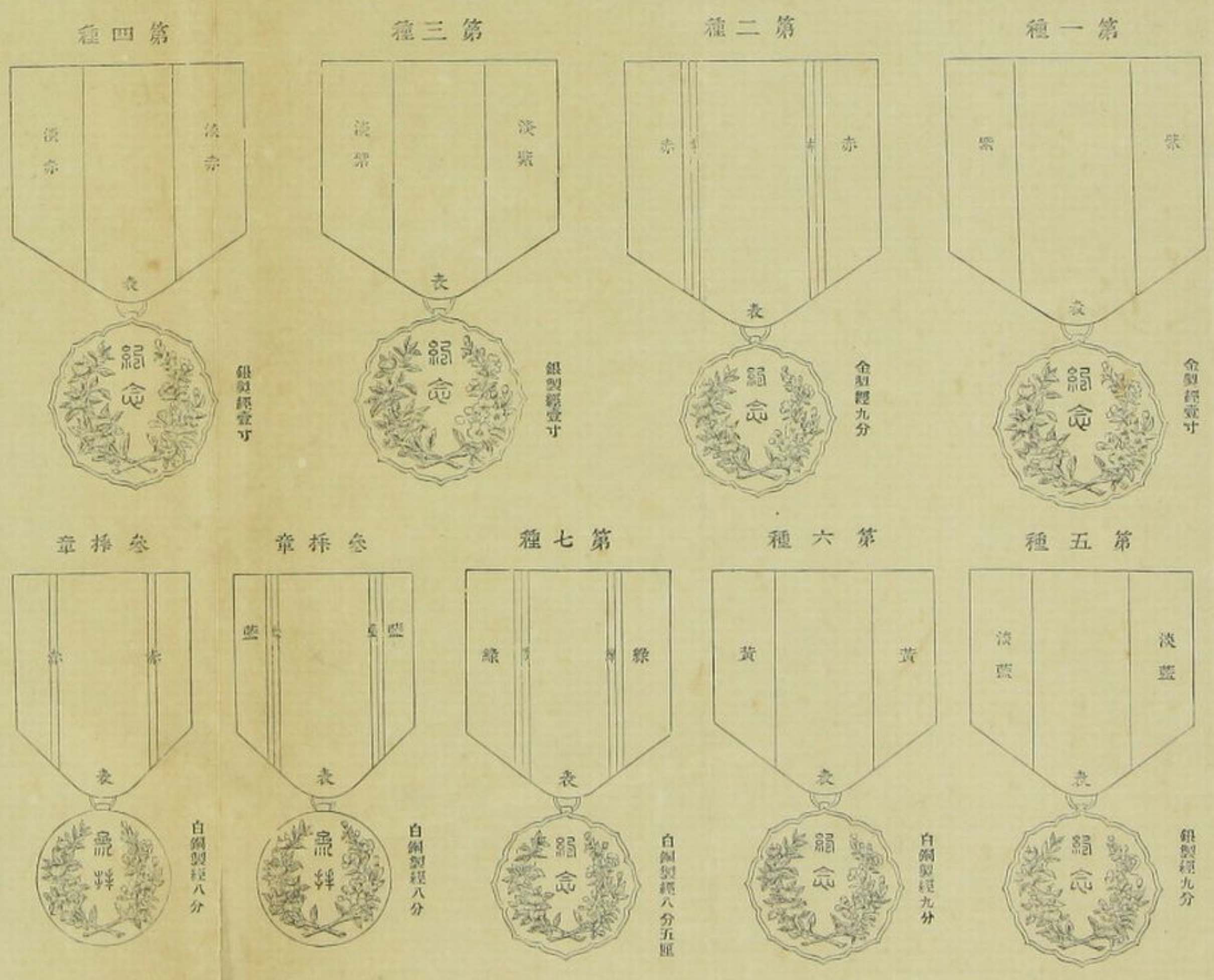
平安神社
內務省告示第八十三號
京都市上京區岡崎町鎮座

御下賜金及寄附金

Table listing donations from various groups like '皇室族方' and '各都府縣' with amounts.

紀念章牌規程

紀念章牌規程
第一條 本會ニ會員ヲ寄附セシメニ贈與スルモノ左ノ七種ノ章牌ヲ規定ス



紀念章及參拜章佩用者取扱順序

紀念章及參拜章佩用者取扱順序
明治廿八年京都市ニ於テ 恒武天皇平安遷都千百年紀念祭舉行ニ際シ紀念章協賛會ヨリ交付シタル紀念章

Table showing '往復' (return) and '單程' (one-way) ticket prices for various routes like '何鐵道乘車割引票'.



# 平安遷都千百年紀念祭趣意書

謹ミ案スルニ我國帝都ハ 神武天皇始メテ大和國橿原ニ創建シ給ヒシヨリ以來歴世天皇其居チ常ニセス或ハ一世ニシテ轉シ或ハ數世ニテ遷リ給ヒシガ其地ハ大抵大和國ニ出テス中間偶々攝津河内近江等ニ都セラレシトアリト雖モ亦一二世ニ過キス蓋シ上古ニ在リテハ帝都規模未ダ定ラス百事輕易チ主トセラレシチ以テ其遷轉如此頻繁ナリシト雖モ奠鼎ノ地一國ノ首府ハ固ヨリ天下ノ形勢ニ據リ雄大ノ規模チ立テサルヘカラス恭惟フ 桓武天皇英邁ノ雄資チ懷抱シ經畧ノ大業チ恢弘シ帝京ノ屢ハ遷移スヘカラス國都ノ宏壯雄麗ナラサルヘカラス見且平城ノ地形勢萬乘チ容ル、ニ足ラサルチ以テ初メ地チ山城國長岡ニトシ新京チ營セシメタル然レモ其地未ダ適當ナラサルチ察シ更ニ地チ葛野郡宇太村ニ相シ葛野愛宕ノ兩郡ニ跨カリ四神擁護ノ靈地山襟河帶ノ形勝チ擇ヒ此京都ノ地盤チ畫シ新ニ帝京チ經營セシメタル王城ノ規模國都ノ經畫一ニ 天皇ノ宸裁ニ出テ宮殿官省ヨリ市坊閭閻ニ至ル迄井然完成壯宏雄麗以テ万古不易ノ鴻業チ定メ給ヘリ是ニ於テ國民瞻仰スル所アリ外邦歸向スル所アリ平安ノ佳名一定シテ歴世相承ケ敢テ或ハ渝ルコトアルナシ以テ奠鼎ノ初メヨリ今日ニ及ヒ一千餘年ノ星霜チ經過セリ明治維新國勢一變ニ及ヒ全國ノ中央交通ノ便利チ以テ江戸城チ萬乘ノ帝居ト定メ給フト雖モ之チ稱スルニ東京チ以テシ吾平安ハ仍ホ京都ノ大號チ改メス國家ノ大禮ナル登極ノ儀大嘗ノ典ニ至リテハ必ス之チ吾平安京ニ於テ行ハセラル、トト定メラル其平安京チ重シ 桓武天皇ノ遺範ニ遵ハル、是ニ於テ乎見ルヘシ嗚呼萬世一系ノ帝國ニシテ千載不遷ノ舊京アルハ之中外古今ノ久シキニ求ムルニ吾平安京ノ外復タ他ニ比類アルコトナシ豈盛ナラスヤ是實ニ日本帝國ノ光輝ニシテ 桓武天皇ノ遺德ナリ吾國民タル者豈之チ發揚スル所以チ思ハサルヘケンヤ爰ニ明治二十八年ハ即チ 桓武天皇延曆十五年正月朔始メテ大極殿ニ御シ正朔ノ拜賀チ受ケサセラレ此平安城ノ規模全備セシ年ヨリ一千一十年ニ相當スル年ナルチ以テ吾京都市民ハ此年ニ於テ吾平安京遷都千百年紀念祭チ執行シ 桓武天皇ノ尊靈チ奉祭シ其聖德チ追贊シ其鴻業チ仰瞻シ此千百年間ニ於テ發達シタル事業チ表彰シ吾日本帝國ノ隆運チ賀セントス此ノ如キ大祝祭ハ國家ノ盛典トシテ實ニ全國臣民ノ相共ニ企圖計畫スヘキ所ナレモ吾京都市民カ熱心ニ奮發シテ首唱發企ノ地ニ立ツ者ハ其京輦ニ住シ殊ニ德澤ニ浴スル厚ケレハナリ抑モ京都ノ市府ハ千有餘年ノ久シキチ經タルチ以テ其間實ニ種々ノ變遷ニ關シタリキ制度文物ノ沿革美術工藝ノ盛衰風俗好尚ノ流移スル或ハ雍々皞皞ノ太平ニ浴シ又ハ戰鬪爭亂ノ慘況ニ陥リ治ニ亂ニ盛衰禍福ニ皆閱歷セサルナシ故チ以テ地トシテ歴史ノ關係チ有セサルナク物トシテ學藝ノ考證チ資セサルハナシ之ニ加フルニ山河清淑華木靚妍到ル所人目チ喜ハシメサルナク名山巨剎ノ藏世界有數ノ寶亦實ニ少シトセス况ンヤ疏水工成リテ運輸ノ利チ増シ道路改修シテ遊覽ノ便チ開ケルチヤ天然ノ美景ト人造ノ巧工ト相須テ益々京都ノ名聲チ高メ内外人ノ來集スル者年一年ヨリ多チ加フル勢ト爲レリ故チ以テ吾平安京ハ唯日本ノ名勝タルニ止マラス世界萬國中ノ名勝地タルニ至レリ殊ニ政府ニ於テモ吾市民ノ紀念祭チ執行セントスルチ嘉シ其盛大チ希ヒ第四回內國勸業大博覽會チ明治二十八年ニ於テ京都ニ開設セラレントスルノ内議アリ果シテ如此則吾遷都紀念祭ト相須テ一層ノ隆盛繁榮チ致スヤ必セリ此時ニ當テ京都市ハ此祝祭ノ爲メ建都以來ノ制度文物美術其他百般ノ沿革變遷チ考明シテ之チ公示シ我國古來文化開進ノ事跡チ普ク内外人ニ知ラシメントス又京都ノ社寺ハ各紀念ノ爲ニ祭典法會チ執行シ吾國民チシテ 桓武天皇ノ聖德偉勳チ追仰敬慕セシメ以テ愛國忠君ノ大義チ發揚セントシ其他ニ至リテモ此間ニ於テ開クヘキ全國學術工藝ノ諸協會ハ此京都ニ於テ之チ開設シ大ニ其考究ノ目的チ達セシムルカ爲メ相當ノ資料ト便宜チ與ヘントスルノ計畫アリ如此種々ノ事物チ湊合シ此紀念祭チ盛大ニシ此紀念祭ニヨリテ上ハ大日本帝國ノ爲メ又全國公衆ノ爲メ有益ナル功効チ奏セシコトチ熱心ニ企望シテ已マサルナリ茲ニ京都市民ハ吾平安京遷都千百年紀念祭チ執行スルニ付テハ謹テ 皇室及ヒ皇族ノ御庇保チ仰キ奉リ華族貴紳ノ贊襄チ請ヒ忠良ナル吾帝國人士ノ同感チ求メ又博ク外國紳士モ延請シ此大典盛舉チ成就シ以テ 帝室ノ尊榮チ増シ帝國ノ光輝チ發揚セントス依テ吾京都市民ノ微衷チ披陳シ廣ク内外人士ニ告クト云爾

## 平安遷都紀念祭協贊會設立趣意書

恭シク惟ルニ明治廿八年即チ 皇祖 神武天皇建國第二千五百五十五年ハ實ニ 桓武天皇平安京遷都第一千一十年ニ當レリ抑一系ノ帝統二千五百有餘年チ經、殊ニ允文允武ナル 今上天皇聖德愈隆ク皇威益震ヒ尙ホ天壤ト窮リ無キチ期シ平安京ハ即チ斯ノ一系 天子ノ皇都ニシテ方ニ一千一十年チ閱シ唯舊シク政教發達ル所ノ府チシヨリニ非ズ寧ニ我國文化流出ル所ノ源タリ我等此京ニ生レ若クハ在住シ又ハ緣故チ有スルモノ此期ニ際シ須ラク一舉ナカルヘカラスナリ茲ニ京都市ハ先ツ我心チ獲將ニ此年チ以テ平安京遷都紀念祭チ舉行シ厚ク 桓武天皇ノ洪恩チ奉謝シ大ニ 今上天皇ノ隆德チ奉祝シ併テ京都ノ益旺盛チ祈ラントス我等協同贊助セシテ可ナランヤ是本會チ設クル所以ナリ且夫レ我國國境 桓武天皇ノ宏德大業チ欣仰セサルノ臣民無ク而シテ紀念祭ハ乃チ主トシテ 天皇チ追慕シ奉ルノ大祭ナリ況ンヤ京都ハ山水明媚、加フルニ百工美術ノ淵藪ニシテ獨リ我國民ノ京ナルノミナラス亦將サニ四方萬國民ノ俱ニ瞻仰スル所ノ都ヲラントスルニ於テチャ是故ニ我等ハ固ク信ス本會ハ我四方君子ノ俱ニ翼贊セラル、所タルヘキチ

## 規約

○第一條本會ハ明治廿八年京都市ニ於テ執行スル 桓武天皇平安遷都千百年紀念祭ニ協同シ其事業チ贊助スルチ目的トス ○第二條本會ハ事務所チ東京及京都ニ置キ支部チ各地方ニ置ク但支部ニ關スル事務ハ京都事務所ニ於テ處理ス ○第三條本會ニ入會セントスルモノハ會員ノ紹介ニ依ル但拾圓以上ノ寄附者チ正會員トナシ貳圓以上拾圓未滿ノ寄附者チ准會員トナス ○第四條本會ノ目的チ嘉納セラル、皇族ハ會長ヨリ名譽會員ニ推薦ス ○第五條本會々員ニシテ特ニ功勞アル者チ特別會員トス但特別會員ハ會長之チ撰定ス ○第六條會長又ハ評議員會ニ於テ必要ト認ムル時、會員總會チ開ク ○第七條本會ノ事業中會長又ハ幹

第一條 本會

但本會ニ

第一種章

第二種章

第三種章

第四種章

章牌

拾圓

但貳圓未

第四條 章牌

第一條

但本會ニ

第一種章

第二種章

第三種章

第四種章

章牌

拾圓

但貳圓未

第四條 章牌

第一條

但本會ニ

第一種章

第二種章

第三種章

第四種章

章牌

拾圓

但貳圓未

第四條 章牌

第一條

但本會ニ

第一種章

第二種章

第三種章

第四種章

章牌

拾圓

但貳圓未

第四條 章牌



來ノ制度文物美術其他百般ノ沿革變遷ヲ考明シテ之ヲ公示シ我國古來文化開進ノ事跡ヲ普ク内外人ニ知ラシメントス又京都ノ社寺ハ各紀念ノ爲ニ祭典法會ヲ執行シ吾國民ヲシテ 桓武天皇ノ聖德偉勳ヲ追仰敬慕セシメ以テ愛國忠君ノ大義ヲ發揚セントシ其他ニ至リテモ此間ニ於テ開クヘキ全國學術工藝ノ諸協會ハ此京都ニ於テ之ヲ開設シ大ニ其考究ノ目的ヲ達セシムルカ爲メ相當ノ資料ト便宜ヲ與ヘントスルノ計畫アリ如此種々ノ事物ヲ湊合シ此紀念祭ヲ盛大ニシ此紀念祭ニヨリテ上ハ大日本帝國ノ爲メ又全國公衆ノ爲メ有益ナル功効ヲ奏センコトヲ熱心ニ企望シテ已マサルナリ茲ニ京都市民ハ吾平安京遷都千百年紀念祭ヲ執行スルニ付テハ謹テ 皇室及ヒ皇族ノ御庇保ヲ仰キ奉リ華族貴紳ノ贊襄ヲ請ヒ忠良ナル吾帝國人士ノ同感ヲ求メ又博ク外國紳士モ延請シ此大典盛舉ヲ成就シ以テ 帝室ノ尊榮ヲ増シ帝國ノ光輝ヲ發揚セントス依テ吾京都市民ノ微衷ヲ披陳シ廣ク内外人士ニ告クト云爾

### 平安紀念祭協贊會設立趣意書

恭シク惟ルニ明治廿八年即チ 皇祖 神武天皇建國第二千五百五十五年ハ實ニ 桓武天皇平安京遷都第一千一百年ニ當レリ抑一系ノ帝統二千五百有餘年ヲ經、殊ニ允文允武ナル 今上天皇聖德愈隆ク皇威益震ヒ尙ホ天壤ト窮リ無キヲ期シ平安京ハ即チ斯ノ一系 天子ノ皇都ニシテ方ニ一千一百年ヲ閱シ唯舊シク政教發達スル所ナラズルニ非ズ實ニ我國文化流出スル所ノ源アリ我等此京ニ生レ若クハ在住シ又ハ緣故チ有スルモノ此期ニ際シ須ラク一舉ナカルヘカラサルナリ茲ニ京都市ハ先ツ我心ヲ獲將ニ此年ヲ以テ平安京遷都紀念祭ヲ舉行シ厚ク 桓武天皇ノ洪恩ヲ奉謝シ大ニ 今上天皇ノ隆德ヲ奉祝シ併テ京都ノ益旺盛ヲ祈ラントス我等協同贊助セシテ可ナランヤ是本會ヲ設クル所以ナリ且夫レ我國闔境 桓武天皇ノ宏德大業ヲ欣仰セサルノ臣民無ク而シテ紀念祭ハ乃チ主トシテ 天皇ヲ追慕シ奉ルノ大祭ナリ況ンヤ京都ハ山水明媚、加フルニ百工美術ノ淵叢ニシテ獨リ我國民ノ京ナルノミナラス亦將サニ四方萬國民ノ俱ニ瞻仰スル所ノ都ヲラントスルニ於テチャ是故ニ我等ハ固ク信ス本會ハ我四方君子ノ俱ニ翼贊セラル、所タルヘキチ

### 規約

○第一條本會ハ明治廿八年京都市ニ於テ執行スル 桓武天皇平安遷都千百年紀念祭ニ協同シ其事業ヲ贊助スルヲ目的トス ○第二條本會ハ事務所ヲ東京及京都ニ置キ支部ヲ各地方ニ置ク但支部ニ關スル事務ハ京都事務所ニ於テ處理ス ○第三條本會ニ入會セントスルモノハ會員ノ紹介ニ依ル但拾圓以上ノ寄附者ヲ正會員トナシ貳圓以上拾圓未滿ノ寄附者ヲ准會員トナス ○第四條本會ノ目的ヲ嘉納セラル、皇族ハ會長ヨリ名譽會員ニ推薦ス ○第五條本會々員ニシテ特ニ功勞アル者ヲ特別會員トス但特別會員ハ會長之ヲ撰定ス ○第六條會長又ハ評議員會ニ於テ必要ト認ムル時ハ會員總會ヲ開ク ○第七條本會ノ事業中會長又ハ幹事ニ於テ重大ナルト認メタルモノハ評議員會ノ議ニ付スヘシ但緊急ノ場合ニハ幹事ニ於テ會長ノ認可ヲ得テ舉行スルヲ得 ○第八條本會ニ左ノ役員ヲ置ク會長一名(本會全般ノ事務ヲ總提ス)副會長一名(會長ノ職務ヲ代理ス)評議員若干名(會務ヲ評定ス)支部長各支部一名(支部ニ係ル事務ヲ管理ス)幹事十二名(本會ノ事務及會計ヲ分掌ス) ○第九條會長及副會長ハ發起人ノ撰舉ス ○第十條本會ニ總裁ヲ置キ名譽會員中ヨリ之ヲ指名シテ推戴ス ○第十一條評議員及支部長幹事ハ會長之ヲ撰舉シ總裁ヨリ囑托ス ○第十二條會務ノ必要ニ從ヒ委員ヲ置ク但委員ハ會長之ヲ囑托ス ○第十三條事務員ハ幹事ニ於テ之ヲ撰任ス ○第十四條本會ノ經費ハ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ ○第十五條本會々員ニハ會員ノ徽章ヲ贈ル ○第十六條本會ニ功勞アルモノニハ金製又ハ銀製白銅製等ノ紀念牌ヲ贈ル ○第十七條會員總會ニ係ル規程、評議員ニ係ル規程、支部ニ係ル規程、紀念牌ニ係ル規程、會計ニ係ル規程、其他本會ノ處務ニ必要ナル規程ハ評議員會ニ於テ議定ス ○第十八條本會ハ紀念祭事務了スルト共ニ解散スルモノトス

### 平安神社

內務省告示第八十三號  
平安神社 京都市上京區岡崎町鎮座  
祭神 桓武天皇  
右京都市上京區鎮座平安神社ヲ平安神社ト稱セラレ社格ヲ官幣大社ニ列セラル、旨 仰出サル  
明治二十七年七月二日

### 御下賜金及寄附金

御下賜金	一金六千四百參拾參圓	北海道
各皇族	一金貳千七百四拾壹圓五拾錢	滋賀縣
京都府	一金千七百參拾八圓	宮城縣
全郡市	一金千貳百九拾壹圓	各取引所
東部府	一金九百五拾四圓參拾錢	靜岡縣
大坂府	一金七百參拾壹圓五拾錢	佐賀縣
兵庫縣	一金五百圓	山梨縣
神奈川縣	一金千六百四拾七圓五拾錢	各縣
岡山縣	但目下彙集中ニ付追テ金額ノ内譯ヲ示ス	
合計	金貳拾四萬參千參百七拾貳圓拾八錢	

### 第四種

淡赤
淡赤

### 第三種

淡紫
淡紫

### 紀念

一 明治廿八年京都ニ於テ又ハ參拜章佩用者ニ限一 紀念章及參拜章所有者一 割引票ハ往復二葉又ハ一 割引票使用日限ハ明治一 割引票ハ京都ヲ中心ト但東部區域ニ屬スルモ見物ヲナスモノアル  
聯合區域内(大津、彦付)スルモノトス  
一 東部ノ區域及乘車船賃日本鐵道(二割)兩毛鐵道(三割)大阪鐵道(二割)阪堺鐵道(二割)淀川瀨船(三割)熱田日本鐵道(三割)讀岐鐵道(三割)關西鐵道(三割)豫瀨船會社、伊万里運日運輸商店取扱瀨船ノ一 割引票ハ乘車船切符購一 官設鐵道ハ別ニ本會ノヨリ七月三十一日迄ノ者ニ限リ猶二割引ノ特一 紀念章牌ハ京都又ハ東但土地ノ便宜ニ因リ他一 紀念章佩用者ニハ京都一 紀念章及參拜章佩用者會ニ交附スルモノトス

明治廿
何瀨鐵道



# 紀念章牌規程

- 第一條 本會ニ金員ヲ寄附セシ者ニ贈與スル爲メ左ノ七種ノ章牌ヲ規定ス  
但本會ニ功勞アルモノハ金員寄附ニ不拘相當ノ章牌ヲ贈與スルモノトス
- 第一種章牌 千圓以上ノ寄附者ニ贈與ス
- 第二種章牌 五百圓以上ノ寄附者ニ贈與ス
- 第三種章牌 參百圓以上ノ寄附者ニ贈與ス
- 第四種章牌 百圓以上ノ寄附者ニ贈與ス
- 第二條 章牌ニハ別ニ贈附狀ヲ添附スルモノトス
- 第三條 拾圓未滿貳圓以上ノ寄附者ニハ謝狀ニ藍色綬ノ參拜章ヲ副工贈ルモノトス  
但貳圓未滿ノ寄附者ニハ參拜章ノミヲ贈ルモノトス
- 第四條 章牌ノ外更ニ參拜章ヲ調製シ紀念祭參拜者ニシテ相當ノ代價ヲ納付スルモノニ授與スルモノトス
- 第五種章牌 五拾圓以上ノ寄附者ニ贈與ス
- 第六種章牌 參拾圓以上ノ寄附者ニ贈與ス
- 第七種章牌 拾圓以上ノ寄附者ニ贈與ス

## 紀念章并參拜章見本圖

<p>第一種</p> <p>紫</p> <p>表</p> <p>金製經九分</p>	<p>第二種</p> <p>赤</p> <p>表</p> <p>銀製經壹寸</p>	<p>第三種</p> <p>淡紫</p> <p>表</p> <p>銀製經壹寸</p>	<p>第四種</p> <p>淡赤</p> <p>表</p> <p>銀製經壹寸</p>
<p>第五種</p> <p>淡藍</p> <p>表</p> <p>銀製經九分</p>	<p>第六種</p> <p>黃</p> <p>表</p> <p>白銅製經九分</p>	<p>第七種</p> <p>綠</p> <p>表</p> <p>白銅製經八分五厘</p>	<p>參拜章</p> <p>赤</p> <p>表</p> <p>白銅製經八分</p>

## 紀念章及參拜章佩用者取扱順序

一 明治廿八年京都ニ於テ 桓武天皇平安遷都千百年紀念祭舉行ニ際シ紀念祭協贊會ヨリ交付シタル紀念章  
又ハ參拜章佩用者ニ限リ瀛車瀛船賃ノ割引チナスモノトス  
一 紀念章及參拜章所有者ニハ瀛車瀛船割引票ヲ交付スルモノトス

大皇其居ヲ常ニセス或  
津河内近江等ニ都セラ  
易チ主トセラレシチ以  
ノ規模ヲ立テサルヘカ  
カラス國都ノ宏壯雄麗  
城國長岡ニトシ新京チ  
愛宕ノ兩郡ニ跨カリ四  
上城ノ規模國都ノ經畫  
不易ノ鴻業ヲ定メ給ヘ  
取テ或ハ渝ルヲアルナ  
ヒ全國ノ中央交通ノ便  
仍ホ京都ノ大號ヲ改メ  
トト定メラル其平安  
シテ千載不遷ノ舊京ア  
ラスヤ是實ニ日本帝國  
ケンヤ爰ニ明治二十八  
レ此平安城ノ規模全備  
都千百年紀念祭ヲ執行  
シタル事業ヲ表彰シ吾  
共ニ企圖計畫スヘキ所  
ニ浴スル厚ケレハナリ  
キ制度文物ノ沿革美術  
リ治ニ亂ニ盛衰禍福ニ  
チ資セサルハナシ之ニ  
寶亦實ニ少シトセス况  
人造ノ巧工ト相須テ益  
吾平安京ハ唯日本ノ名  
祭ヲ執行セントスルチ  
ントスルノ内議アリ果  
ハ此祝祭ノ爲メ建都以  
跡チ普ク内外人ニ知ラ  
ノ聖德偉勳ヲ追仰敬慕  
學術工藝ノ諸協會ハ此  
ヘントスルノ計畫アリ  
メ又全國公衆ノ爲メ有  
都千百年紀念祭ヲ執行  
ル吾帝國人士ノ同感チ  
輝チ發揚セントス依テ

武天皇平安京遷都第一  
聖德愈隆ク皇威益震ヒ  
年ヲ閱シ唯舊シク政教  
クハ在住シ又ハ緣故チ  
將ニ此年ヲ以テ平安京  
併テ京都ノ益旺盛ヲ祈  
桓武天皇ノ宏德大業  
リ況ンヤ京都ハ山水明  
國民ノ俱ニ瞻仰スル所  
ラル、所タルヘキチ

協同シ其事業ヲ贊助  
支部ニ關スル事務ハ京  
拾圓以上ノ寄附者チ正  
セラル、皇族ハ會長ヨ



ハ此祝祭ノ爲メ建都以  
跡ヲ普ク内外人ニ知ラ  
ノ聖德偉勳ヲ追仰敬慕  
學術工藝ノ諸協會ハ此  
ヘントスルノ計畫アリ  
メ又全國公衆ノ爲メ有  
都千百年紀念祭ヲ執行  
ル吾帝國人士ノ同感ヲ  
輝チ發揚セントス依テ

武天皇平安京遷都第一  
聖德愈隆ク皇威益震ヒ  
年ヲ閱シ唯舊シク政教  
クハ在住シ又ハ縁故ヲ  
將ニ此年ヲ以テ平安京  
併テ京都ノ益旺盛ヲ祈  
桓武天皇ノ宏徳大業  
リ況ンヤ京都ハ山水明  
國民ノ俱ニ瞻仰スル所  
ラル、所タルヘキチ

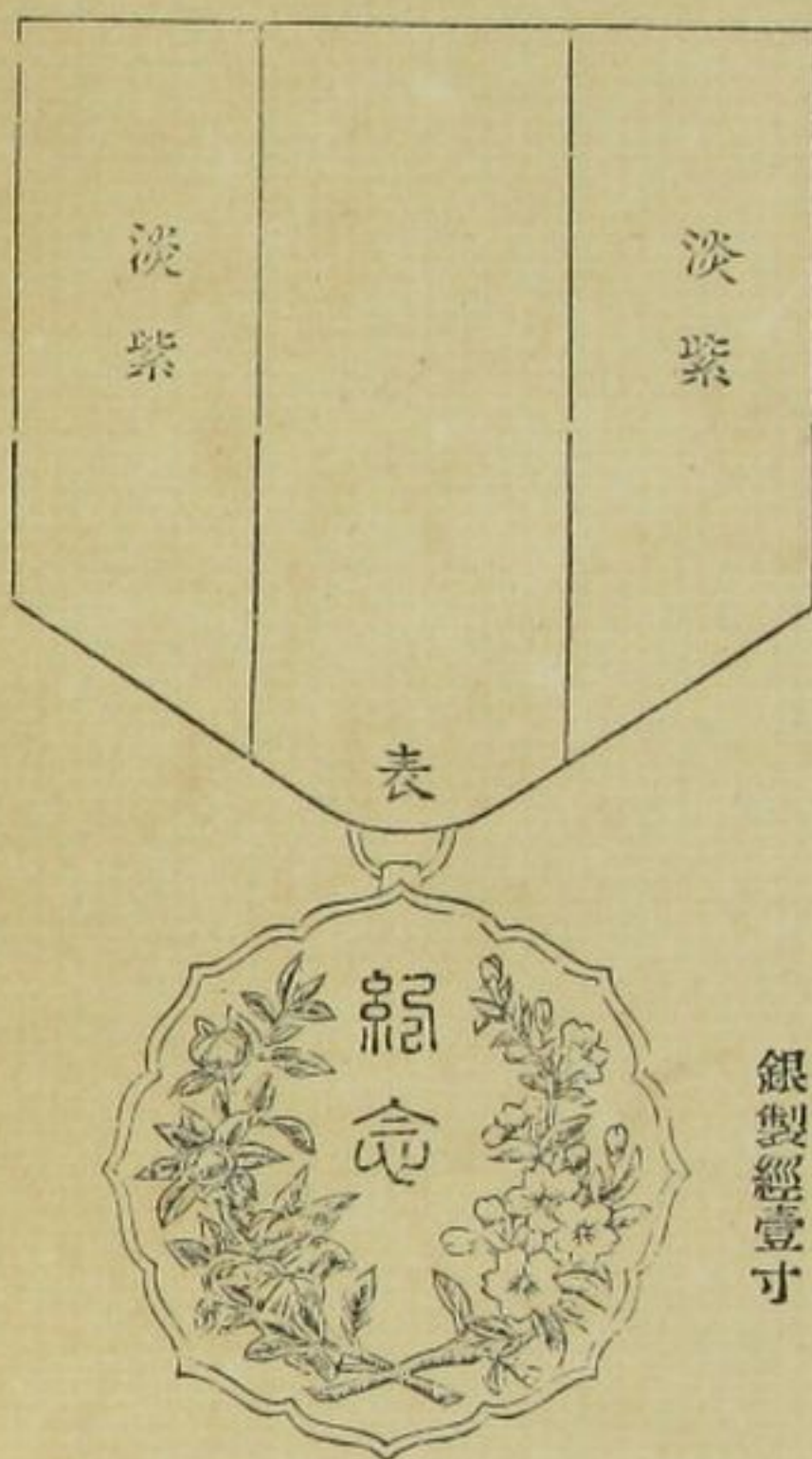
ニ協同シ其事業ヲ贊助  
支部ニ關スル事務ハ京  
拾圓以上ノ寄附者ヲ正  
別會員ハ會長之ヲ撰定  
會ノ事業中會長又ハ幹  
事ニ於テ會長ノ認可ヲ得  
ス副會長一名(會長ノ職務  
ヲ佐ケ會長  
ニ於テ之ヲ兼任ス)幹事十二名(本會ノ  
會ニ總裁ヲ置キ名譽會員  
數ヨリ囑托ス)〇第十二  
事ニ於テ之ヲ撰任ス 〇  
草ヲ贈ル 〇第十六條本  
會ニ係ル規程、評議員ニ  
務ニ必要ナル規程ハ評議

仰出サル

北 海 道  
滋 賀 縣  
宮 城 縣  
各 取 引 所  
靜 岡 縣  
佐 賀 縣  
山 梨 縣  
各 縣

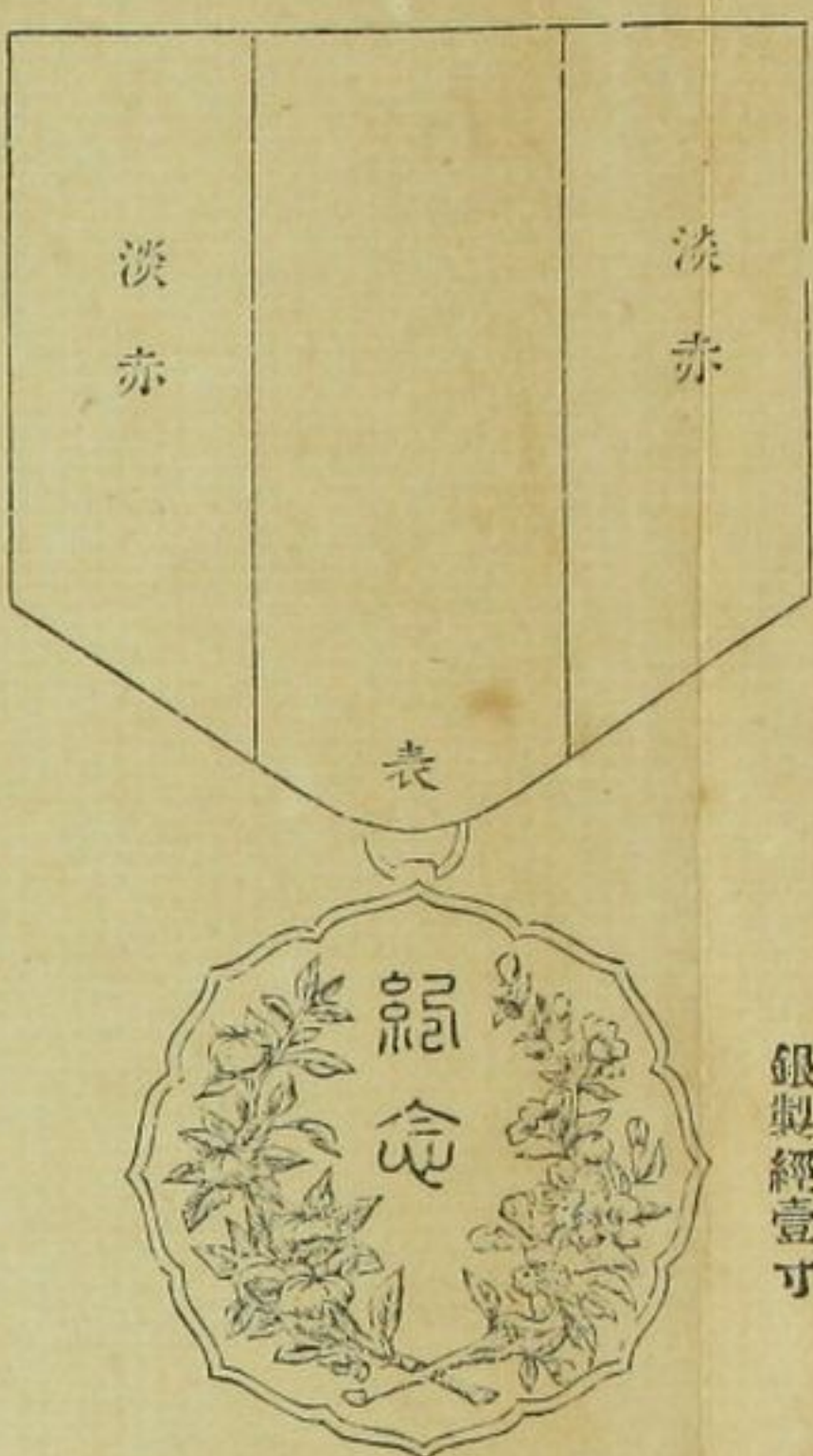
二十日調

第三種



銀製經壹寸

第四種



銀製經壹寸

紀念章及參拜章佩用者取扱順序

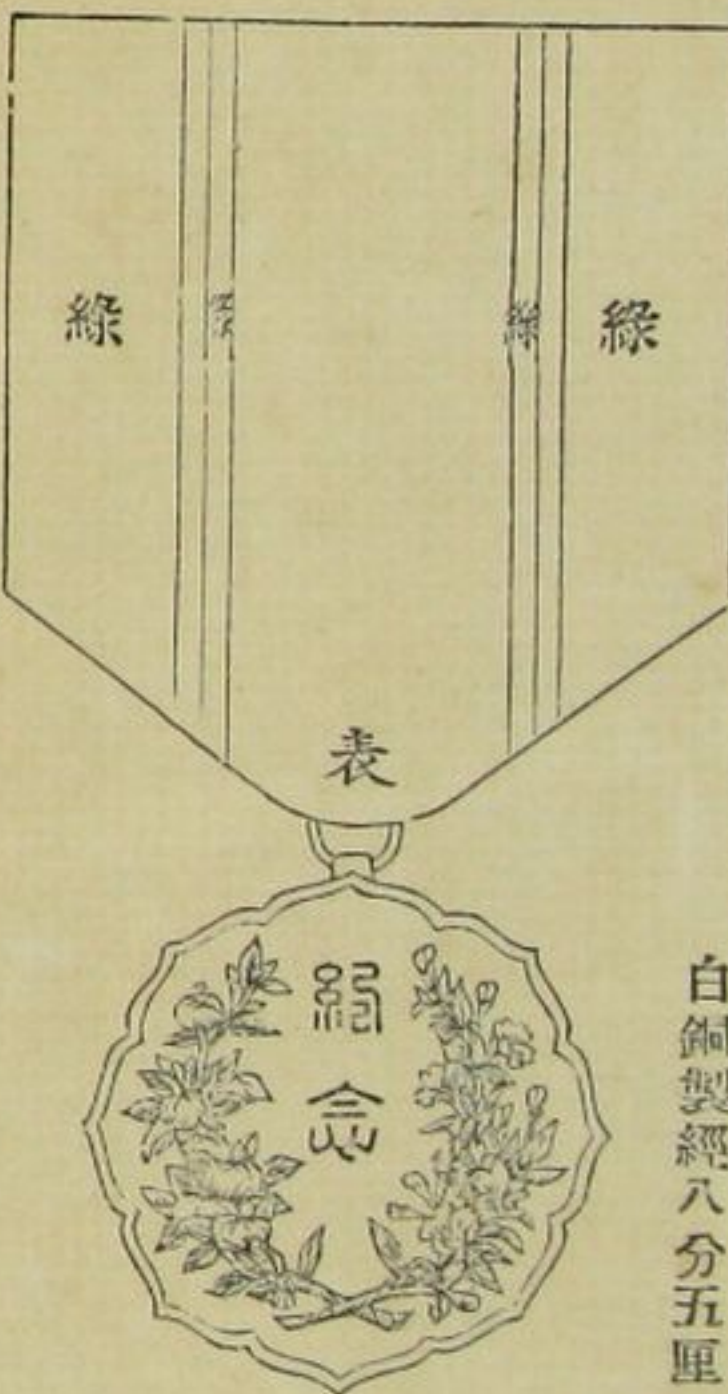
一 明治廿八年京都ニ於テ 桓武天皇平安遷都千百年紀念祭舉行ニ際シ紀念祭協賛會ヨリ交付シタル紀念章  
又ハ參拜章佩用者ニ限リ瀛車瀛船賃ノ割引ヲナスモノトス  
一 紀念章及參拜章所有者ニハ瀛車瀛船割引票ヲ交付スルモノトス  
一 割引票ハ往復二葉又ハ一葉トナスモノトス  
一 割引票使用日限ハ明治廿八年三月二十五日ヨリ同八月五日迄トス  
一 割引票ハ京都中心トシ東西兩部ニ分テ之ヲ發行スルモノトス  
但東部區域ニ屬スルモノト雖モ參拜ヲ終ヘ聯合區域内(伏見、奈良、大阪、堺、神戸、岡山、廣島、琴平等)ノ  
見物ヲナスモノアルニ付西部區域ニ屬スル割引票ヲ交付シ又西部區域ニ屬スルモノト雖モ參拜ヲ終ヘ  
聯合區域内(大津、彦根、伊勢、岐阜、名古屋等)ノ見物ヲナスモノアルニ付東部區域ニ屬スル割引票ヲ交  
付スルモノトス

一 東部ノ區域及乘車船賃割引左ノ如シ  
日本鐵道(一割) 兩毛鐵道(一割) 甲武鐵道(一割) 炭礦鐵道(一割) 總武鐵道(一割) 熱田日本共立瀛船(一割) 關西鐵道(一割) 參宮鐵  
道(一割) 大阪鐵道(一割) 阪堺鐵道(一割) 山陽鐵道(一割) 讚岐鐵道(一割) 日本郵船(一割) 關西同盟瀛船(一割) 大津太湖瀛船(一割) 奈  
良鐵道(一割) 淀川瀛船(一割)

一 西部ノ區域及乘車船賃割引左ノ如シ  
九州鐵道(一割) 筑豐鐵道(一割) 土佐郵船(一割) 阿波國共同瀛船(一割) 播但鐵道(一割) 山陽鐵道(一割) 阪堺鐵道(一割) 大阪鐵道  
(一割) 讚岐鐵道(一割) 關西鐵道(一割) 參宮鐵道(一割) 日本郵船(一割) 關西同盟瀛船(一割) 大津太湖瀛船(一割) 奈良鐵道(一割) 伊  
淀川瀛船(一割) 熱田日本共立瀛船(一割) 但關西同盟瀛船ハ大阪商船會社、共榮瀛船會社、宇和島運輸會社、伊  
豫瀛船會社、伊万里運輸會社、太湖瀛船會社、大川運輸會社、尼崎瀛船取扱共同組、山本組取扱瀛船、朝  
日運輸商店取扱瀛船ノ十社トス

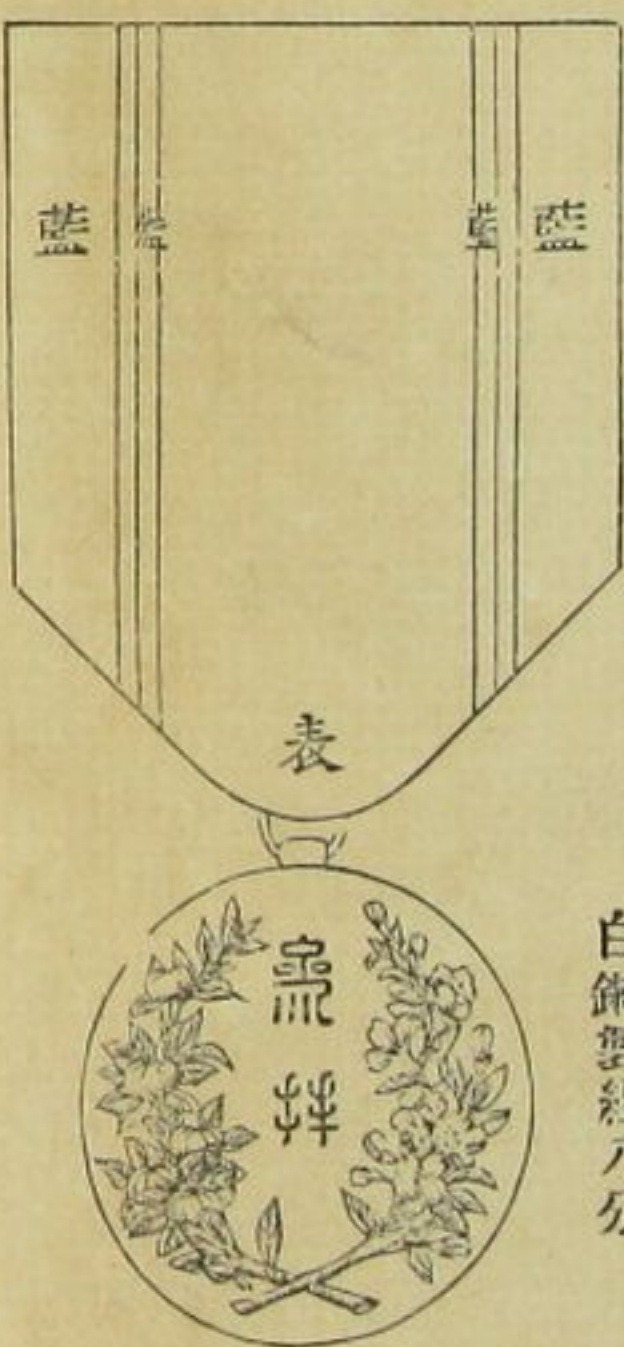
一 割引票ハ乘車船切符購求ノ際該會社ヘ交付スルモノトス  
一 官設鐵道ハ別ニ本會ノ乘車票ヲ要セス京都ニ往來スル者ニ限リ二割引ノ往復切符ヲ賣渡サル但四月一日  
ヨリ七月三十一日迄ノ外三月廿五日ヨリ同三十一日迄及八月一日ヨリ同五日迄ハ紀念章又ハ參拜章佩用  
者ニ限リ猶二割引ノ特典アルヲ以テ乘車切符購求ノ際ニハ佩用章ヲ掛官ニ示サルヘシ  
一 紀念章牌ハ京都又ハ東京事務所ヨリ之ヲ送付シ參拜章ハ各府縣支部長ノ手ヲ經テ之ヲ交附スルモノトス  
但土地ノ便宜ニ因リ他ノ方法ニ據ルコトアリ  
一 紀念章佩用者ニハ京都名勝地案内記ヲ贈ルモノトス但此案内記ハ平安神宮參拜神酒頂戴ノ際交付ス  
一 紀念章及參拜章佩用者ニハ豫メ勸杯票ヲ交附シ神酒及紀念盃頂戴ノ証トナス但此ノ勸盃票ハ參拜ノ節本  
會ニ交附スルモノトス

第七種



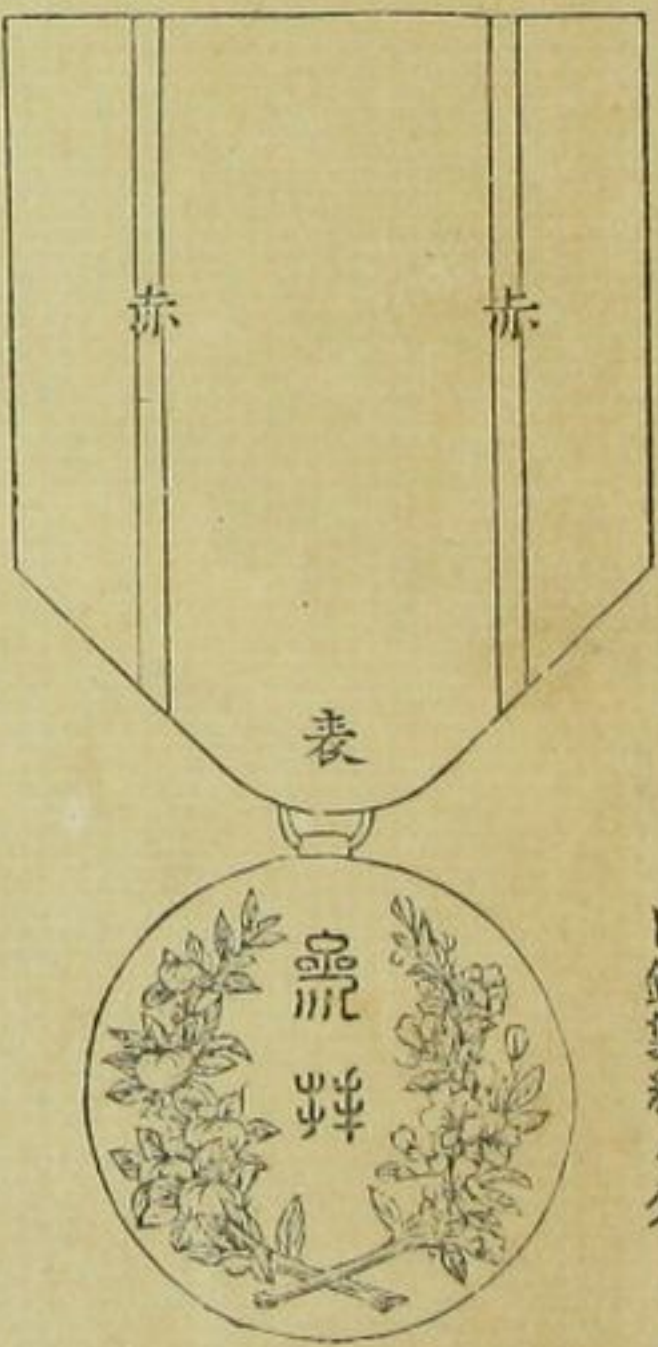
白銅製經八分五厘

參拜章



白銅製經八分

參拜章



白銅製經八分

明治廿八年 往(復)

何鐵道乘車船割引票

平安 京都 紀念祭協賛會

裏

何會社ハ明治二十八年京都ニ於テ  
舉行スル  
桓武天皇平安遷都千百年紀念祭協  
賛會ノ事業ヲ贊成シ該會社乘車(船)  
賃何割ヲ減シ本票發行ヲ承諾セラ  
レタリ

京都市上京區東洞院三條上ル  
村上勘兵衛  
編輯兼  
發行所  
同市同區押小路通東洞院  
東入左京町廿五番戶平民  
山崎嘉三郎 (非賣品)



僧紹 謀近江國師  
今年受戒僧事

僧最澄年廿

近江國滋賀郡吉布御座長下三津百津之高野  
里子預木一尤耐折上一

謀上伴僧以今年受戒已畢

國師承知

經於國司編附國外寺僧帳今以狀下降

到奉行

近江四年四月六日從義師常耀

大僧部 賢豫

少僧部 一行 賀

律師 玄憐

律師 玄憐

成儀師 常耀

成儀師 常耀



前關左衛門尉

靴子門

花院

内大臣 常雅

日野前大將 俊將

坊城中將 俊將

高松三位 直基

岩倉三位 直基

為村朝臣

重熙朝臣

房李朝臣

顯通

光香

大江俊包

北小路左衛門

北小路左衛門

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

大江俊包

看所

部屋

山田鐵舟の著書に於て其の著書七卷其の著書七卷

山田鐵舟の著書七卷其の著書七卷... 鐵舟の著書七卷其の著書七卷... 鐵舟の著書七卷其の著書七卷...

心法 第一 堪忍丸

柳以鐵舟の儀... 堪忍丸の効... 柳以鐵舟の儀... 堪忍丸の効... 柳以鐵舟の儀... 堪忍丸の効...

本家 松青堂復禮



僧紹

牒

近江國師

今年受戒僧事

僧最澄年廿

近江國滋賀郡古市鄉屋丘位下三津自淨之島姓野里子類太一尤耐折上一

牒

上件僧

今年受戒已畢

國師承知

經於國司編附國外寺僧帳今以狀下條

到奉行

大僧都督源

近和四年四月六日從義所常耀

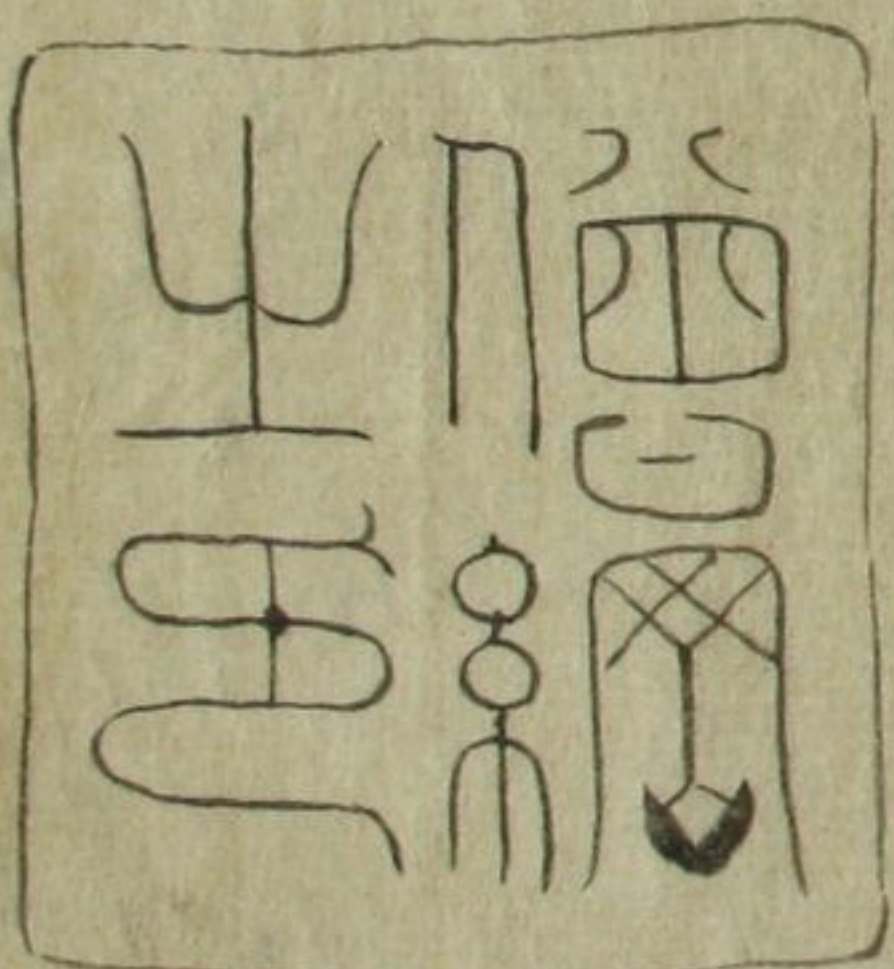
少僧都一行賀

威儀所明道

威儀所奉石

律師

律師玄悌





山岡鐵舟の幕府信葵觀世音菩薩略縁記



諸位閣下ニ懇請ス歴朝聖賢相忠臣ノ佛道ヲ信シ護法心ノ厚キ歴々トノ史乘ニ存スレハ云フマテモナケレハ就中  
禪風ノ隆ナル後醍醐天皇ノ御宇ヲ以テ最一ト爲スベシ今其ノ一二ヲ擧ゲニ後醍醐天皇ノ大燈國師ニ屢々  
大德ニ參シテ支壇補飲ノ擧アル藤原藤房卿ノ妙心寺ノ開祖關山ニ參スル(藤房卿冠テ掛テ諸方漫遊シ伊豆ノ國熱  
登リ妙心寺ノ開祖關山國師ニ參シ終ニ其道ヲ嗣キ妙心)楠正成卿ノ極後禪師ニ參スル(正成卿ノ湊川ニ一死  
第二祖宗慈禪師即チ授翁ト稱スルモノ同卿ノ事ナリ)當時ニ道ヲ求ムルノ熱心ニノ護  
時如何極後日兩頭俱斷一劍倚天寒云々極後日卿ノ問對舊參ニ下タラス云々)當時ニ道ヲ求ムルノ熱心ニノ護  
法ノ人ニ乏シカラザル想ヒ見ルヘシ又支那ニシテ唐宋ノ朝ヲ以テ禪風盛ナリトスヘシ上ハ天子名臣ヨリ下庶人  
ニ至ルマテ苟モ一世ニ學者ト云ハレ識者ト稱セラル、モノ多クハ禪風ニ浴セサルハナシ白樂天カ自贊ヲ捨テ、  
香山寺ヲ修メ東坡居士カ玉帶ヲ留テ以テ金山寺ニ施シタル皆是レ道ニ入ルノ深キヨリ支壇補飲護法ノ厚意ニ出ツ  
ルモノニ當時ニ傳テ以テ美談トセルヲ以テモ亦タ測リ知ルヘシ錢船居士モ近來古今ノ事ニ感スル所アリ聊カ禪  
風ノ興起ヲ計リ支壇補飲ノ微意ヲ致サントスルモ力ヲ能ハズ故ニ此ノ意ヲ勸化ニ寓シ善男子諸公各位閣下  
ニ就キ謹テ以テ請ヒ奉ル所アラントス諺サニ云フ財ヲ畜テ子孫ニ遺サンヨリ寧ロ徳ヲ積ンテ遺スニ如カ  
ズト各位閣下茲ニ一点ノ感覺ヲ發セラル、アラハ冥福ヲ修メテ善根ヲ培スルモノトシ一晚餐一粉紅ノ余金ヲ以テ  
多少ノ捐金アラハ謂ハユル隨喜ノ功德トヒニ早晚佛土ニ生スル豈ニ夫レ疑ヒアラシヤ豈ニ夫レ疑ヒアラシヤ仍テ  
今聊カ結縁ノ爲メニ葵正觀世音略縁記ヲ左ニ述フ但シ數千百年后ノ今日ナレハ或ハ事實上ノ誤傳免カレサルモ  
ノアルモ知ルヘカラズト雖ヒ結縁ノ一端ニ充ントノ隨喜諸公ノ雷看ニ供スルモノナレハ看公幸ニ之ヲ恕セヨ肅言  
普門山全生禪菴葵正觀世音大菩薩略縁記

如是我聞葵正觀世音大菩薩ノ尊像タルヤ今ヲ去ルコト大略二千八百餘年前釋迦如來在世ノ時キ南天竺ノ昆首羯磨ト稱ス  
ル殊ニ巧ナル天人ノ作ニシテ我人皇卅一代欽明天皇ノ御宇本朝ニ傳來シテ永ク今日ニ存スルモノト云フ宣哉十歷朝  
ノ列聖ヲ始トシ右大將賴朝室明將軍代々ノ深く歸依崇敬スル所ニシテ中比日列志布施ノ龍興山大慈寺ノ本尊トナリシ  
ヲ東照神君モ亦厚ク信仰アラセラレ當時ニ關ケ原ノ後起ルヤ徳川將軍家ノ忠臣諫死ヲ以テ其靈魂ヲ根津現權ニ祀フレ  
タル夫ノ根津宇術門ノ父某ヲシテ之ヲ脊ニ負ハシメ毎子ニ陣中ニ於テ信心ヲ盡サレ靈驗著シカリシトハ今猶口碑  
ニ存シテ世人ノ福縁ヲ求ムルモノ甚タ多シ後テ江戸城西丸ニ遷座爲シ給ヒ特更ニ徽章ノ葵字ヲ冠ラセ徳川家永世  
ノ守護佛ト致サレ毎月十八日ヲ以テ緣日ト定メ天下泰平万民富樂ノ爲メ祈禱ヲ行ナヒ觀音懺法ヲ修セシメラレタリシ  
トナリ二代將軍秀忠公ノ御愛姫即チ豊臣秀頼卿北ノ方天樹院殿大坂落城秀頼卿夢去ノ後チ老少擇ハヌチ觀世音ノ無常  
ヲ歎コチ恆ニ此葵正觀世音ヲ念持佛トシ信心淺サカラザリシニ屢々靈夢ノ感應空シカラサルカ爲メニ父君秀忠公ニ哀  
訴セラレタルニ依リ特命ヲ以テ慶安二年天樹院殿ノ侍女形部卿ノ局ヲ以テ開基トシ勅諭佛知大通國師ヲ以テ開山トシ  
タ更ニ靈地ヲ江都大塚上街ニトシ曩ノ日列大慈寺ノ寺号ヲ延用シ普門山大慈寺ト稱スル一字ヲ建立シ葵正觀世音ヲ安  
置シ朝暮香花ヲ薰炷スルコト茲ニ數百年ナリシニ適々王政維新ニ際シ故アツテ駒込龍興寺ニ遷座在マセシ山岡鐵舟居  
士ノ聞ク所トナリ今川貞山禪師ノ周施ヲ以テ之ヲ居士ノ家ニ奉迎セラレ東照神君ト天樹院殿ノ往事ヲ追念シ其遺志ヲ  
數百年ノ今日ニ慰サメ并セテ自他ノ冥福ヲ修セント曾テ供養忘ルコト無カリシトナリ然ルニ本年一月居士モ何ンソ思ナ  
寓スル所アラセラレハ、ナランカ大誓願ヲ發セラレタル由チ以テ越中州法慘派本山國泰寺現住越叟禪師ト謀リ谷中初  
音問ニ於テ普門山全生禪菴ヲ創立シテ恭シク葵正觀世音大菩薩ヲ安置シ普チク世人ヲシテ大慈大悲ノ功德ヲ感得セ  
シメント終ニ此舉ニ及ハレ目今其計畫中ナリ嗚呼心ヲアラシモノハ二世ノ結縁アラマホシ  
因ニ云フ全生禪菴ハ十六年一月以來彼是ノ因緣ヨリ生スル賛成寄附諸公己ニ掲標スルカ如ク數百名ニ至ルモ素ヨ  
リ隨喜ノ芳志ヨリ發スル多力ヲ集メ多シテ數百圓少シテ數圓錢ノ金ヲ積ミ結果ヲ期スルヲ以テ未タ現集金原  
資豫算參方五千圓ニ滴タザルカ故ニ是ヨリ尙ホ進ンテ廣ク善男女諸公ニ就テ勸化ヲ試ントス若夫レ幸ニ多力ノ功  
徳ヲ積テ速ニ落成ヲ見ルアラハ本懷ノ至リニ堪ヘズ然リ而ノ隨喜諸公ノ芳名ハ永ク當菴ノ過去帳ニ記載シ毎日課  
誦經ノ次之ヲ朗讀シテ以テ冥福ヲ祈リ聊カ報酬ニ對ントスルナリ故ニ幸ニ寄附金アラントセラル、諸公ハ金ノ多  
少ヲ論セズ芳名ヲ記セラレノコト請フ





前關古橋長

稚子門

花山院

大臣

常雅公

日野前大納言

資時公

坊城中納言

俊將公

高松三位

重季公

岩倉三位

道具公

冷泉中將

為村朝臣

庭田中將

重熙朝臣

園池中將

房季朝臣

勸修寺石少辨

顯通

北小路左衛門權佐

光香

北小路極臈

大江俊包

出納

職南

御厨所預

守直



王殿寶座

被進脱素服

還御

先倚座殿上、附「夫」北陣

女孺口

倚座之殿上、桑大臣、極觸取指端

渡御

先殿上、附「夫」北陣、被進着素服、

番所

部屋











# 漢諸名家翰香館法帖藏板目錄

此書之於世也久矣其於法帖之於世也尤久矣其於法帖之於世也尤久矣其於法帖之於世也尤久矣

淳化法帖 王著本 箱入 十帖 牡丹詩 李邑 一帖 米元章十八公贊 一帖 秣陵帖 董其昌 一帖

同釋文 左板 上下 二冊 夫子廟堂碑 虞世南 一帖 蕪湖縣學記 米元章 一帖 求忠書院記 行書 一帖

二王帖 上中下 六帖 九成宮醴泉銘 虞世南 一帖 十札法帖 子昂 草書 一帖 後赤壁賦 同 一帖

同釋文 三帖 虞恭公碑 同 一帖 老子道經 小楷 一帖 月鈞帖 同 一帖

石室孝經 李宗皇帝 箱入 四帖 皇甫誕碑 同 一帖 寶雲寺 行楷 一帖 來仲樓 同 一帖

秦漢瓦當展風 十二枚 吳文碑 義之集字 一帖 崇禧萬壽宮碑 同 一帖 徐氏家訓 同 一帖

曹全碑 漢隸 一帖 實際寺碑 同 一帖 白雪齋 唐詩行草 一帖 畫音 同 一帖

同碑陰 同 一帖 汝南公主墓誌 同 一帖 晚翠帖 同 一帖 正陽門廟碑 同 一帖

七佛聖教序 羲之 集字 一帖 枯樹賦 褚遂良 一帖 梅花十絕 同 一帖 第氏家傳 同 一帖

同州聖教序 一帖 鴈塔聖教序 同 一帖 歸去來辭 同 一帖 昕樂帖 同 一帖

唐人真蹟帖 一帖 玄秘塔 柳公權 一帖 天冠山 同 一帖 普門品 小楷 一帖

同十七帖 一帖 多寶塔 顏真卿 一帖 廣福寺碑 同 一帖 紫陽菴譜 同 一帖

蘭亭記 肥瘦 二體 一帖 御史臺精舍碑 同 一帖 衛生歌 同 一帖 如來成道記 同 一帖

思古齊蘭亭 一帖 博塔銘 敬客 一帖 相近帖 同 一帖 孤山寺 同 一帖

冠圖蘭亭記 一帖 草決辨疑 一帖 蘭亭十三跋 同 一帖 山靜帖 大字行書 一帖

天朗帖 一帖 同百韻歌 一帖 真草千字文 同 一帖 劍合齊董帖 同 一帖

孫過庭書譜 一帖 周府君碑 羲之 一帖 佑聖觀碑 同 一帖 卞把帖 同 一帖

同 傳雲本 一帖 聖母帖 一帖 浣花帖 同 一帖 蘭花帖 同 一帖

同書千字文 草書 一帖 吐痛帖 一帖 艾君蠅賦 同 一帖 陳氏神道碑 一帖

同跋十七帖 一帖 自叙帖 一帖 書錦堂記 同 一帖 西虹帖 文徵明 一帖

趙摸千字文 行書 一帖 大智禪師碑 八分 一帖 古樂府 同 一帖 聖主得賢臣頌 小楷 一帖

智永千字文 真草 一帖 絕交書 唐人 草書 一帖 長吟帖 同 一帖 學館碑 同 一帖

褚遂良千字文 行 一帖 鶴鴒賦 一帖 行書千字文 同 一帖 前後赤壁賦 同 一帖

千金帖 懷素獨草 一帖 羲之草洛神賦 一帖 太湖帖 同 一帖 書錦堂記 同 一帖

岳鹿寺碑 李邑 一帖 縮字九成宮 一帖 龍興寺碑 同 一帖 錢詠千字文 八分 一帖

法華寺碑 同上 一帖 同臨本聖教序 一帖 秋真賦 同 一帖 右之外諸名家真蹟

葉有道碑 同上 一帖 宣和千字文 徽宗皇帝 草書 一帖 義田記 趙雍 一帖 年二歲二上石

雲麾將軍 同上 一帖 東坡小楷 歸去來并詩 赤壁前後 一帖 骨董十三說 其昌 行草 一帖 新渡古渡全碑法帖品五

右之外。軸物。掛額類。交張物。各一枚。摺心。左板。唐本。復刻。書法正傳。虞山潘先生編輯。全十卷。晉漢以來諸名家書論法帖。原庭街。錦霞室。杉本。

正面。額彫。自然彫。不刻。藥研刻。捐法。建石。御好次第。雙鈞。肥瘦。飛白。等。影書。勿論。飛白。有法。江本所。原庭街。錦霞室。杉本。





### 故岡山學士言行錄編纂方法提要

故岡山學士の言行を不朽に傳へん爲め諸友相謀り君の詳傳を編纂せんとす冀くは君と  
 熟交ある諸君此舉を賛せられ同君の言行にして録するに足る者は事の公私を問はず細  
 大共に左の方法に従ひ投稿あらんことを冀望す

一故岡山學士の言行録は假りに梧堂言行録と名く  
 一梧堂言行録記録の項目は大略左の如し

- (一) 肖像
- (二) 序文
- (三) 詳傳
- (四) 逸事
- (五) 祭文 吊詞
- (六) 遺稿

一募集の材料は大略左の如し

- (甲) 故岡山學士手稿の論文、紀行、詩歌、俳句等
  - (乙) 同學士の言行を徴し得べき手記の書翰
  - (丙) 辯護士として同學士のなせし訴訟上の逸事
  - (丁) 講師として同學士の教育上の逸事
  - (戊) 代議士として同學士の議院に於ける言行
  - (己) 談論及び雑話(法律政治經濟に關する君の談論、談話滑稽の瑣談、君の癖、君の嗜好等を包含す)
- 一逸事編纂の趣意は紀傳を補ひ故學士の爲人を細微の點まで寫出すに在るを以て奇癖失錯等は總て修飾を用ひす有りのまゝに記すべし亦すべて文體の如何を問はざるを以て思ひ出らるゝまゝ、端書にて通知せらるゝも可なり
- 一募集材料の内故學士が手記に係るものは可成原書を送附せられたし他見を厭ふ書翰の如きは殊に材料となるべき部分を騰寫して送らるゝも可なり但し送附の原書はすべて返濟すべし
- 一寄送する原稿には必ず投稿者の宿所姓名を明記すべし
- 一投稿はすべて京橋區五郎兵衛町二十番地昆田文次郎へ宛送らるべし
- 一投稿の切期限は七月二十日とす
- 一本書出版期日は豫じめ八月下旬と定む
- 一本書出版の舉を賛せらるゝ人々は七月十日まで印刷費の補助として金二十錢以上金二圓以下の義金を京橋區五郎兵衛町二十番地昆田文次郎へ宛送られたし
- 一本書出來の上は此舉を賛せられたる人々に各一本を進呈すべし
- 明治廿七年六月十七日

### 友

井上圓了 市島謙吉 稻田周之助 鳩山和夫 林龍太郎 原嘉道 花井卓藏 奧田義人 小川爲次郎 岡崎平四郎 金井秀馬 桂田早苗 高橋健三 高橋早三 田橋原榮 坪内捨藏 中橋徳五郎 植村俊平

### 人

久保扶桑 黒川九馬 山田喜之助 山田六一郎 増島六郎 昆田文次郎 小田豊太郎 江木爲之 天野正之 淺野爲之 岸田正之 菊地武三 浦地武三 三浦力太 三谷龜之助 土谷方 元田雄 砂川雄峻 (姓名イロハ順)





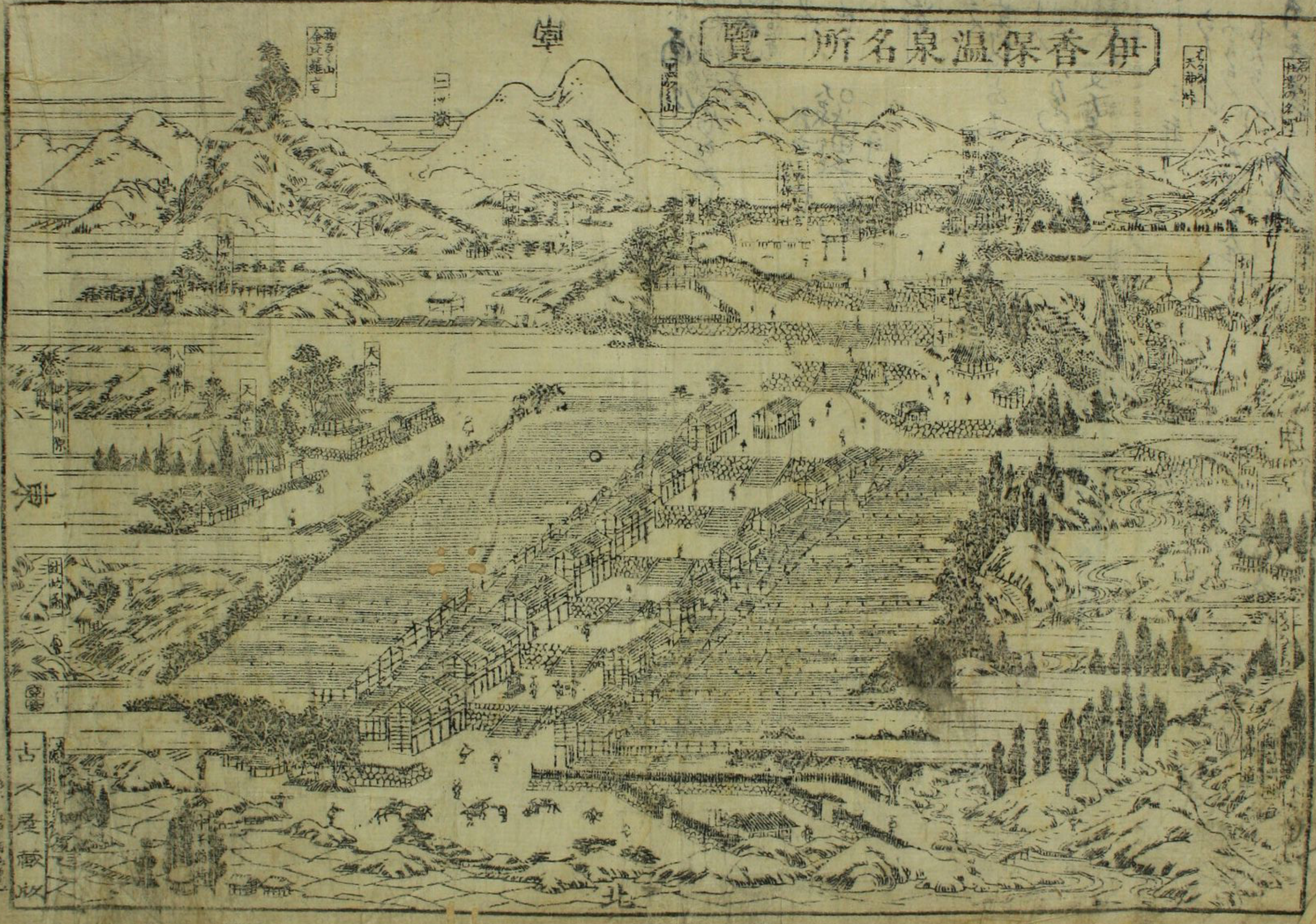


4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180





松  
夕風を  
夕風を  
夕風を  
夕風を



古入屋敷

東

伊香保温泉名所一覽

嶽

松山

天宮

松山

天宮

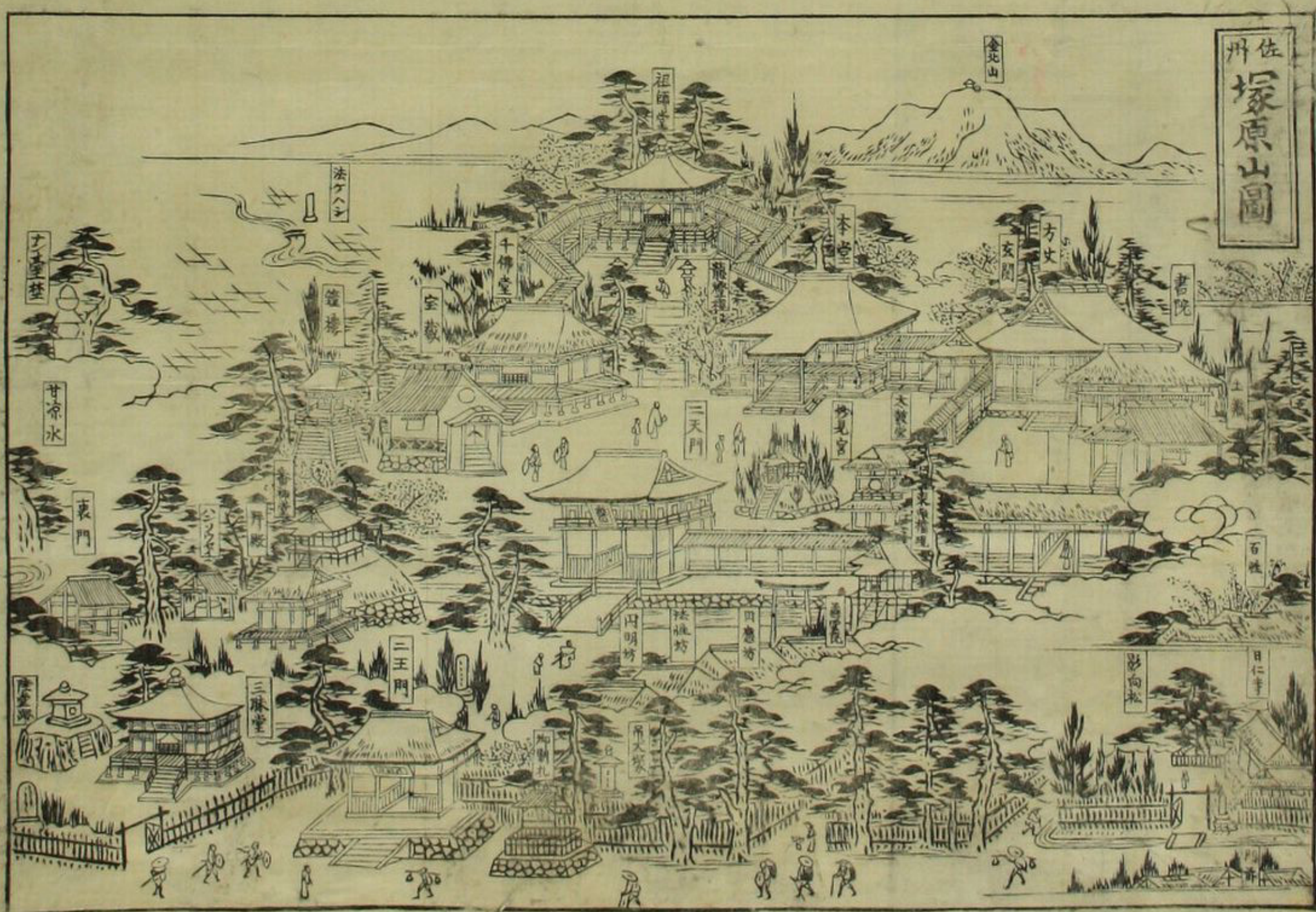
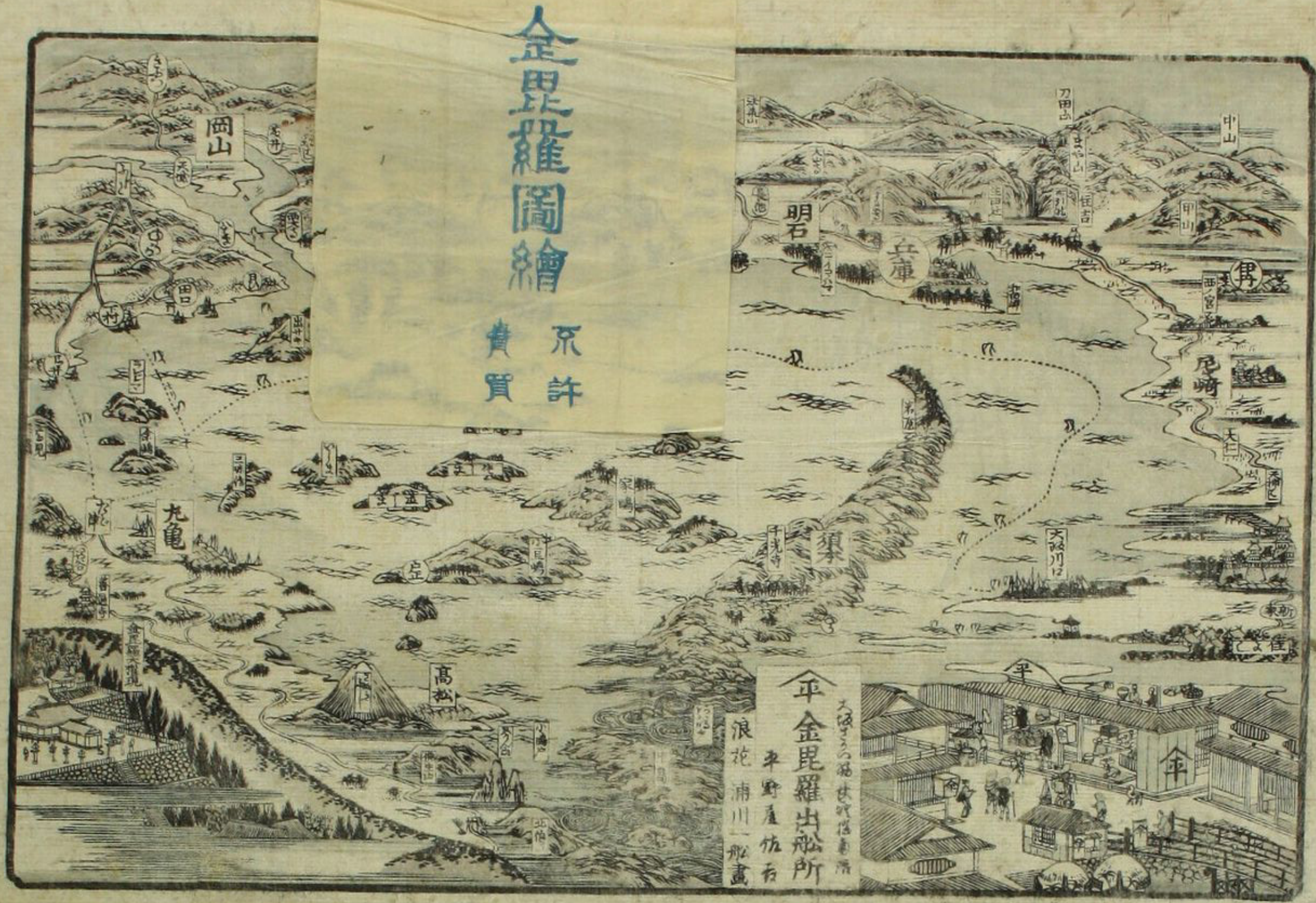








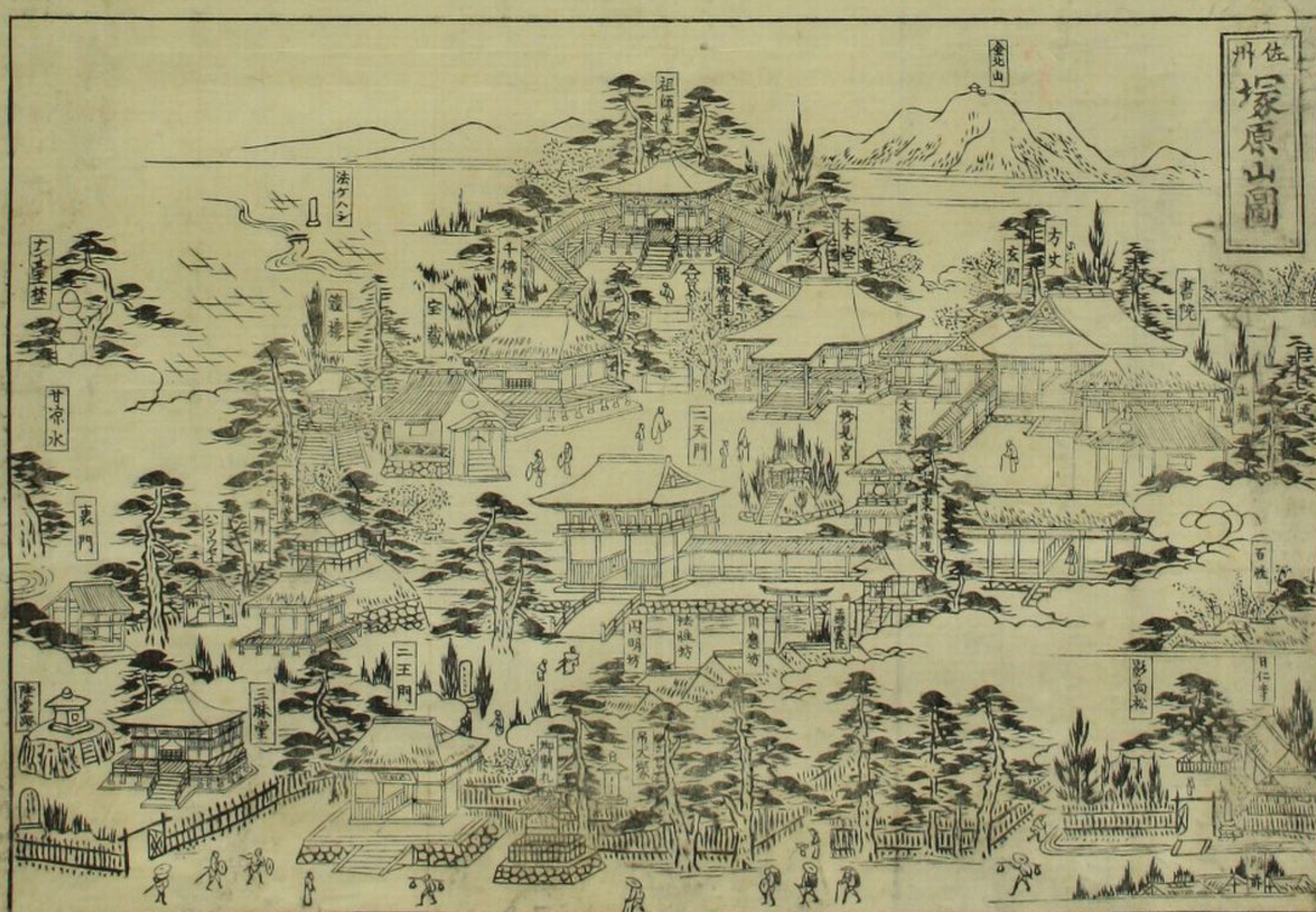
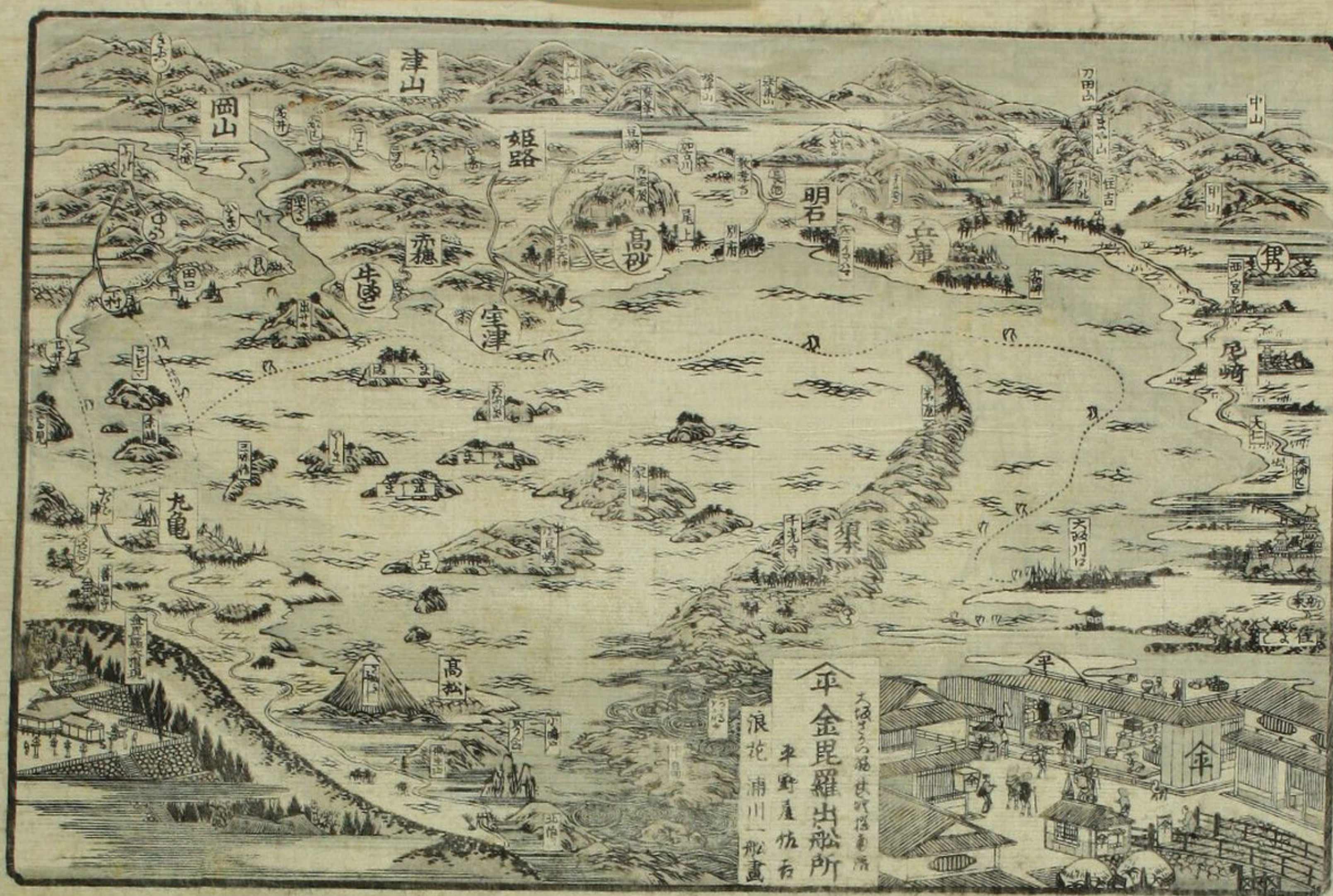




6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7



京都府 丹波郡 高砂町 高砂町 高砂町





7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2

金毘羅圖繪

許 不  
買 賣



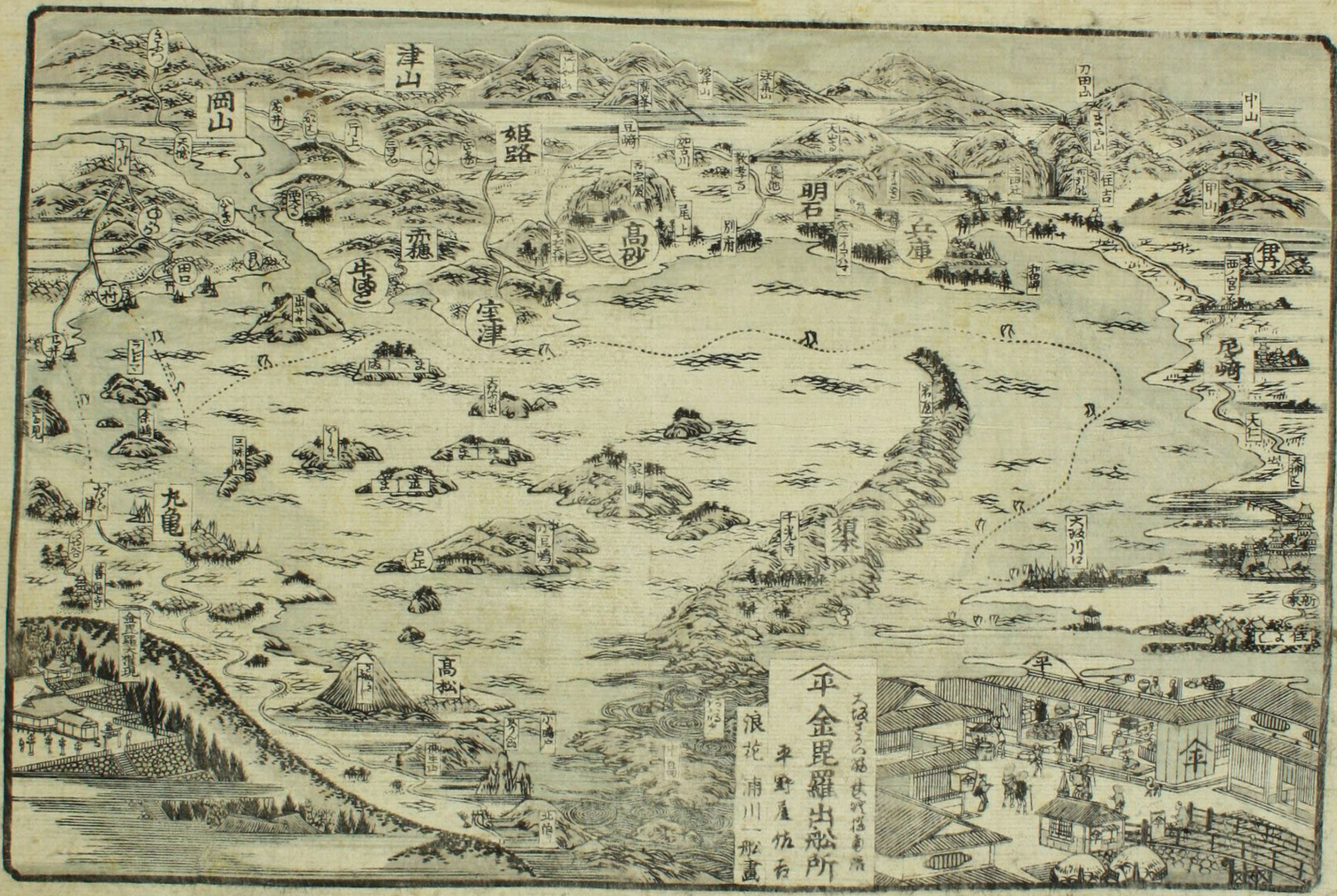
平金毘羅出船所

浪花浦川一船畫

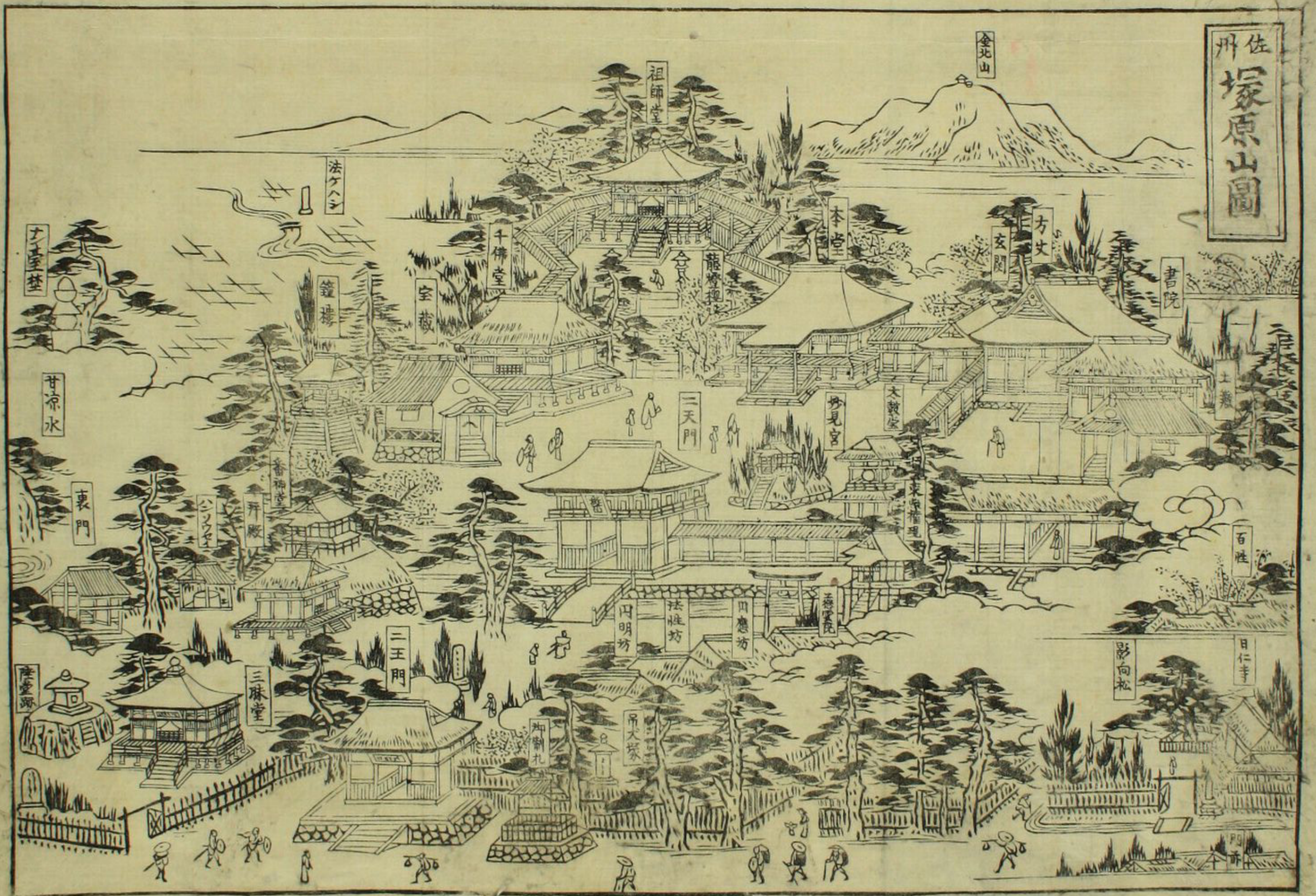




全日本圖



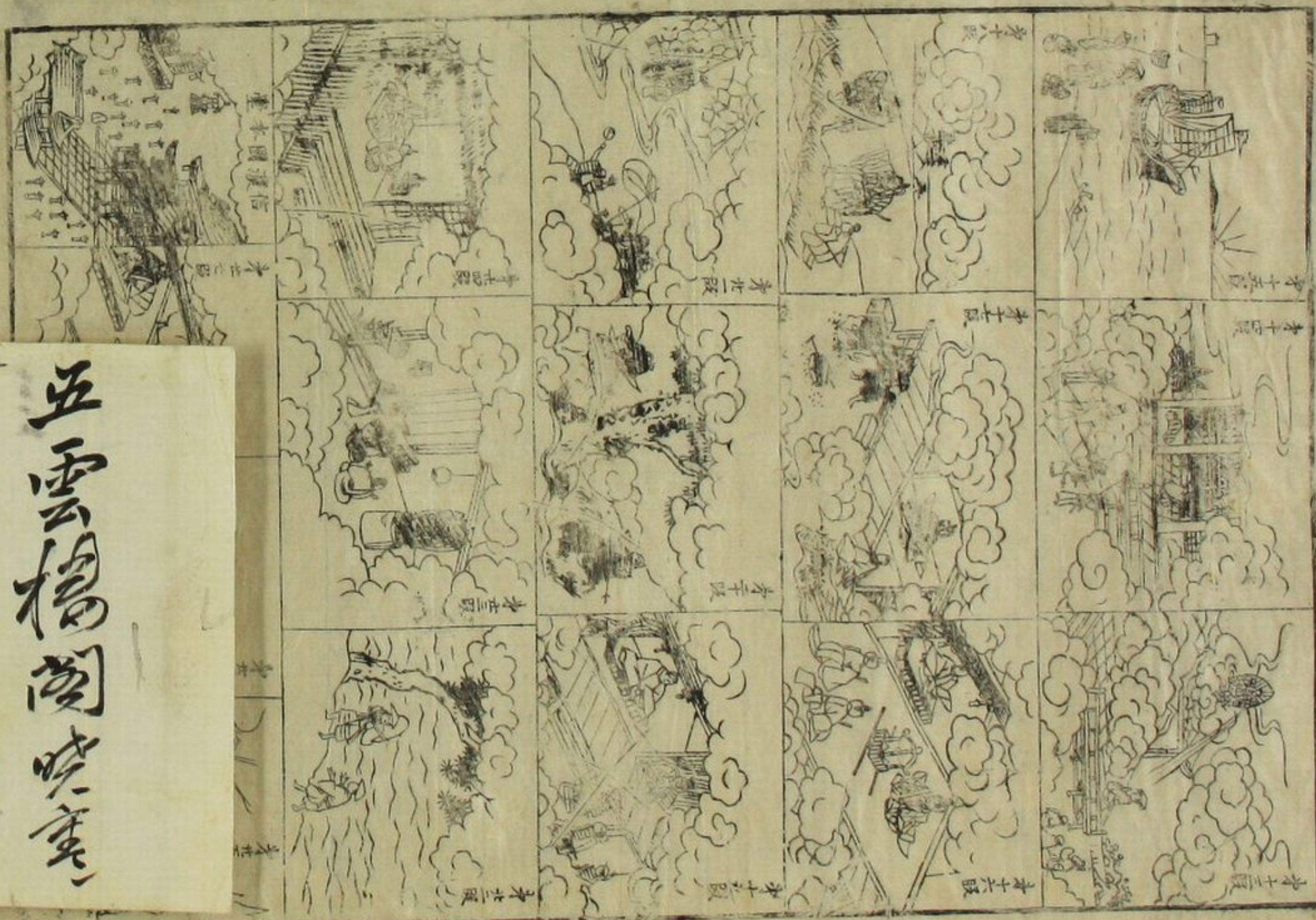
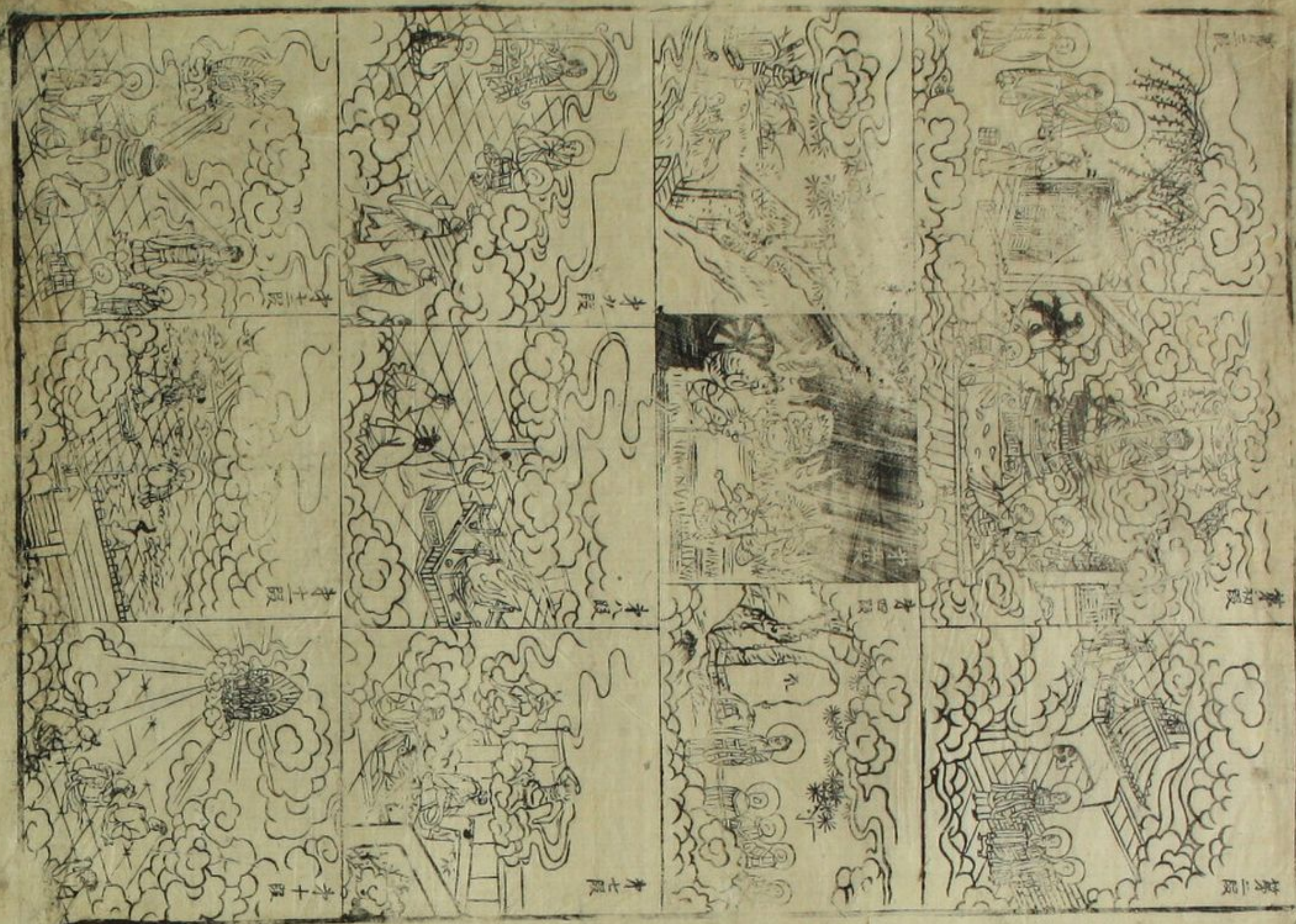












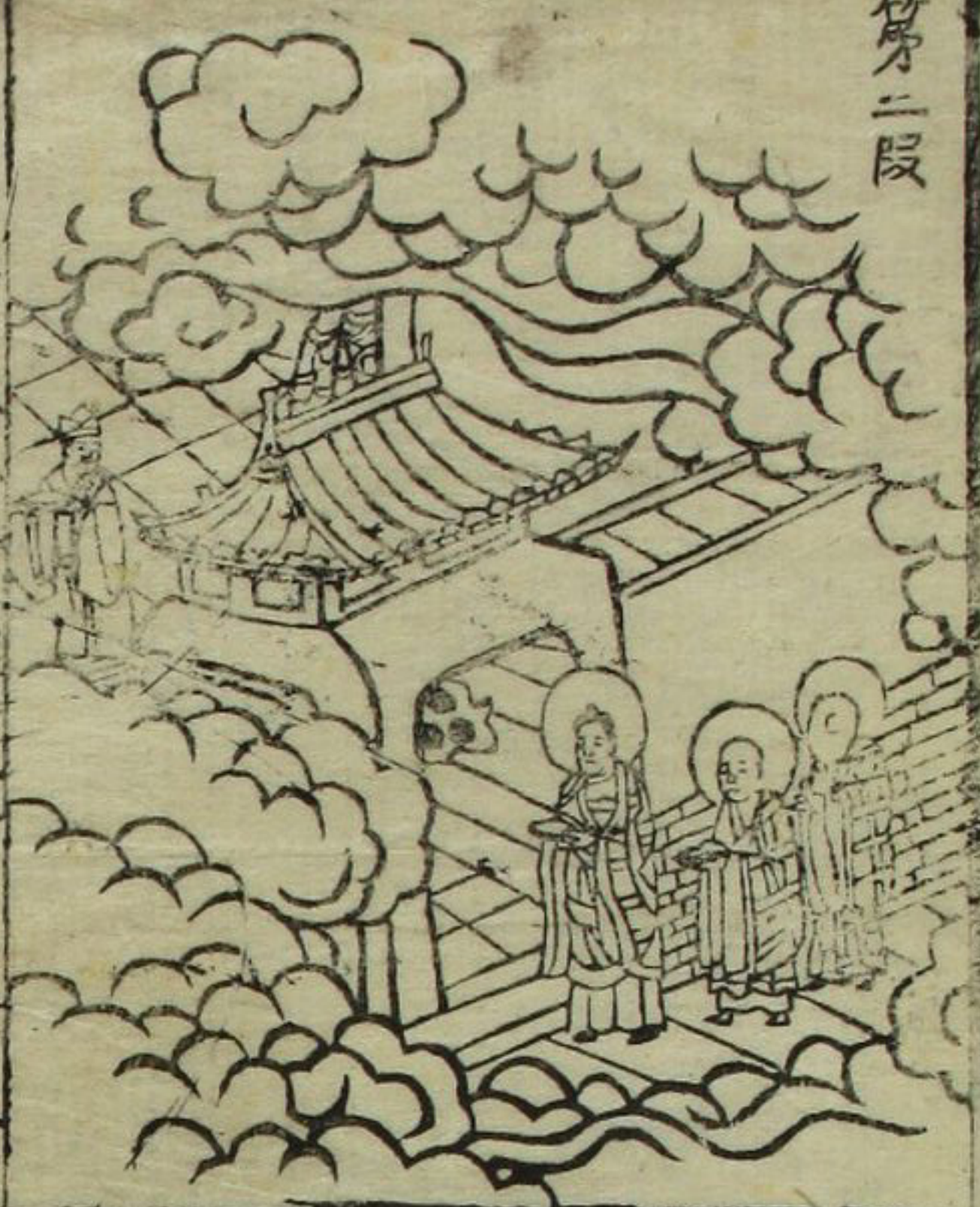
此後先づ...  
 名...  
 十...  
 高...  
 一...  
 自...  
 五...

意氣慨然說  
 尊攘首唱動  
 高醉古狂鯨濤  
 夢破大月暗英  
 雄心化劍龍霜  
 我不同臭齋魯欲  
 徒揮淚耳醉洒  
 一臺故人少金  
 宜快破此之  
 天朝恩賜餘  
 岩代國巡幸使  
 能從啓行之日  
 枉路詔亡文賴  
 子壽之墓坊作  
 耕未定稿

五雲楊尚...  
 昔之復東...  
 狼烽正雅難  
 廣穆公妙大  
 力遠如之憲宗  
 踪在名侯仔亦  
 然從清耳一...  
 西 楚鐘回首惟  
 樹犬山嶺梓川  
 依舊原...  
 應徵入京適典  
 羽平...  
 事  
 務津堂重光



第二段



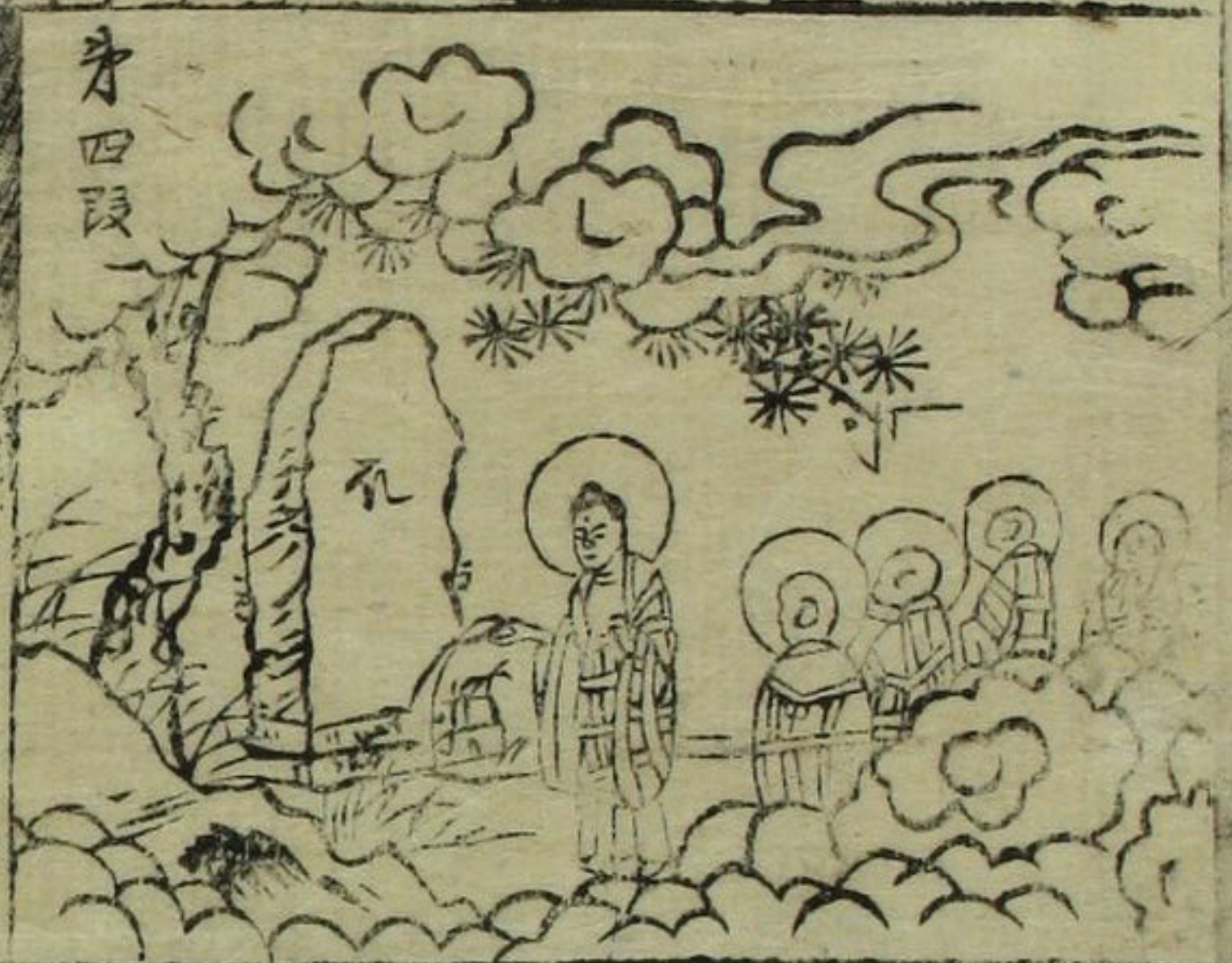
第初段



第三段



才四段



才九段



才八段



才七段



才十二段



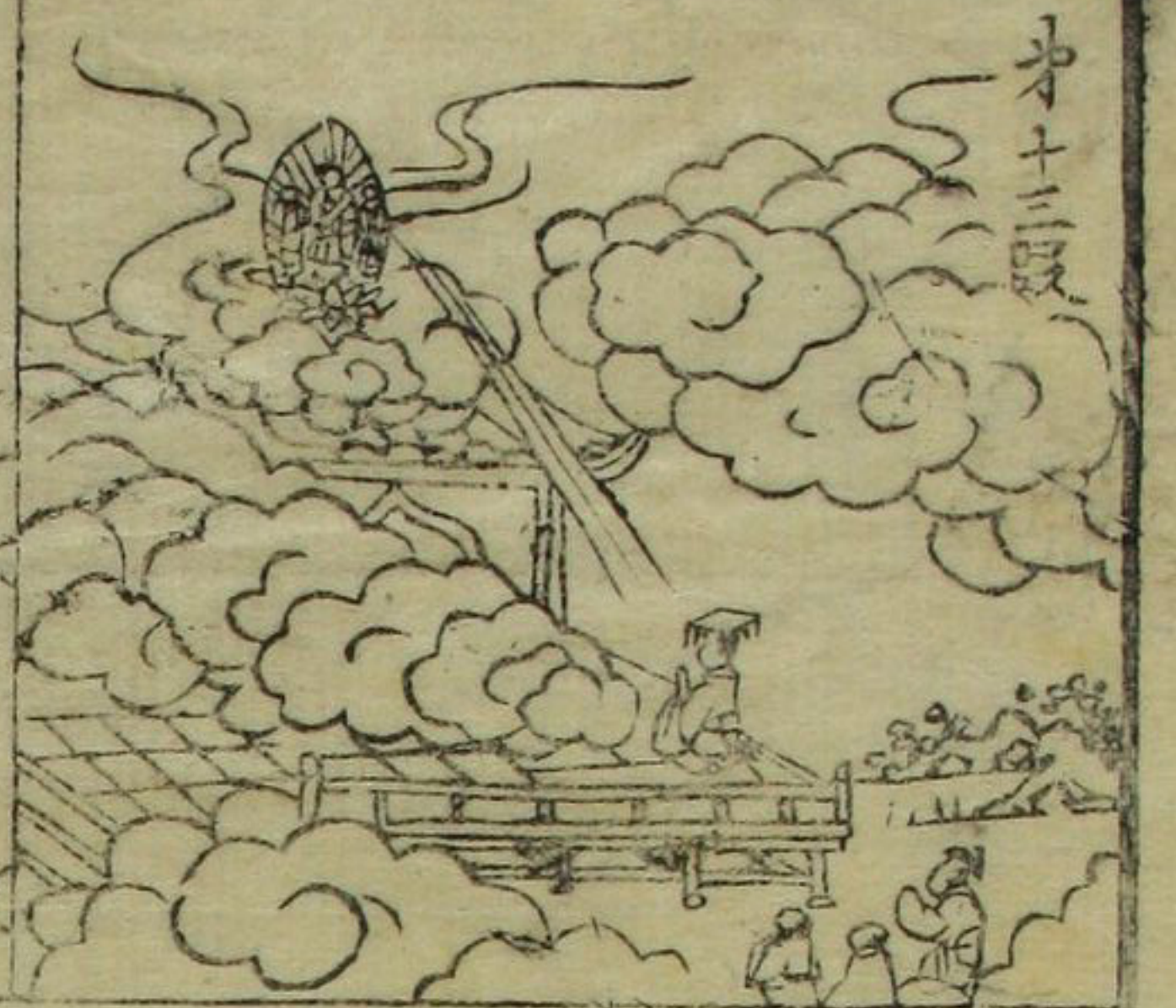
才十段



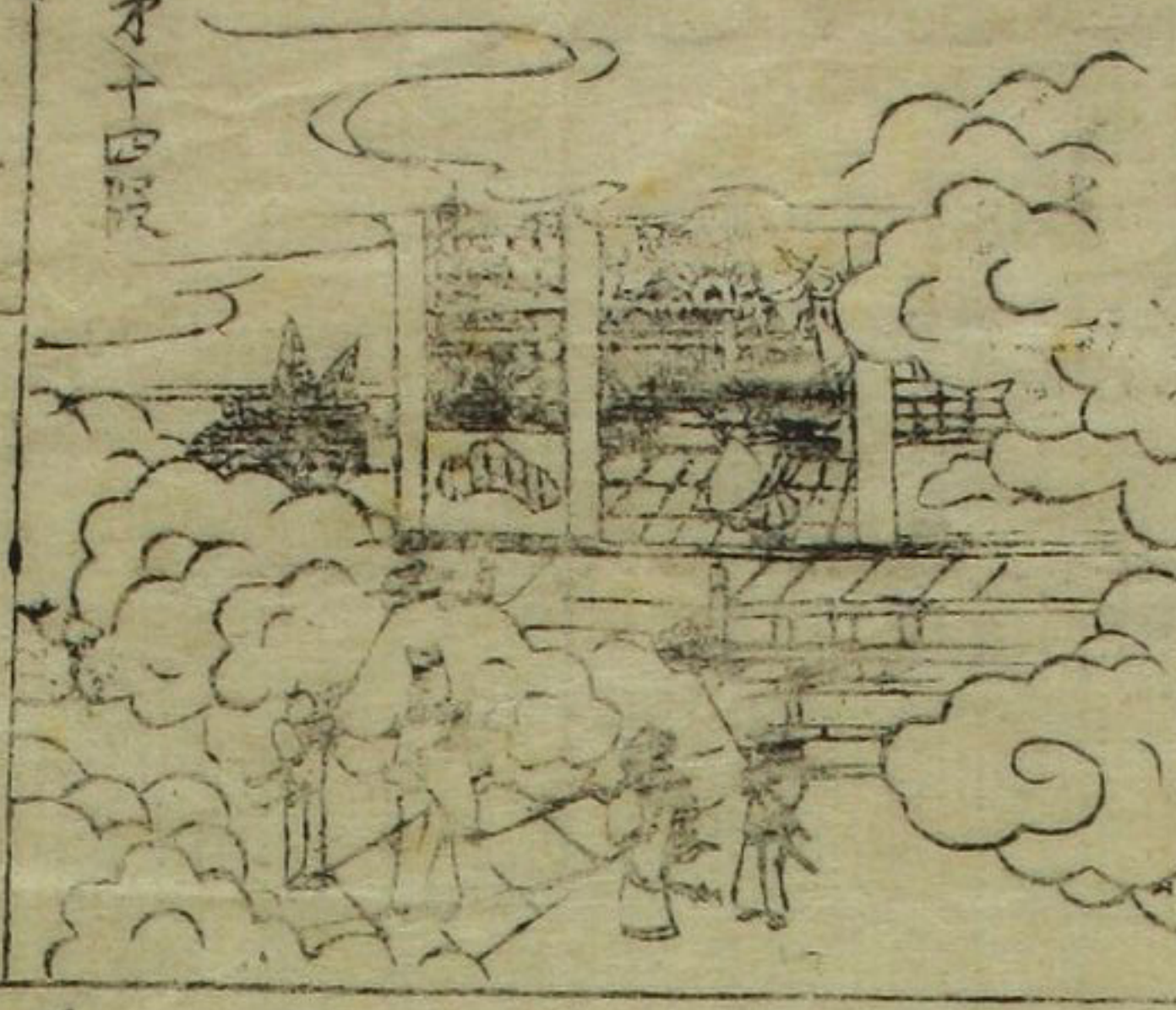
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



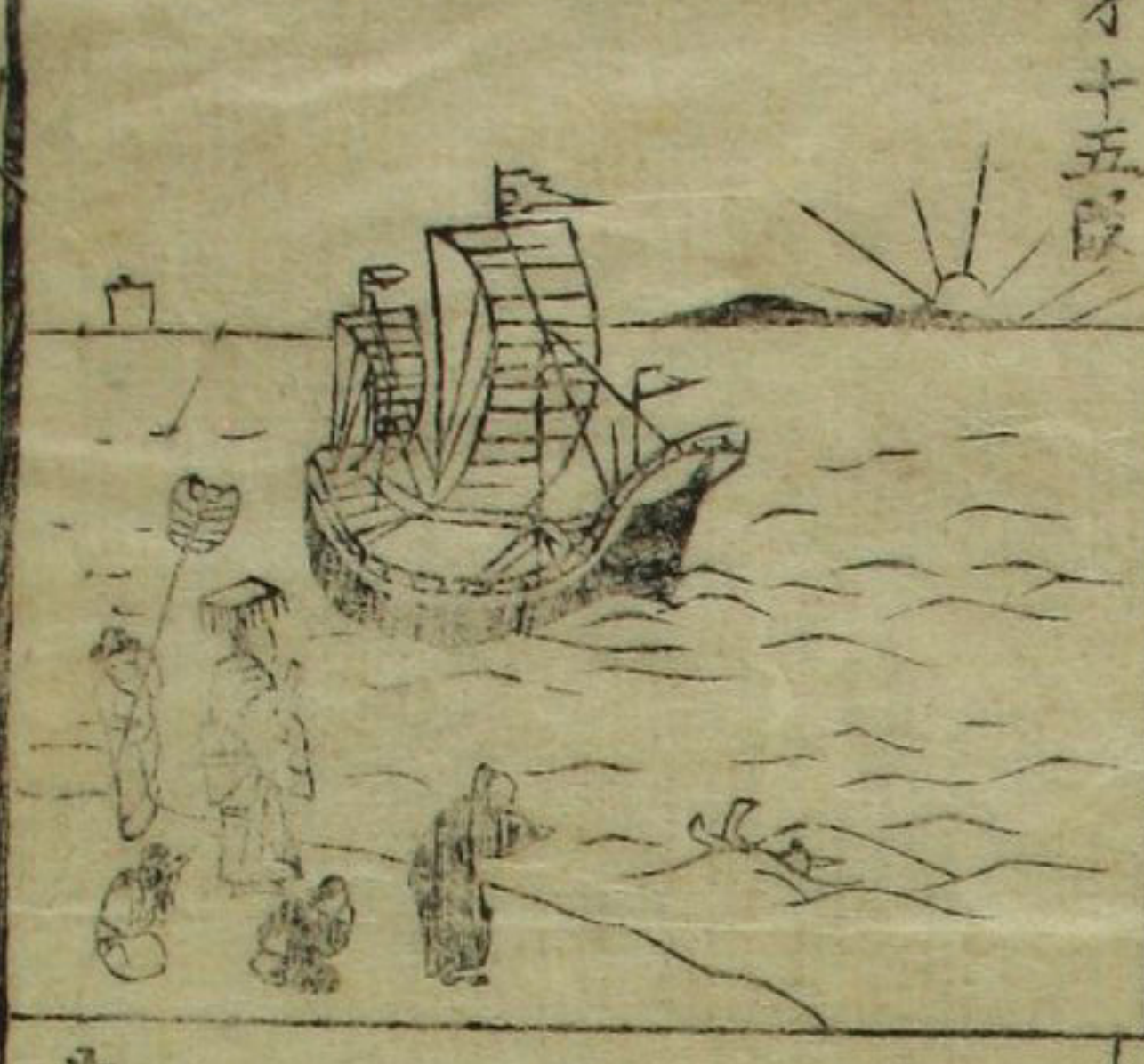
第十三段



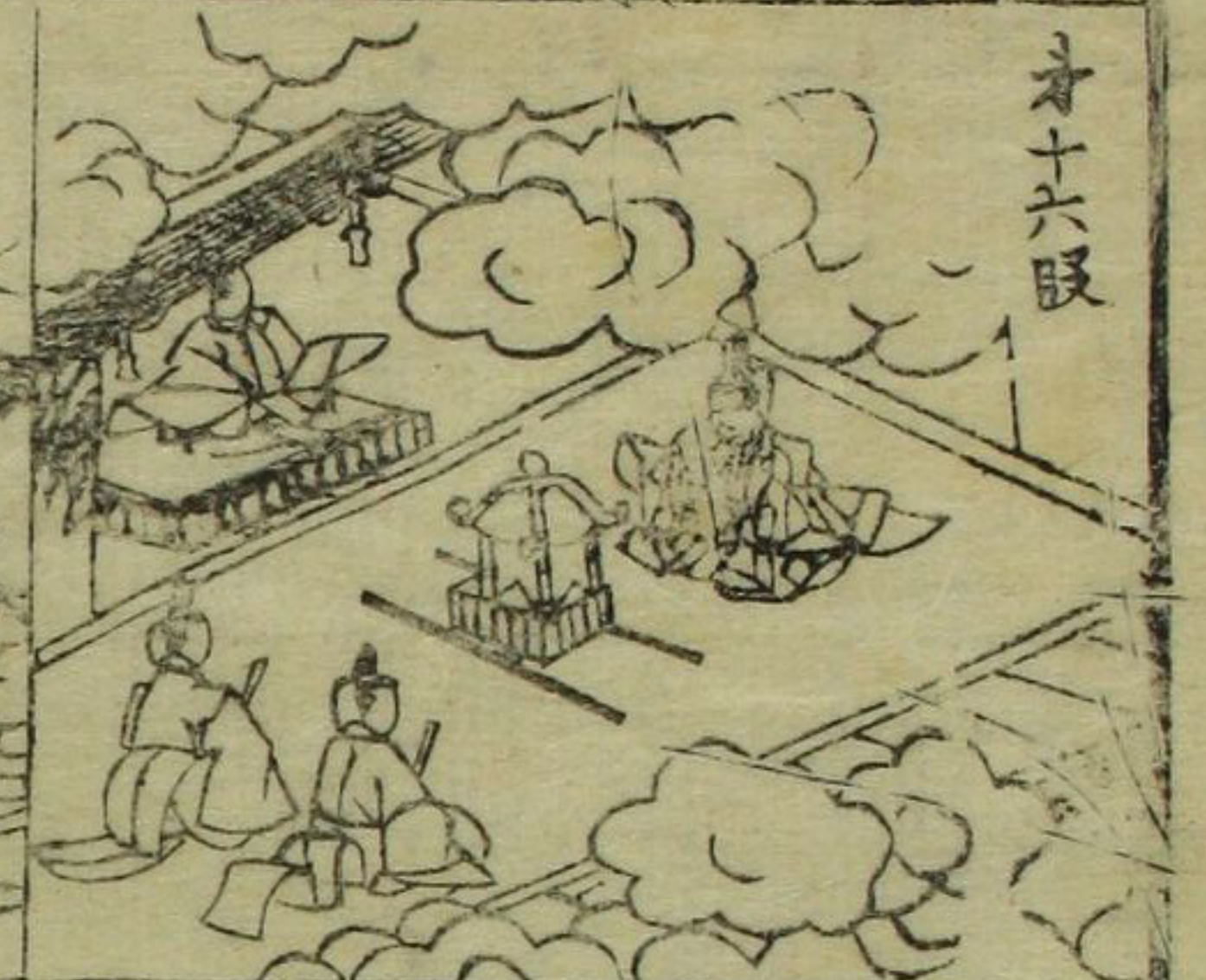
第十四段



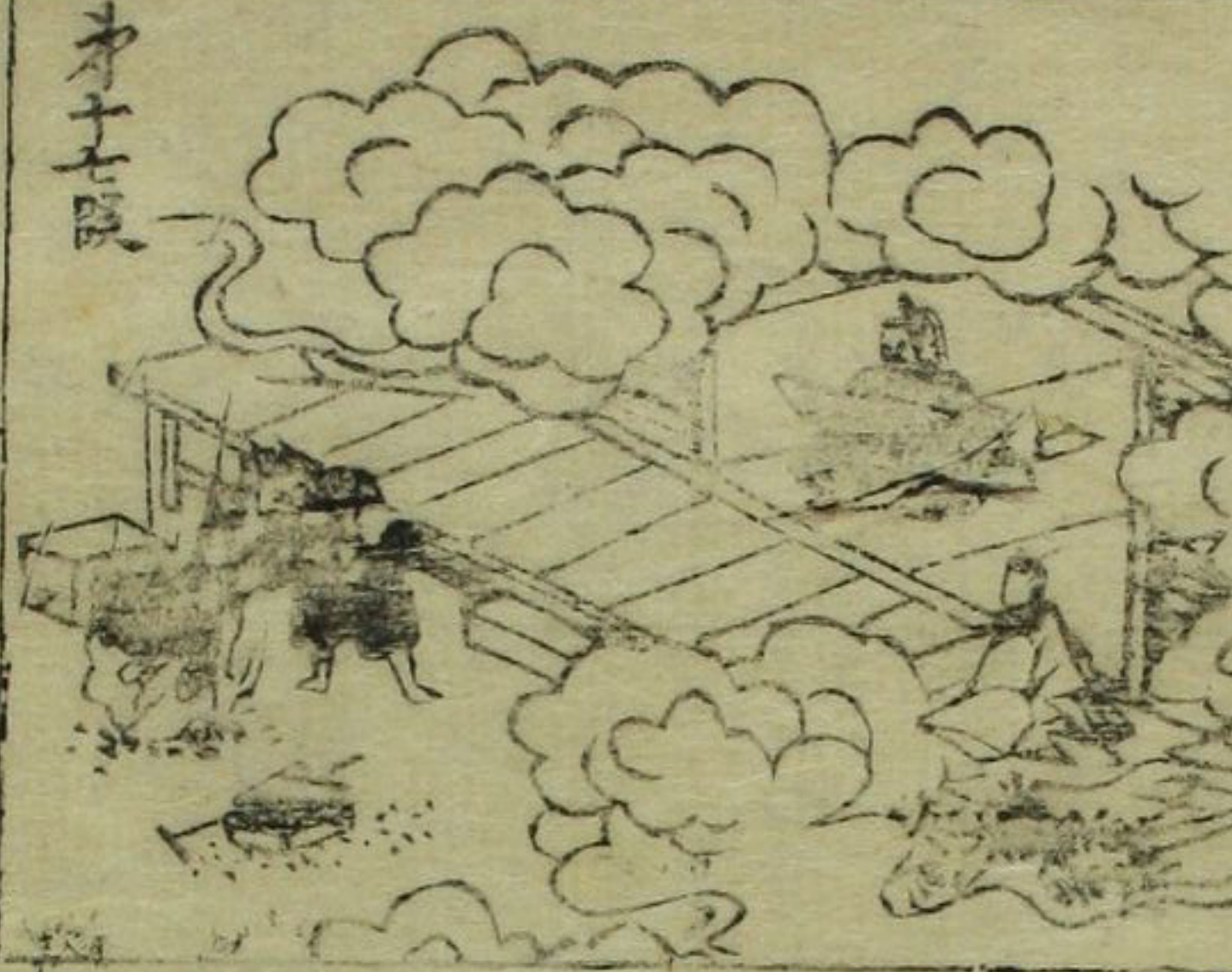
第十五段



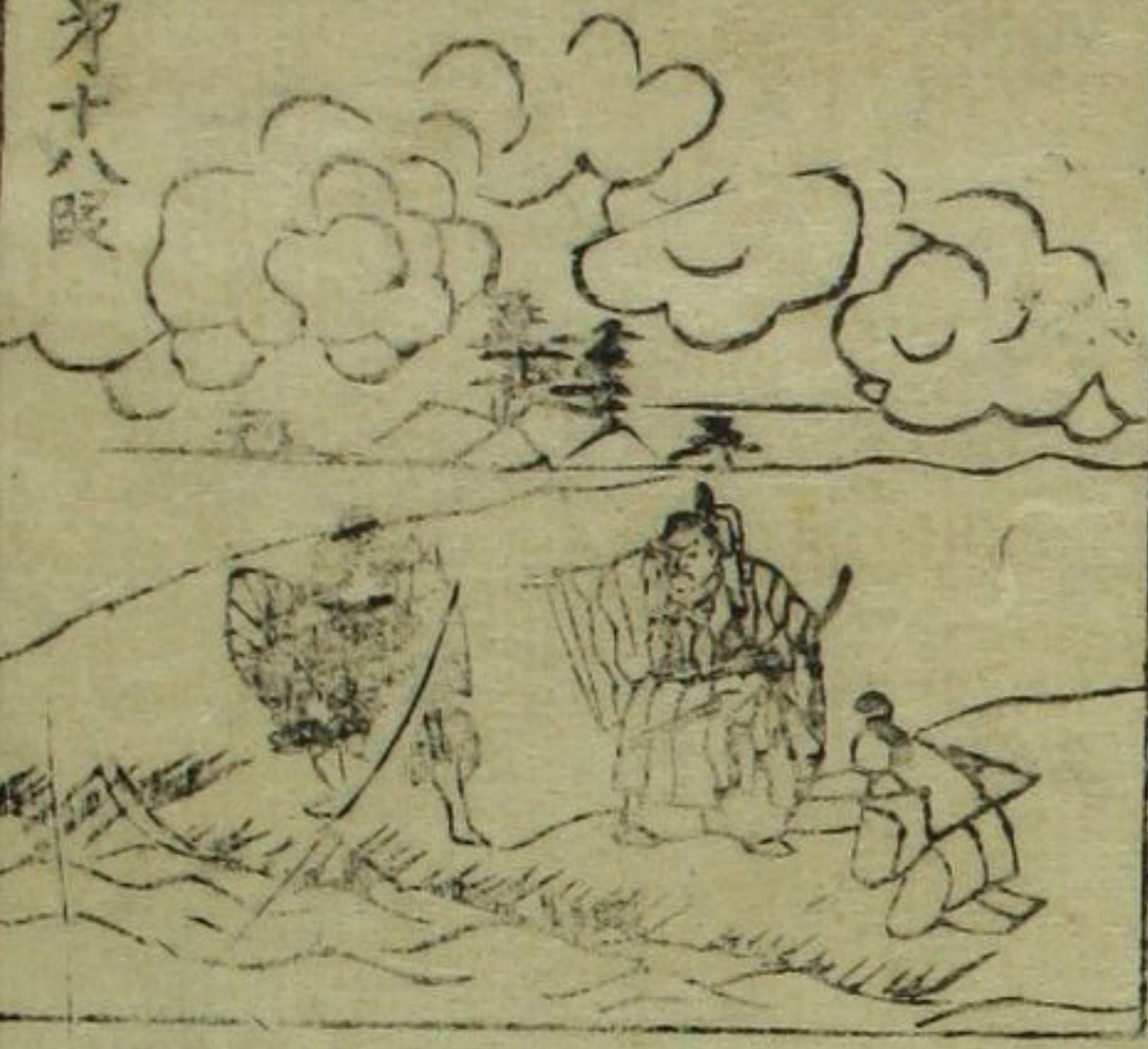
第十六段



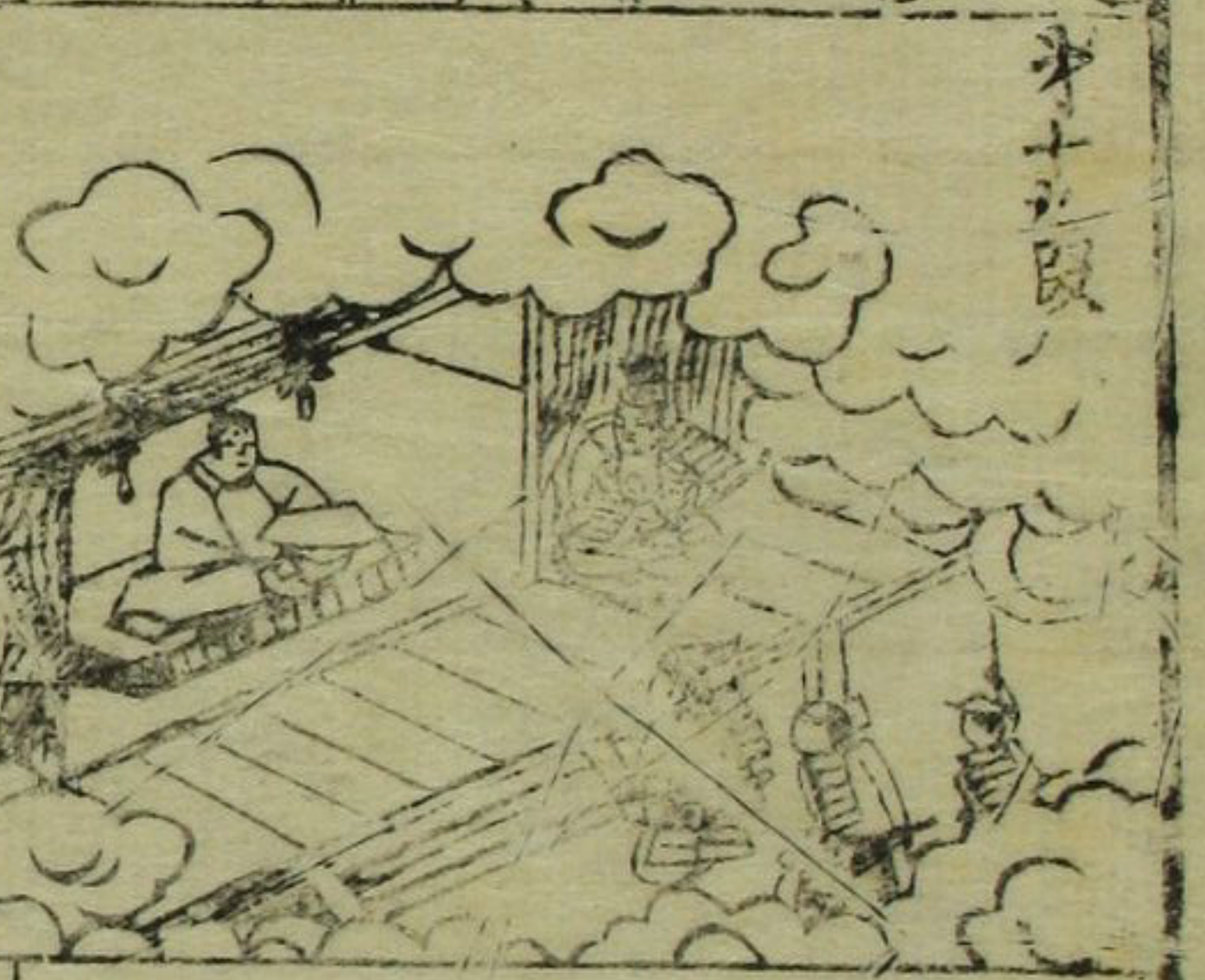
第十七段



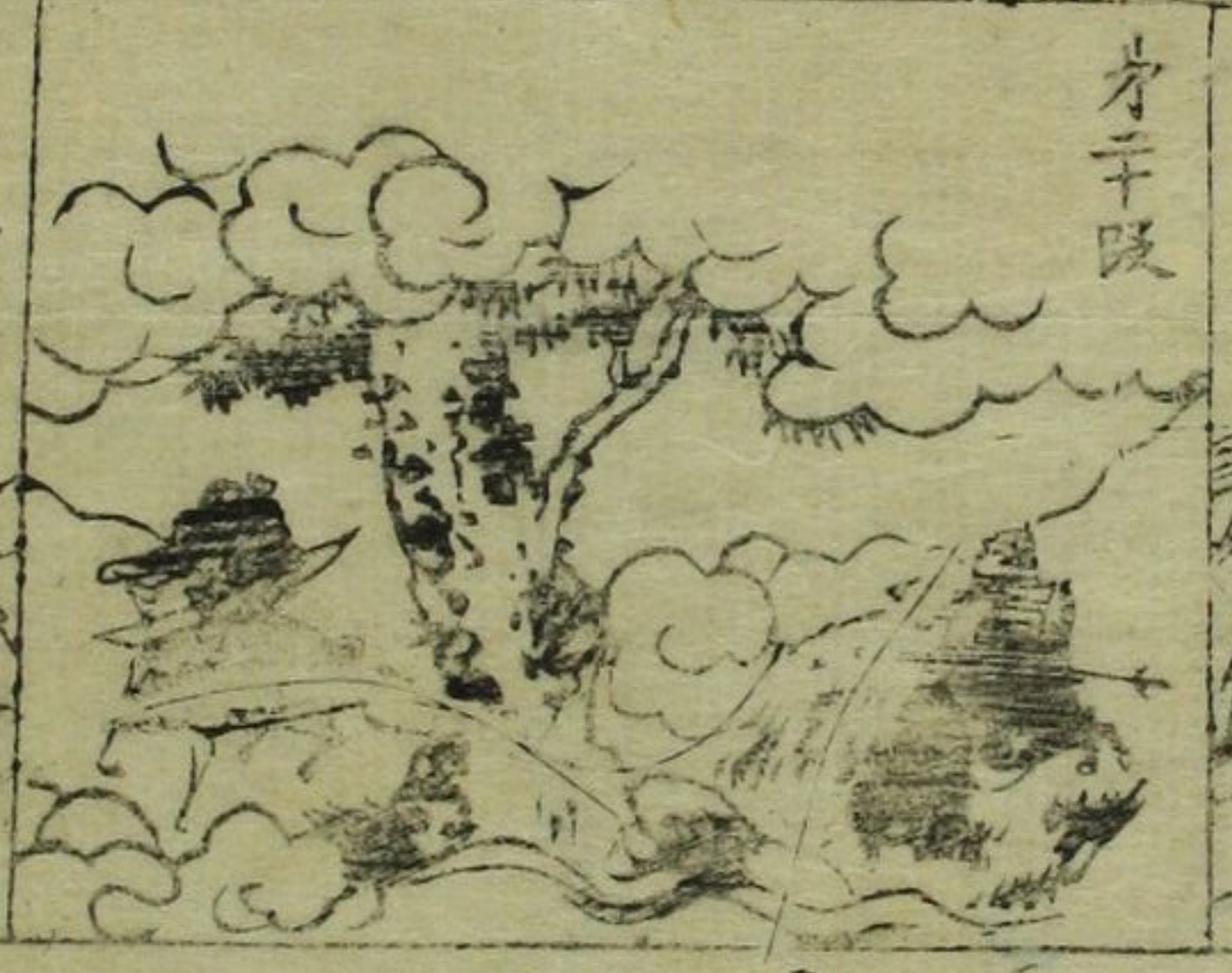
第十八段



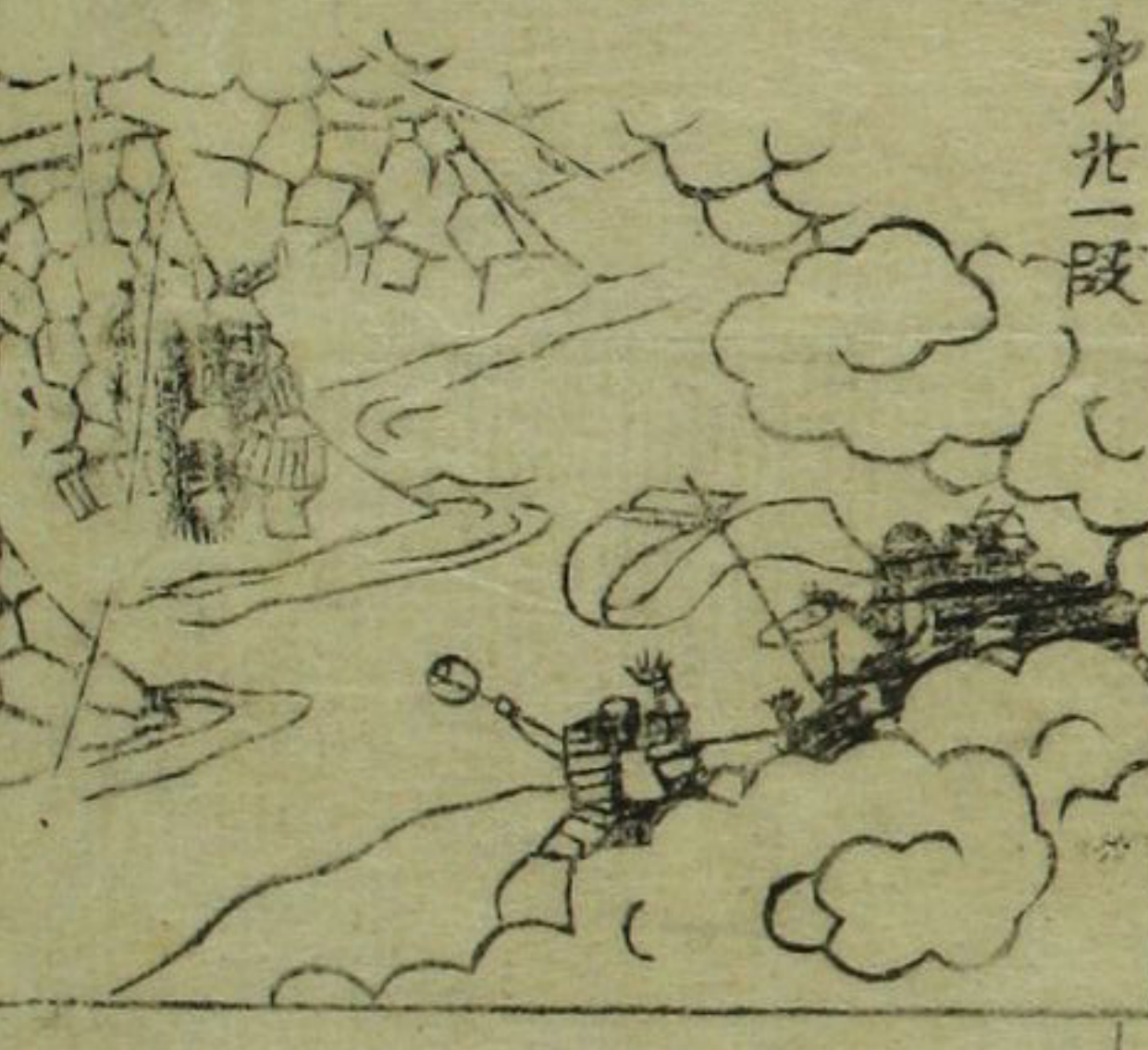
第十九段



第二十段



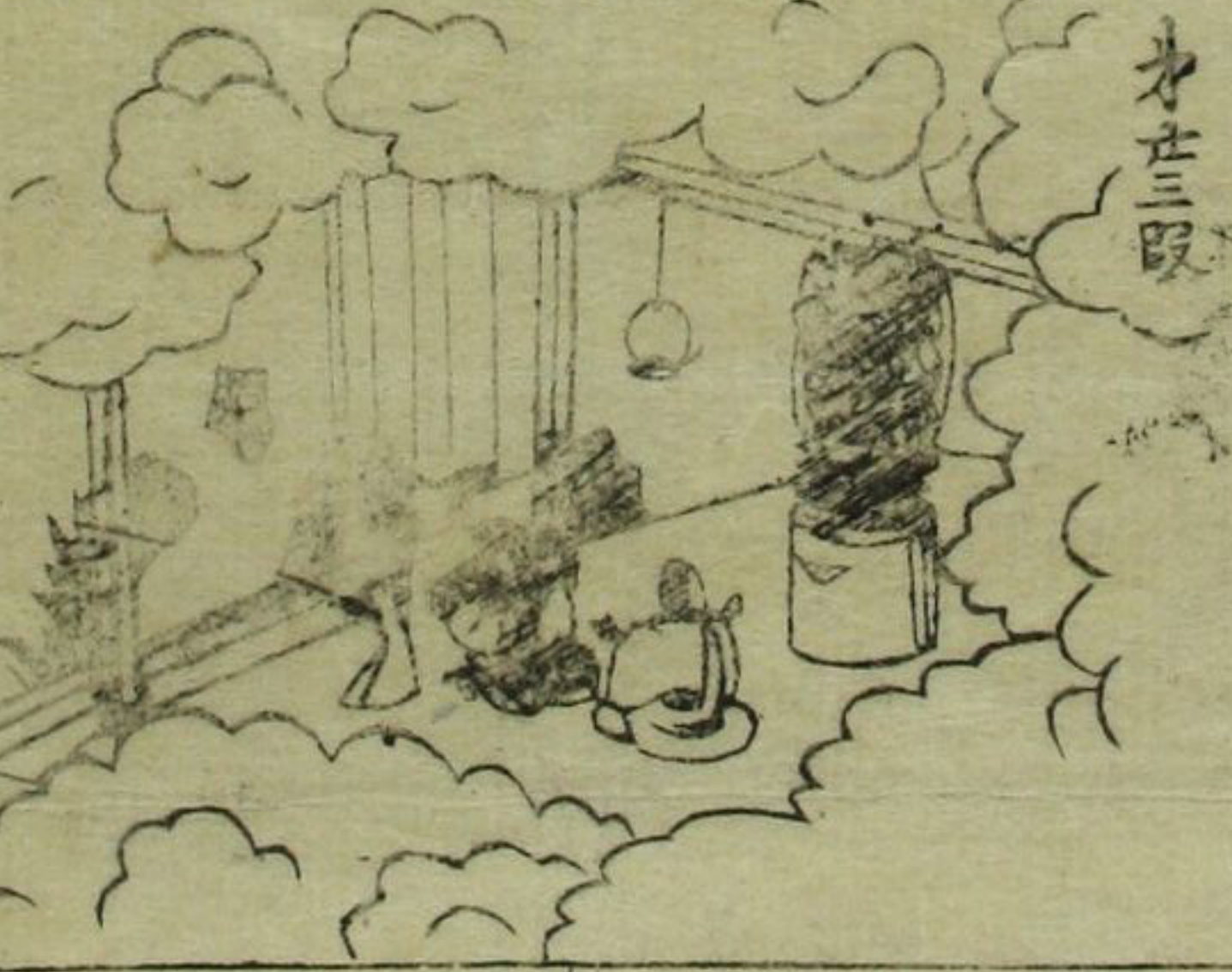
第二十一段



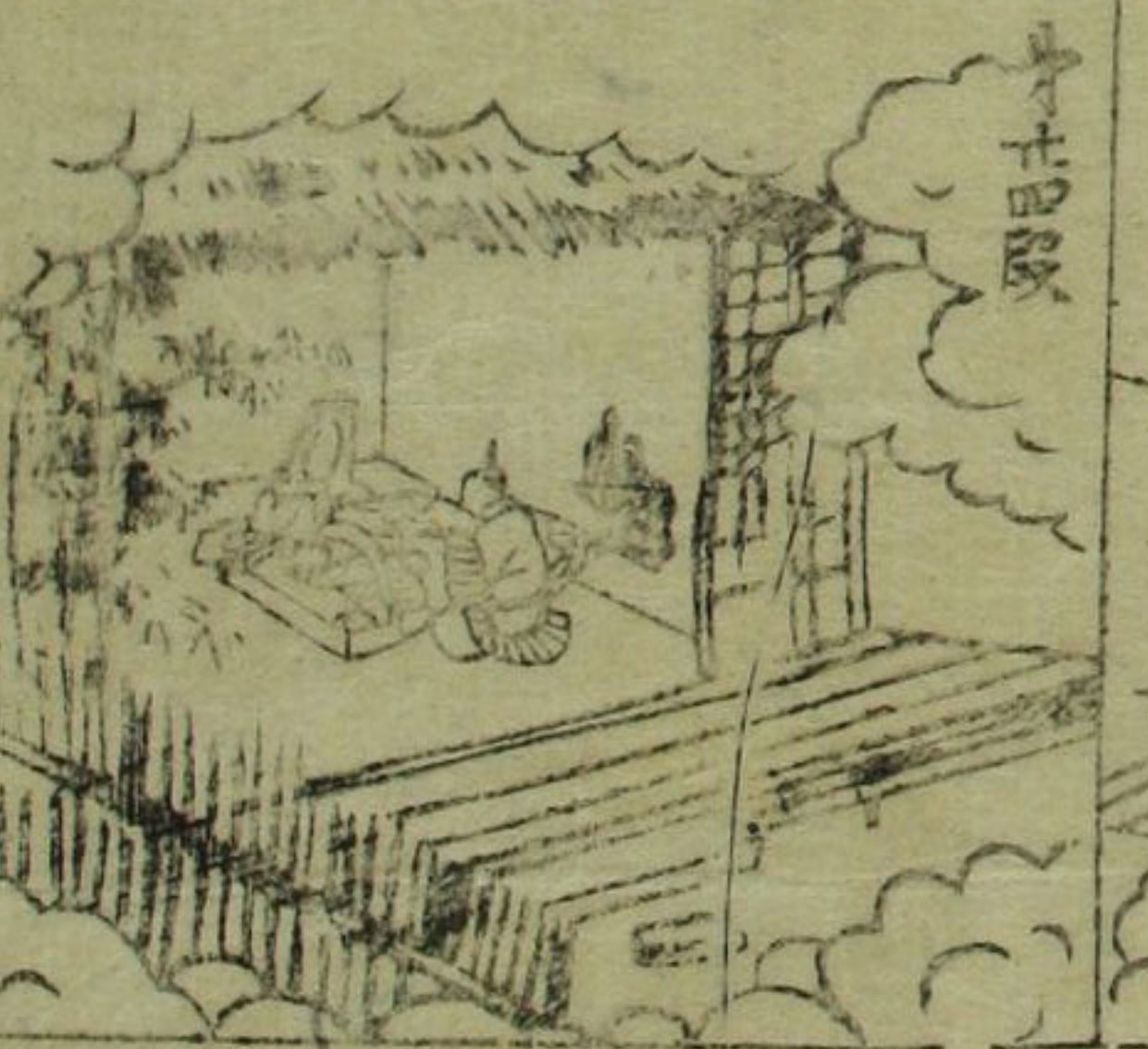
第二十二段



第二十三段



第二十四段



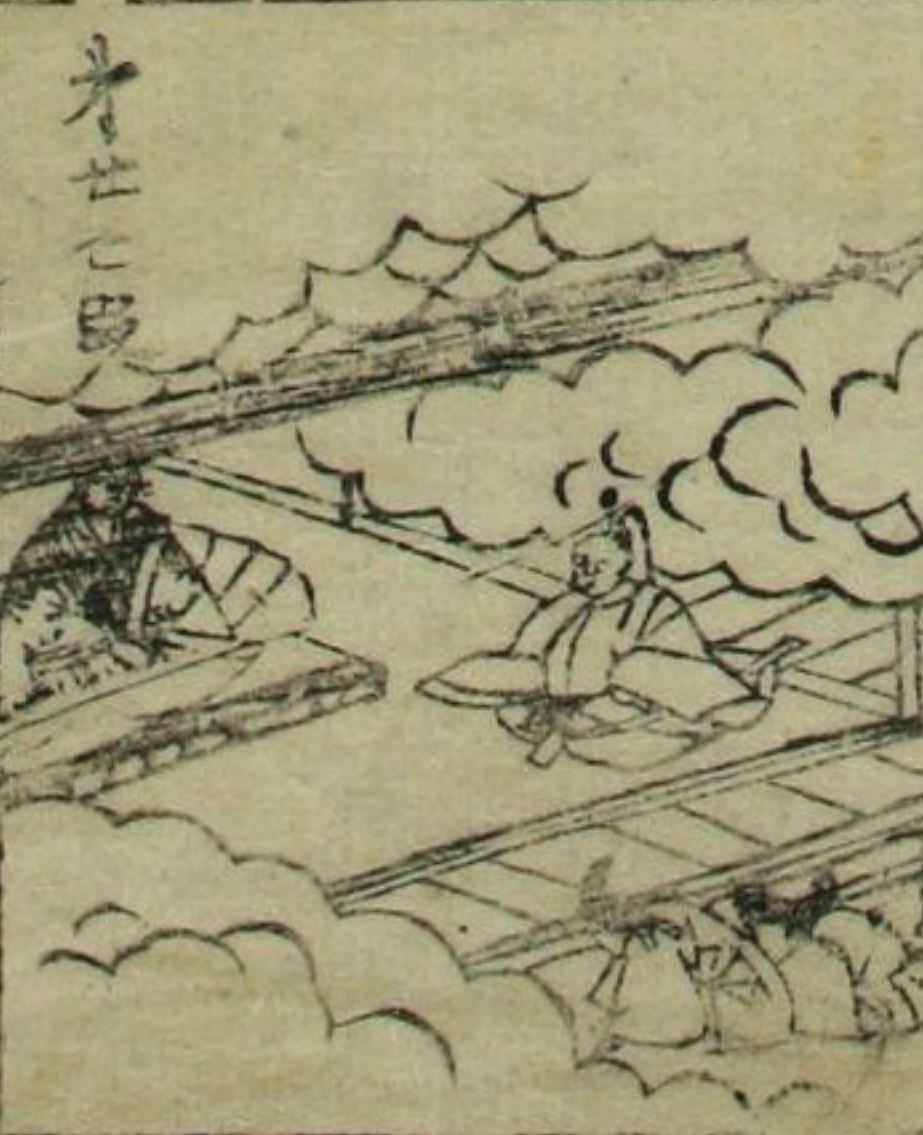
第二十五段



第二十六段



第二十七段



信國本堂









御大老職

井伊掃部頭様

御老中

太田備後守様

間部下総守様

松平和泉守様

久世大和守様

内藤紀伊守様

坂中務太輔様

同御若年寄

安藤對馬守様

本多越中守様

牧野遠江守様

稲垣長門守様

遠藤但馬守様

酒井右京亮様

寺社御奉行

松平右京亮様

松平伯耆守様

松平豐前守様

板倉周防守様

夏目左衛門守様

平岡丹波守様

大久保駿河守様

坪内伊守守様

佐野日向守様

遠山安藝守様

堀田土佐守様

大久保因幡守様

御留守居 大御目月

御奉行 南池田播磨守様

奉行 北石谷因幡守様

御勤定 立田水戸守様

御勤定 諏訪後助守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御勤定 榑田次守様

御奉行 大隈豊後守様

御奉行 河津對馬守様

御奉行 平賀駿河守様

御奉行 関出雲守様

御奉行 淺野備前守様

御奉行 津保備前守様

御奉行 松平冬之丞守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

御奉行 堀田左中守様

伏見御奉行

大坂御代

土屋采女正様

御奉行 東山守様

御奉行 西久須守様

御奉行 甲府勤事守様

御奉行 長崎守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

御奉行 備前守様

臨江豊晴嶺

寺社御奉行

禁止賣買 三千枚限







日本舊土人「ヨボックル」石斧ヲ研ギ獸肉ヲ煮ル圖ノ附録

解説

理學士 坪井正五郎

日本諸地方に散在スル古物ノ中ニハ曲玉、管曲、金環、銀環ノ類モアリ、石ヲ造ツタ  
矢ノ根ヤ石ヲ造ツタ斧ノ類モゴザリマス。又日本諸地方に散在スル遺跡中ニハ  
古墳ヤ横穴モアリ貝殻ノ積ミ重ナツテ出来タ塚ヤ堅ミ掘リ下ケタ穴  
モゴザリマス。是等ハ等シク日本ノ地に散在スル古物遺跡ヲハゴザリマス  
悉ク我々日本人ノ祖先ガ遺シタノテアルトハ申サレマセン、石ヲ打タ  
イテ造ツタ矢ノ根ヤ、石ヲ磨イテ造ツタ斧ヤ、是等ト共ニ存スル土器ノ  
類ハ明カニ日本人ノ祖先ナラサル者ノ手ニ成ツタノテゴザリマス、是等古  
物ノ分布ハ甚ダ廣ク南ハ琉球ヨリ北ハ北海道迄殆ト諸國之無キハ  
無シト云フ有様ヲゴザリマス。諸地方に通ジテ存スル所ノ貝殻ノ塚ヤ北  
海道に遺ツラ居ル所ノ榴鉢形ノ穴モ是等古物ト親密ナル關係ガ有  
ツテ同シク日本人ノ祖先ナラサル者ノ手ニ成ツタモノテアルト云フ事ハ疑  
フ可カラサル事ヲゴザリマス。斯カル古物、斯カル遺跡、自ラノ口碑史傳ハ  
内地に於テハ甚稀デ偶之レ有ルモ互ニ相違シテ石ヲ更ニ帰着スル所ガ  
ゴザリマセン。之ニ及シテ北海道テハ諸地方ノ「アイヌ」ガ一樣ナル口碑史傳ハ







伊勢國太神宮藏太刀圖

大如圖



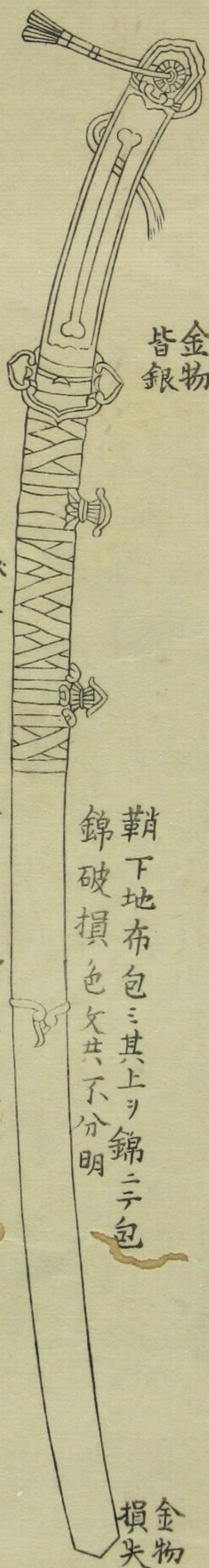
スカシ

花田色打糸

金象眼

大刀込ミマテ如此スカシ有之

鐔共銀



金物  
皆銀

淺黄系ヲ以卷之

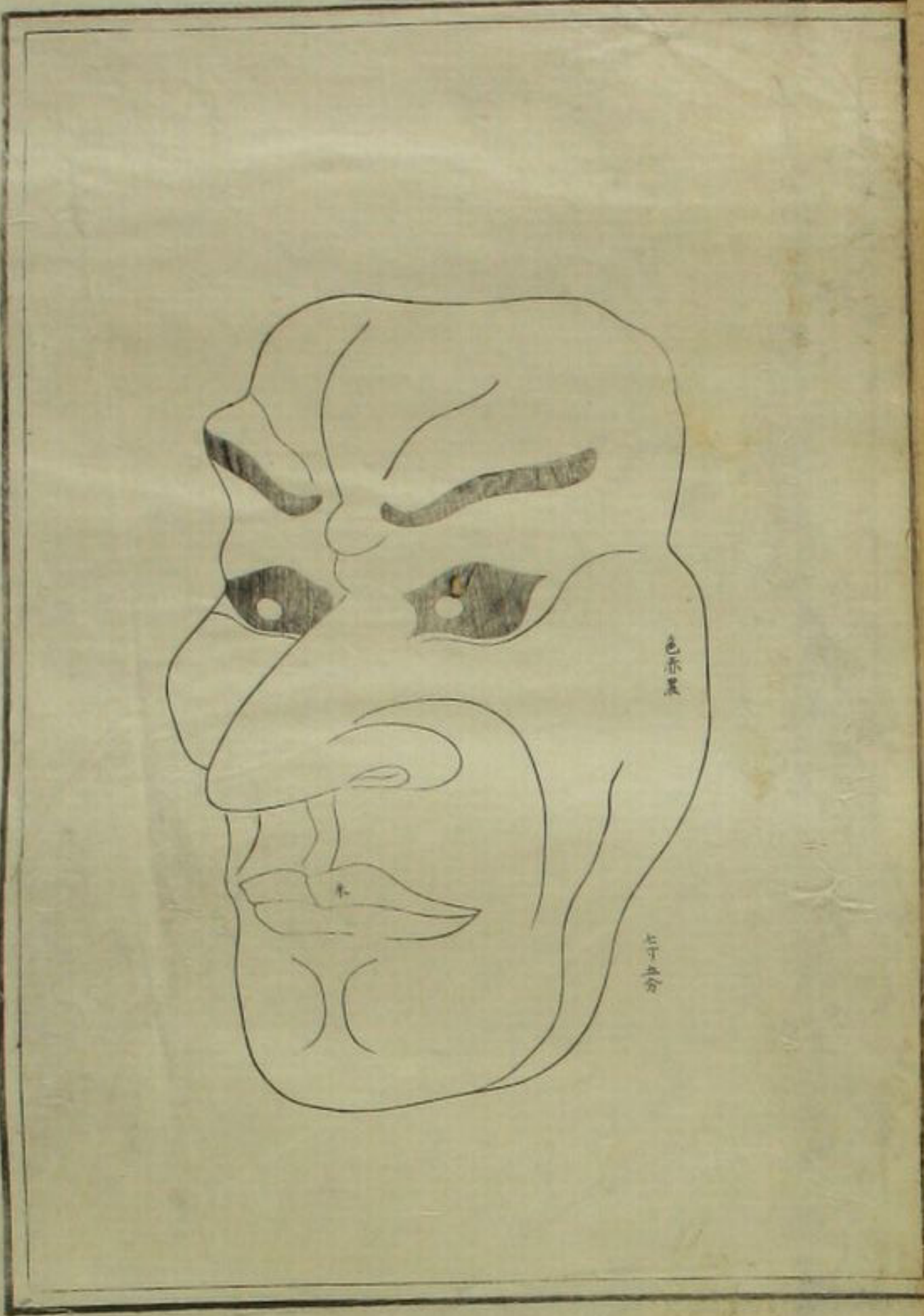
鞘長二尺五寸

鞘下地布包ニ其上ヲ錦ニテ包  
錦破損色欠共不分明

金物  
損失

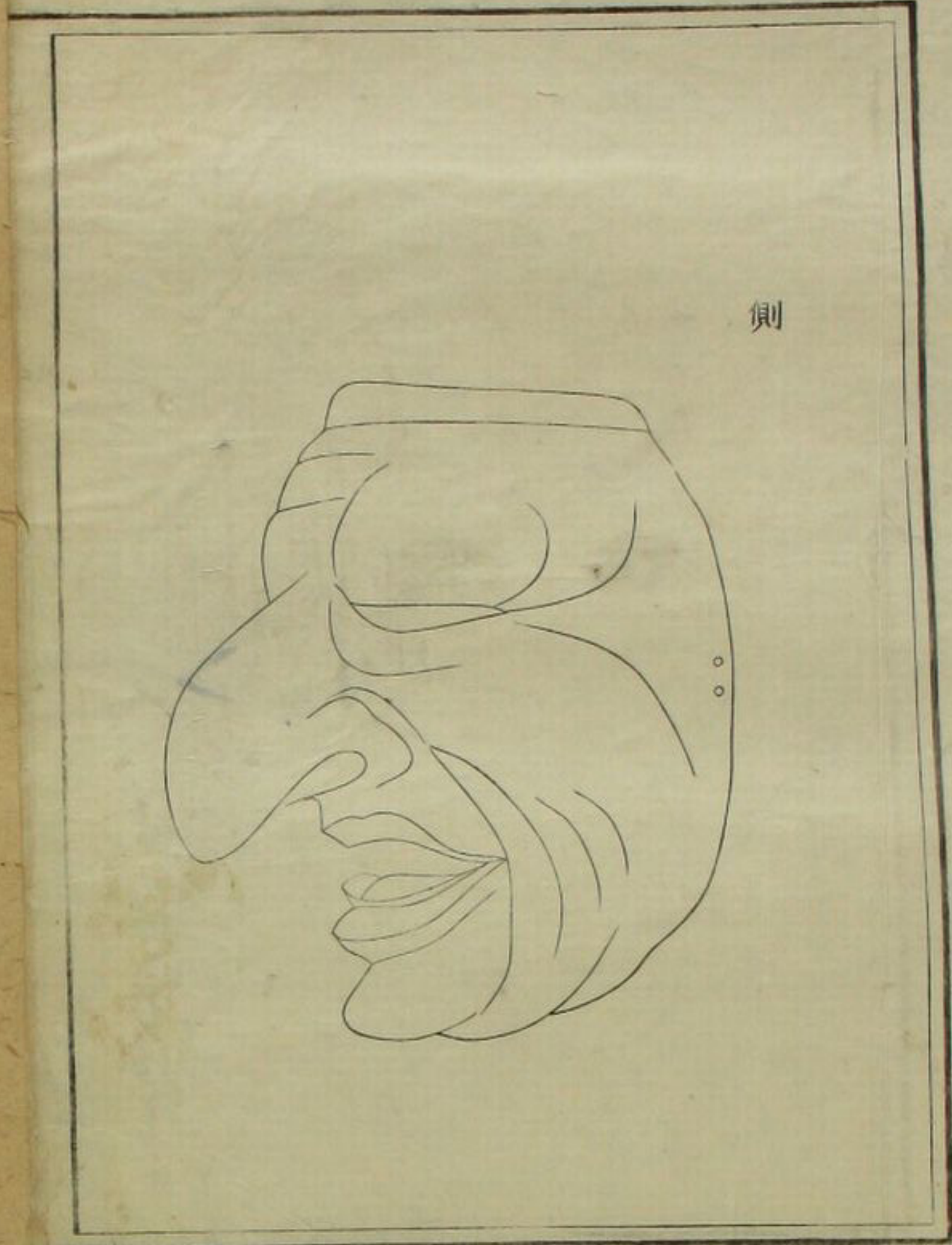
6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8





色深黒

七寸五分



側

集古十種中



道範律師像

高野山正知院藏



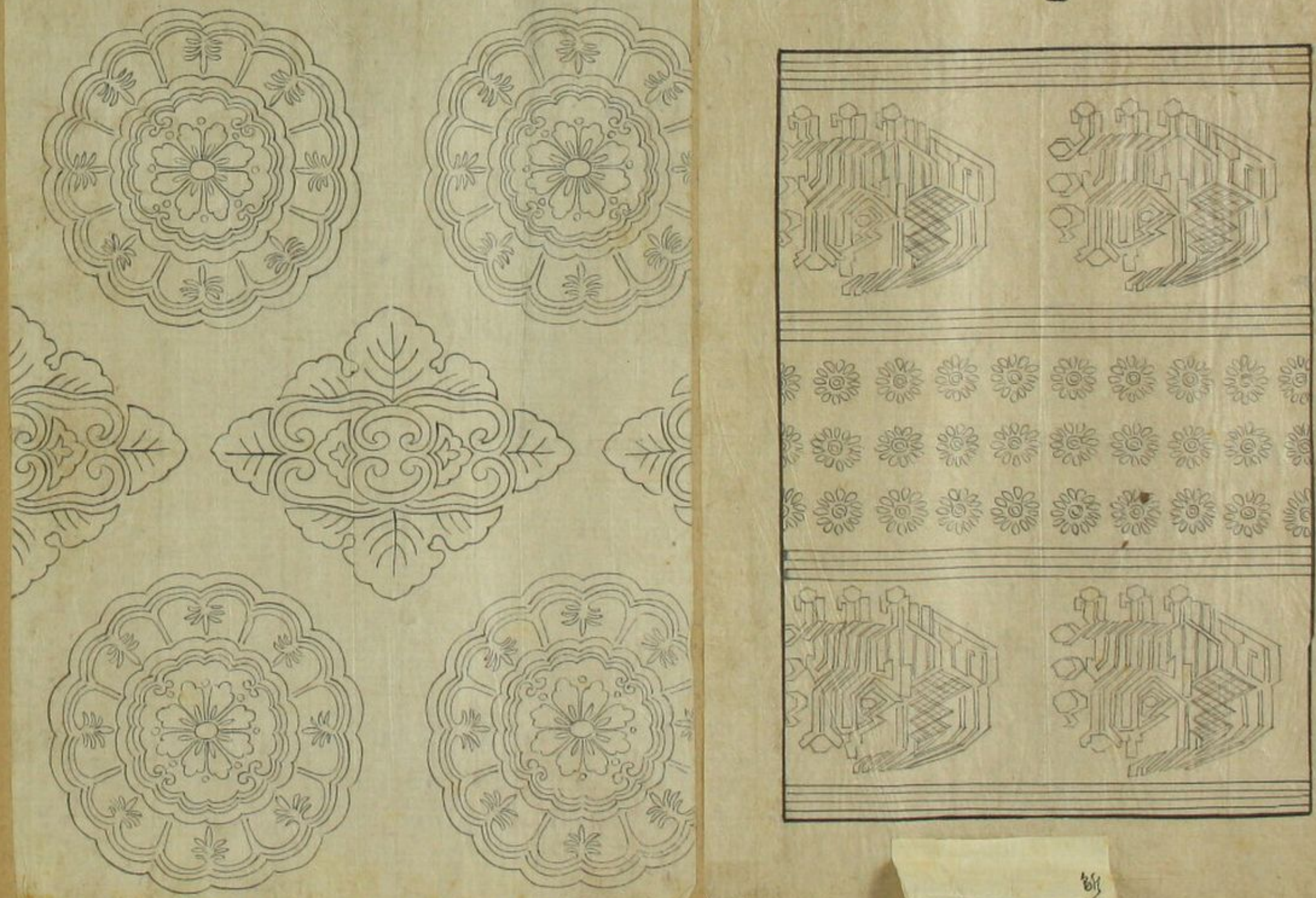




春日社神人守藏戸元法以下  
軍監好備前國上道那志野  
由事之志曆四年正月廿日  
出教本説下給依了但被作  
下之有伊賀左衛門次郎桐兵  
沙法付守藏戸彼所依了以此  
旨下有以披落依恐惶謹言

元德二年三月廿日

沙弥清觀



河内郡神代

一 大神宮御神号 一軸

一 御障明織

大神宮御神号 御障明織 御手槍 御弓箆

一 御手槍

一 御弓箆

一 御能御番組

一 御軍扇

一 御下帷子

一 御制札

一 下馬札

一 御兜御面類

一 御枕屏風

一 御書初

一 御小袖

一 御文庫

一 御硯箱御硯石

一 御文基

一 御初

一 御書初

一 御小袖

一 御文庫

一 御硯箱御硯石

一 御文基

一 御初

一 御書初

一 御小袖

一 御文庫

一 御硯箱御硯石

一 御文基

御宮之部

一 御初陣御甲冑之御木像

一 御神前之部

一 束帶之御尊影

一 天満宮之御神号

一 御襟掛御守

一 渡唐天満宮尊影

一 唐香木

一 御初

一 御書初

一 御小袖

一 御文庫

一 御硯箱御硯石

一 御文基

一 御初

一 御書初

一 御小袖

一 御文庫

一 御硯箱御硯石

一 御文基

一 御初

一 御書初

一 御小袖

一 御文庫

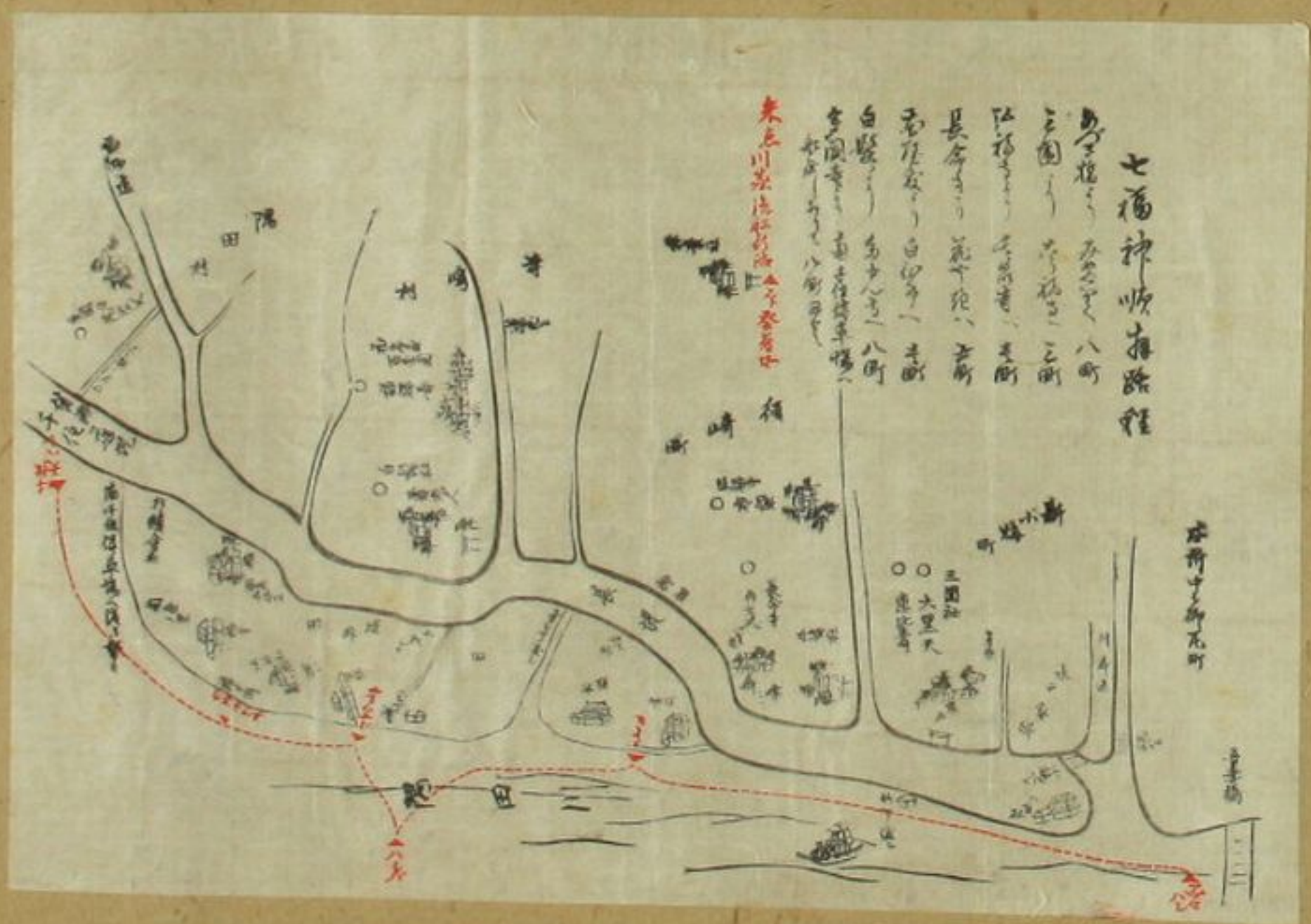
一 御硯箱御硯石

一 御文基

一 御初

一 御書初

一 御小袖



七福神所推経

上 御實物記 三河國 法藏寺

御書初 十七





紙の寸

百五拾又ノ口

一月

一寸六拾月

横糸子半

及糸子下

と心致

百五拾

十七の寸

七



七福神順拝路程

第一福 五ヶ所八町  
 三園 三福寺  
 長命寺 花や丸 五所  
 白鷺 白鷺寺 五所  
 白鷺寺 南子住徳車場  
 船着場 八町四丁

末点 川原流石路  
 下 登着点









追分

江戸八地表

以、其路一年中十月一日夜四時附俄大坂船中  
... (transcription of the main text on the right page)

真田信長... (transcription of the main text on the left page)

律習く字

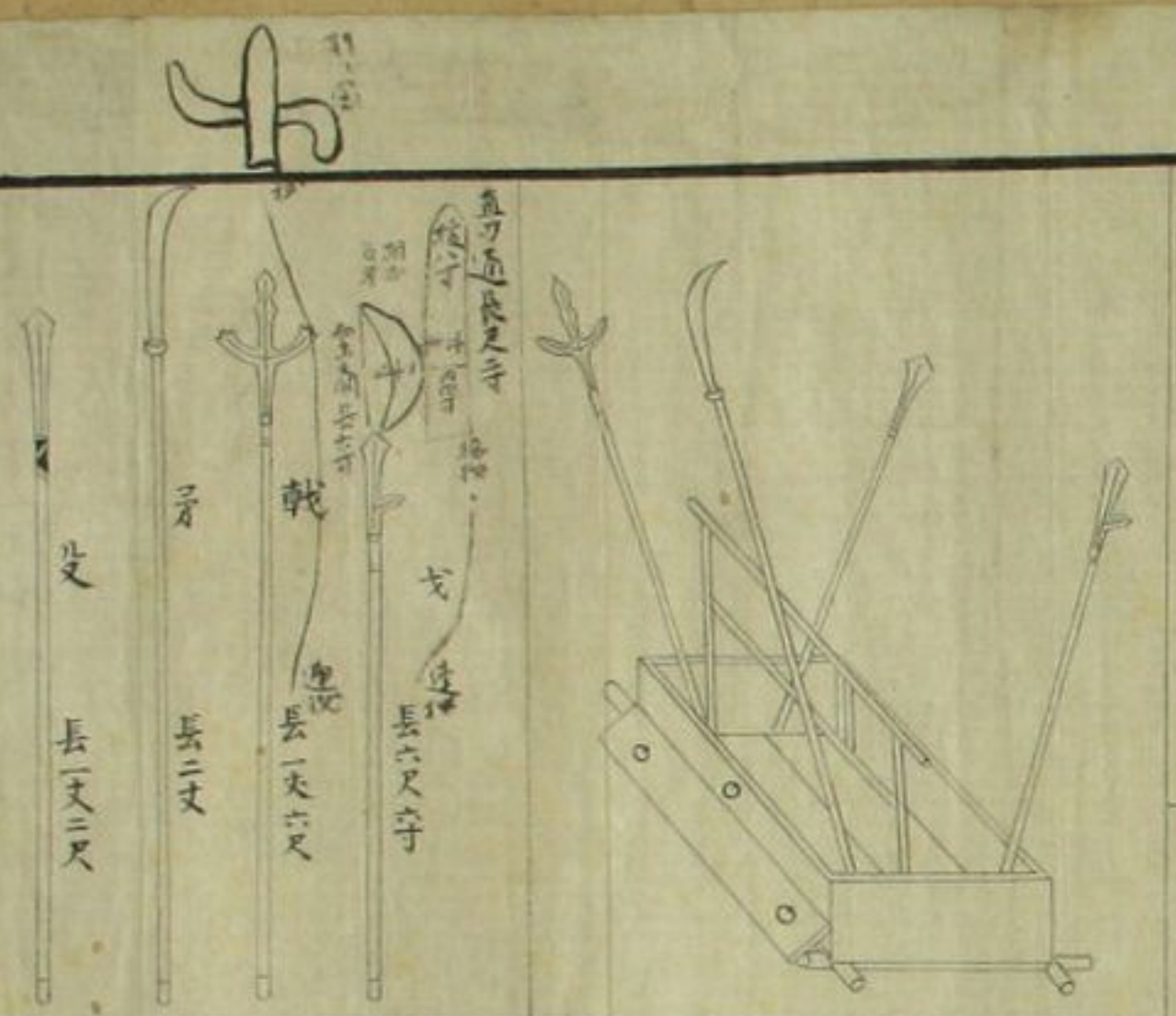
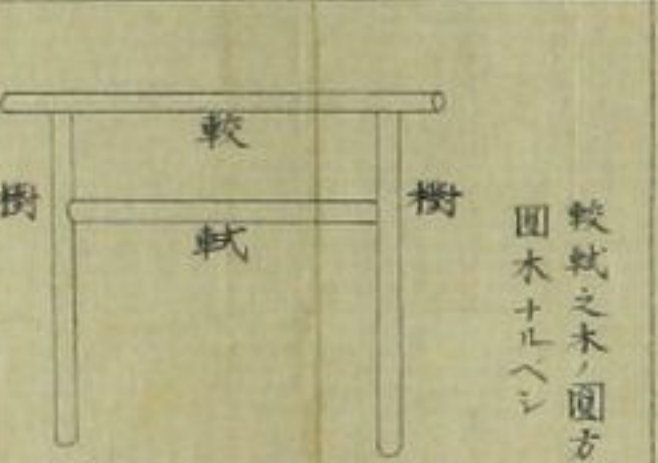
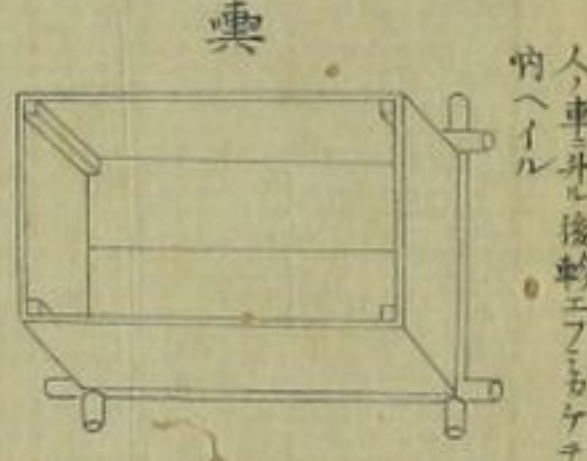
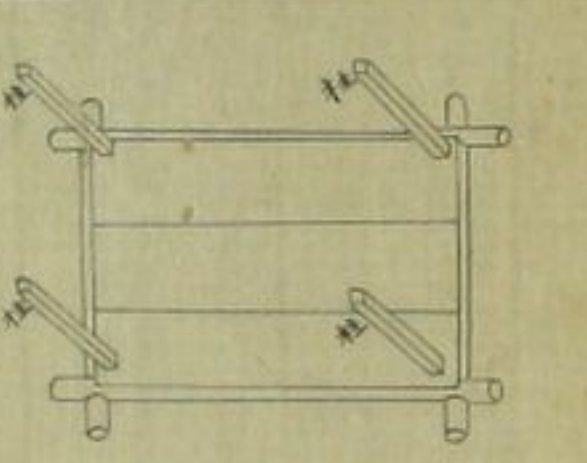
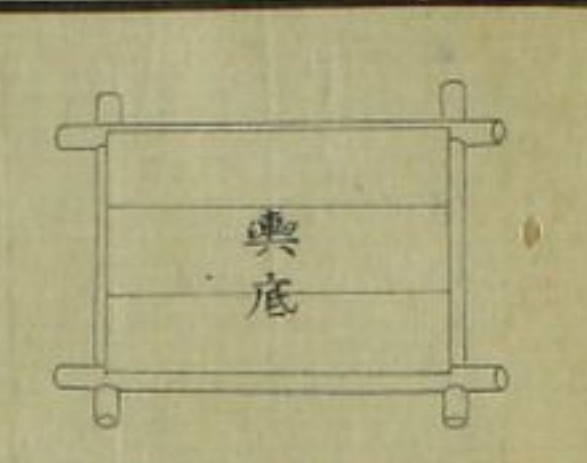
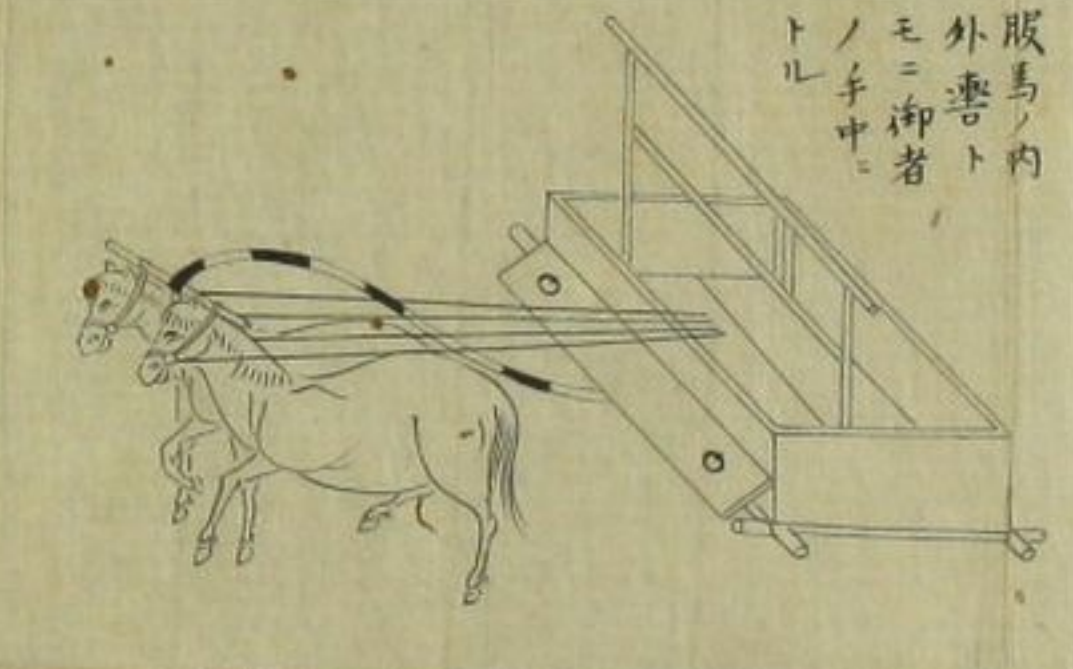
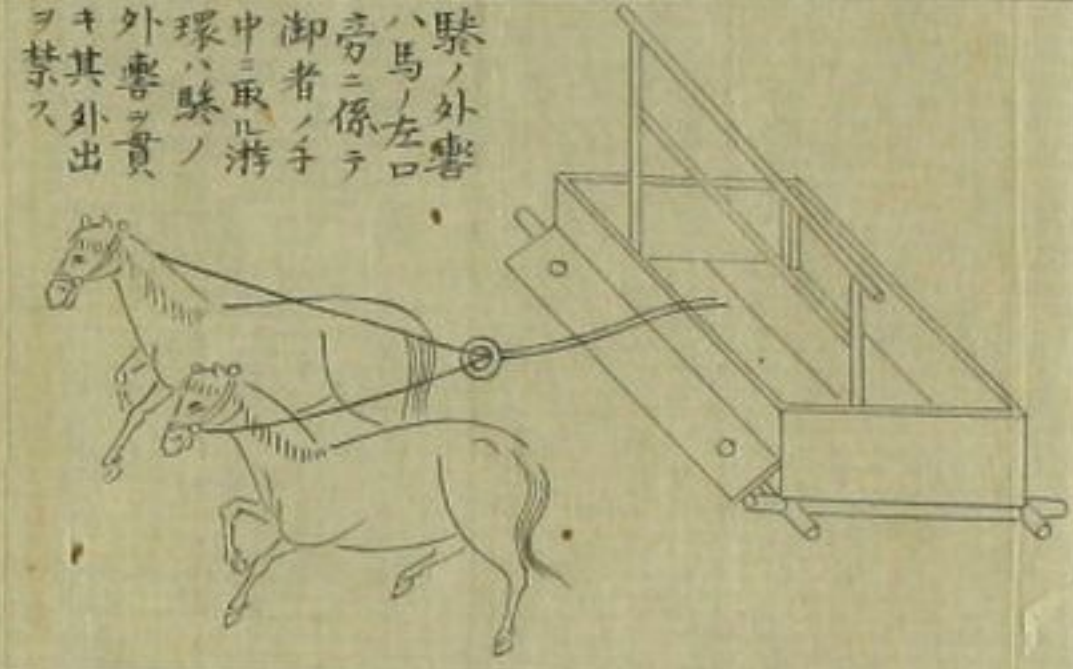
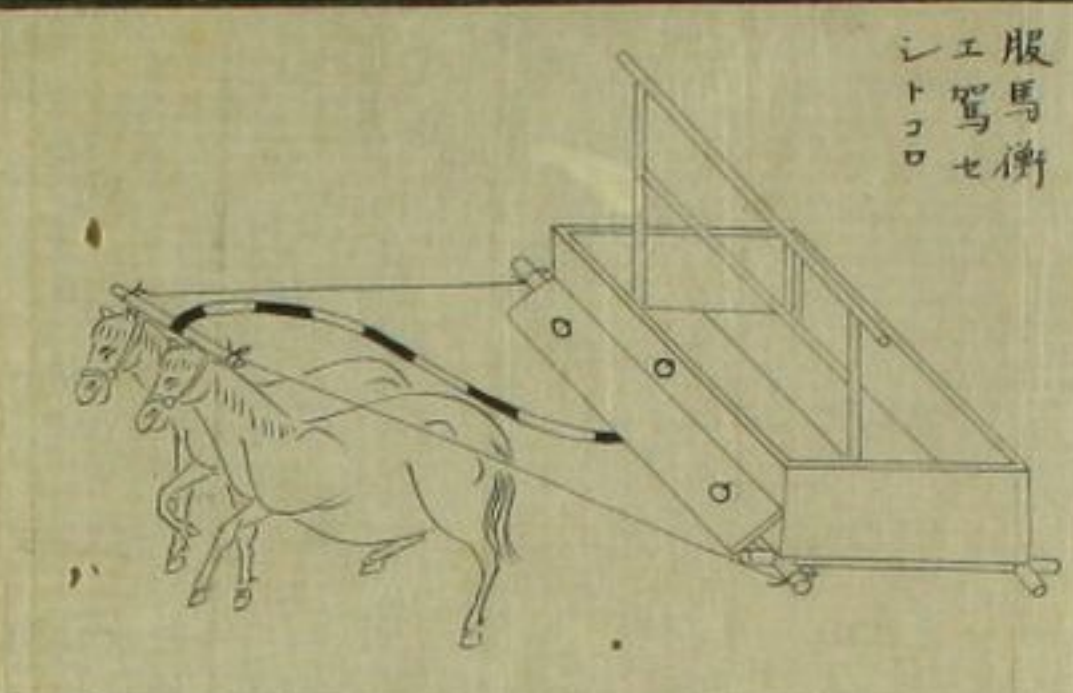
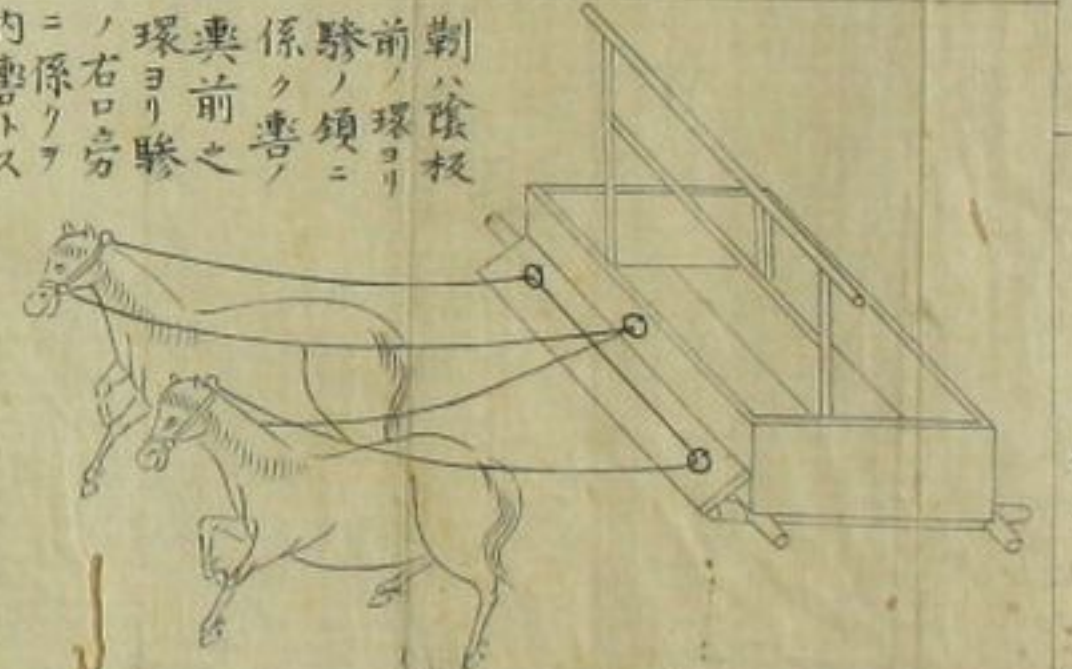
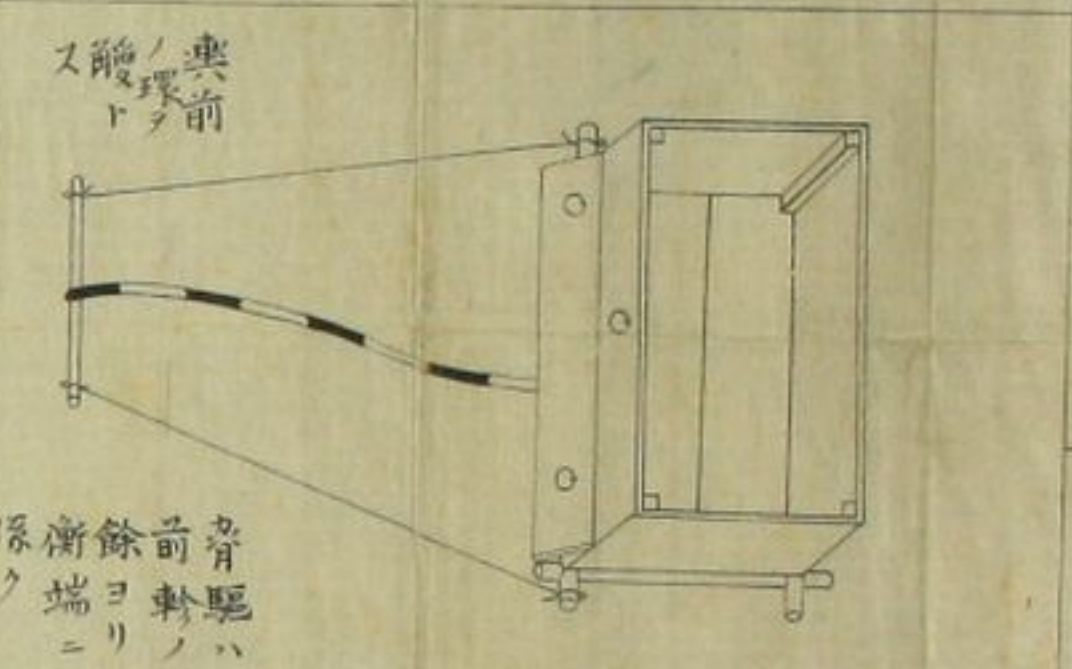
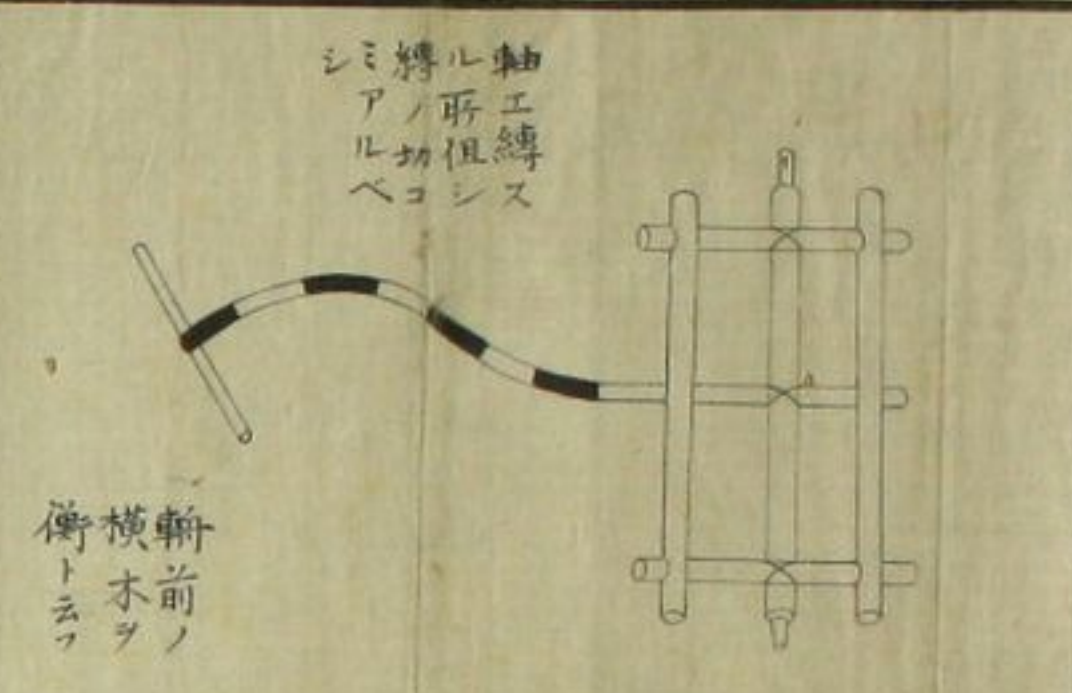
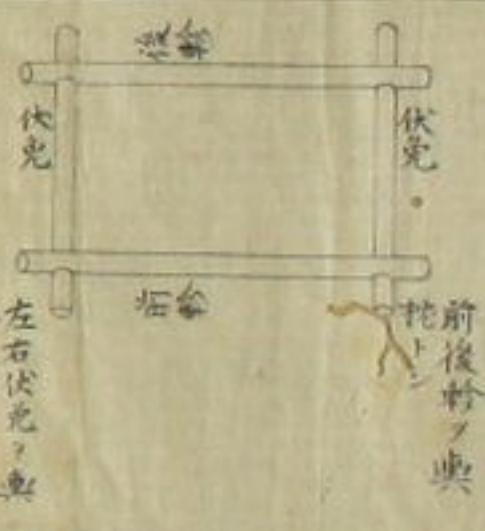
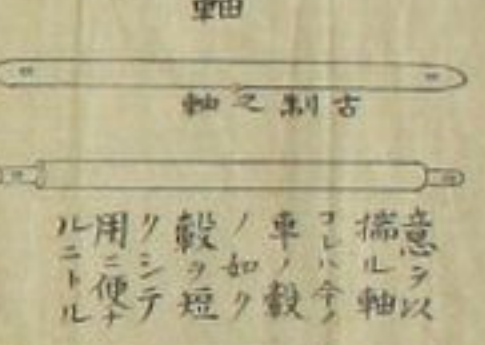
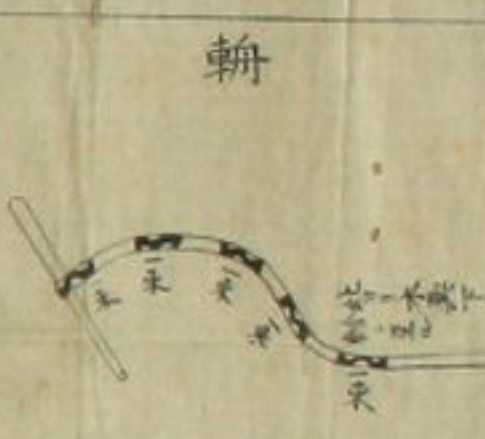
北震後出大所有市中... (transcription of the text in the middle section)

右、追北 律習新様... (transcription of the text in the lower middle section)

右、通所中... (transcription of the text in the bottom left section)



小戎車圖



寛政庚申歲夏四月上梓



小戎車圖

輪

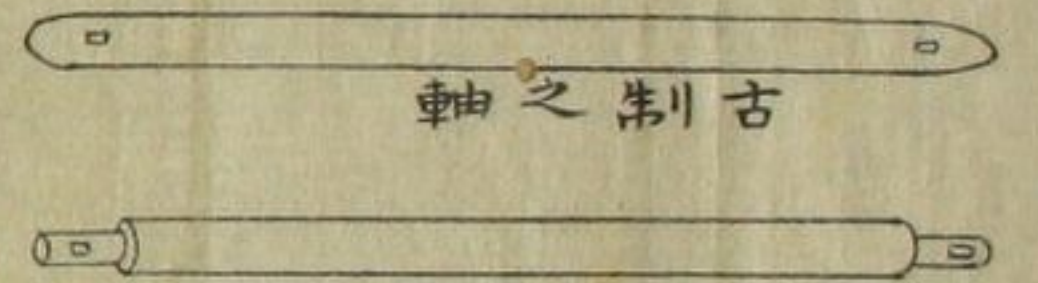


輻但シ三十牙ハ  
木ヲタワメテ作

輈

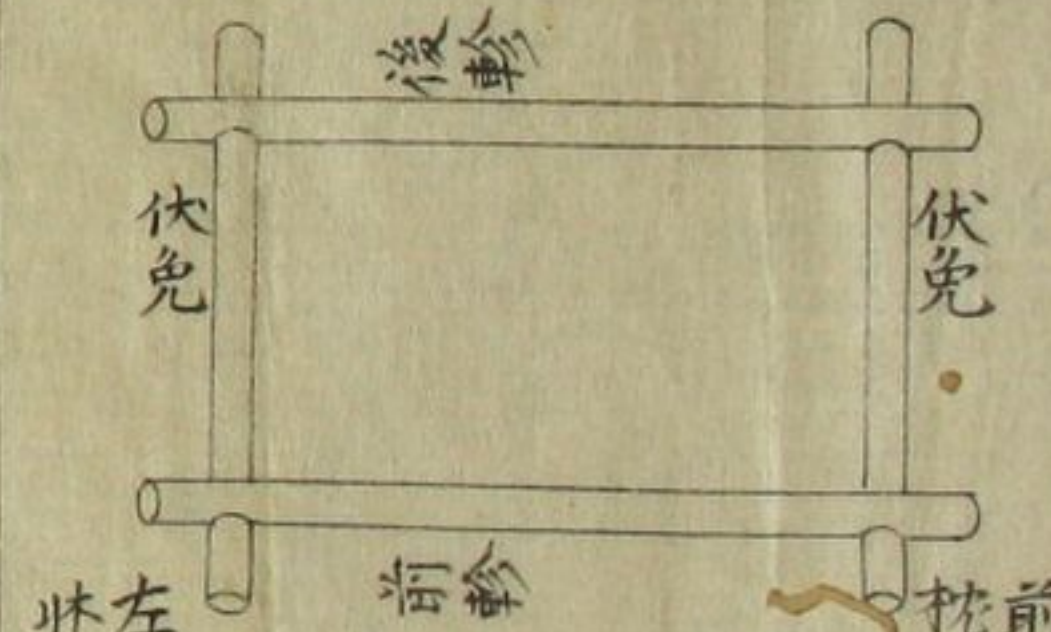


軸



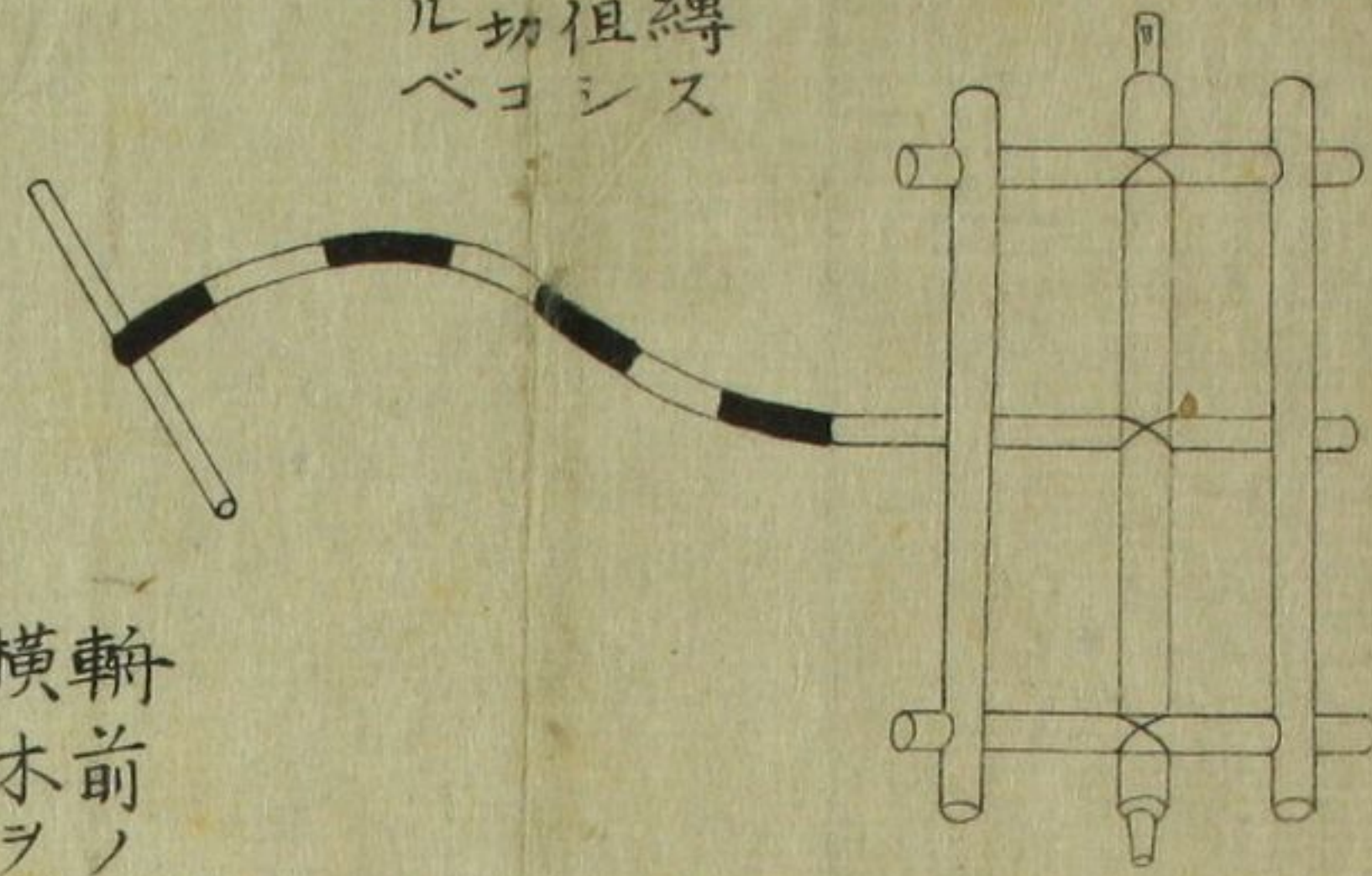
意ヲ以テ  
軸ヲ用ル  
コトハ今  
車ノ如ク  
ノ短ク  
轂ヲシテ  
クニ便ナ  
ルニトシ

後輪



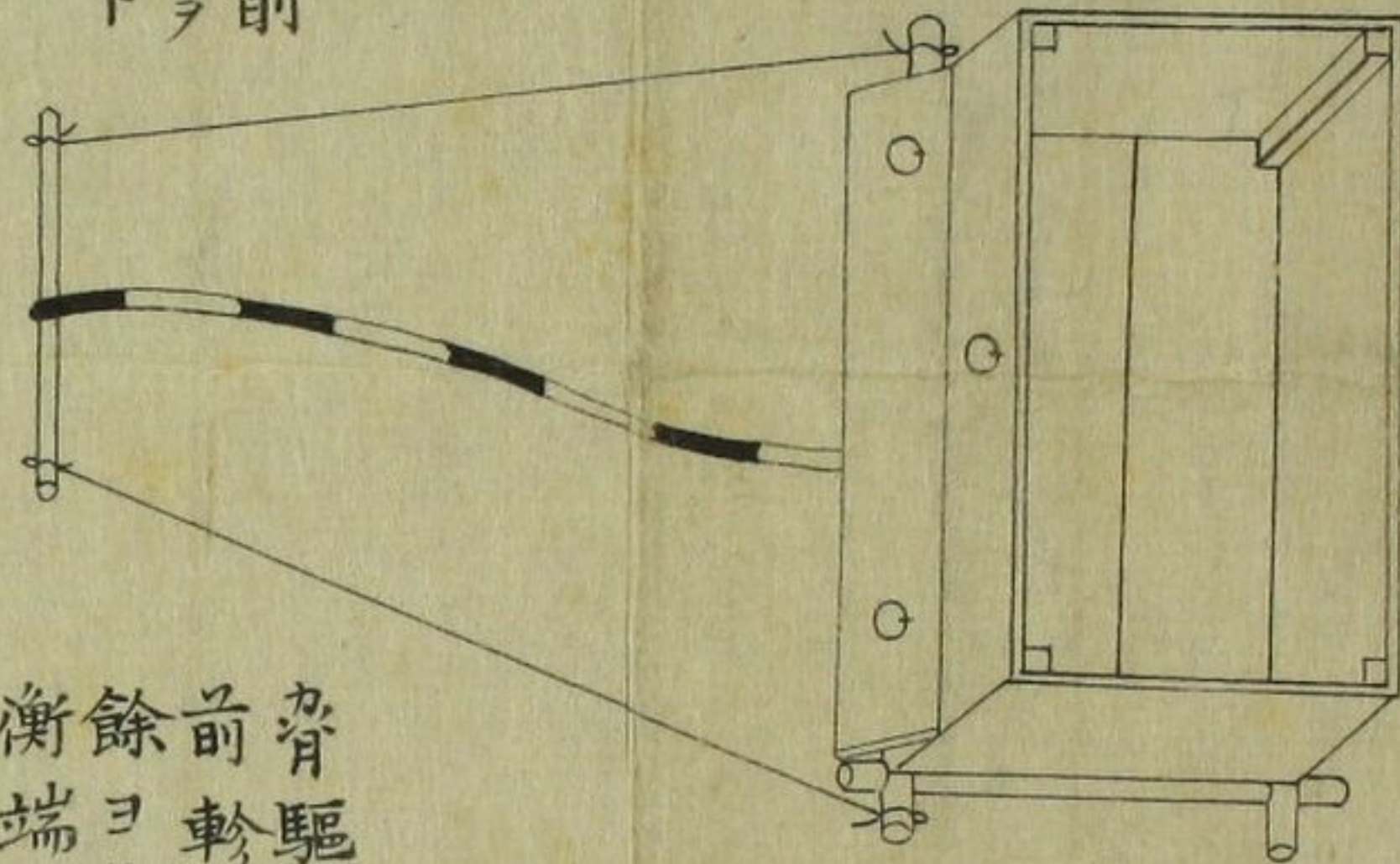
前後軫ヲ輿  
枕トシ  
左右伏免ヲ輿  
牀トス

軸工縛ス  
ル取但シ  
縛ノ切コ  
シミアル  
ベ



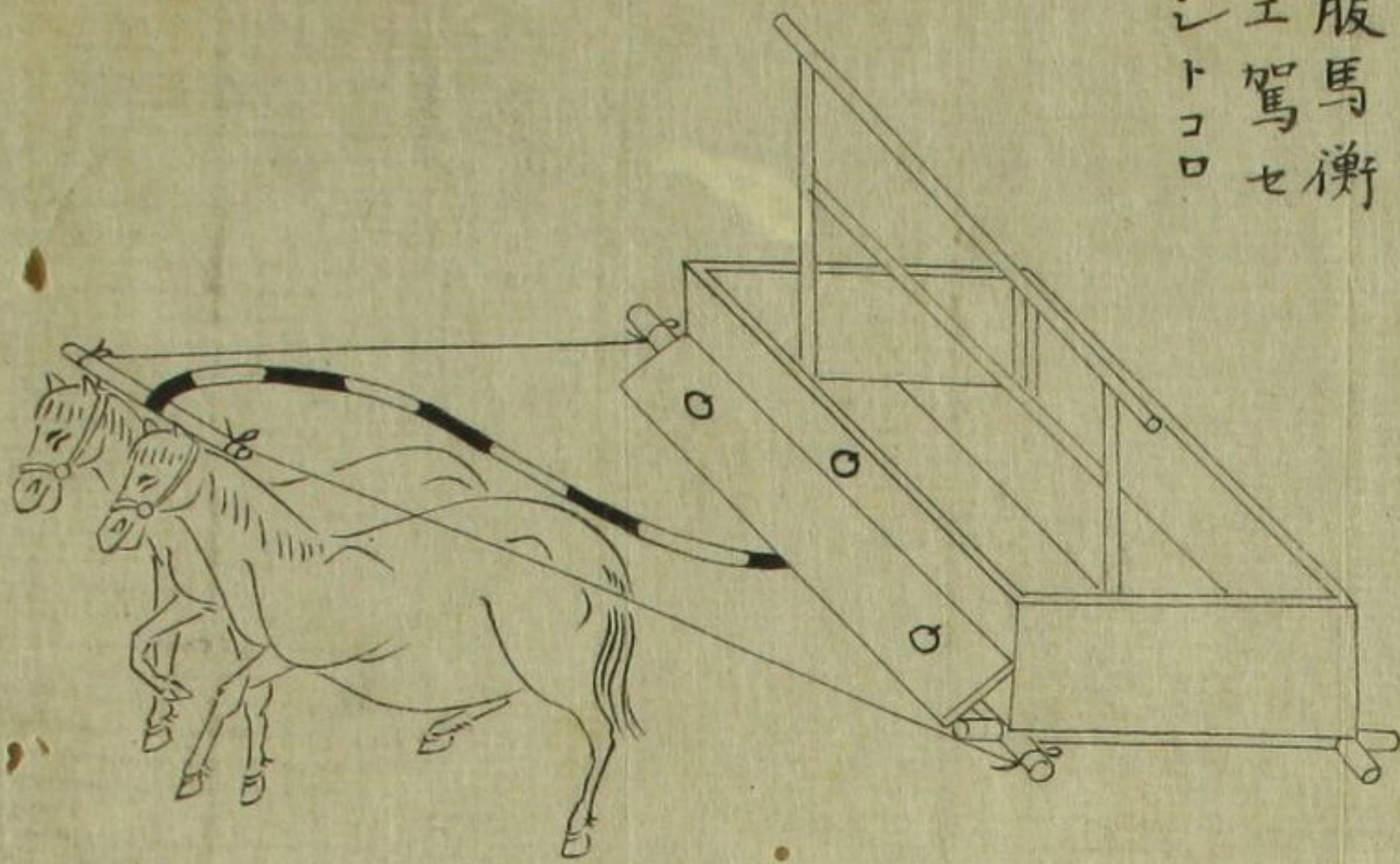
輈前ノ  
木ヲ  
横ト云フ

輈前ノ  
環ト云フ

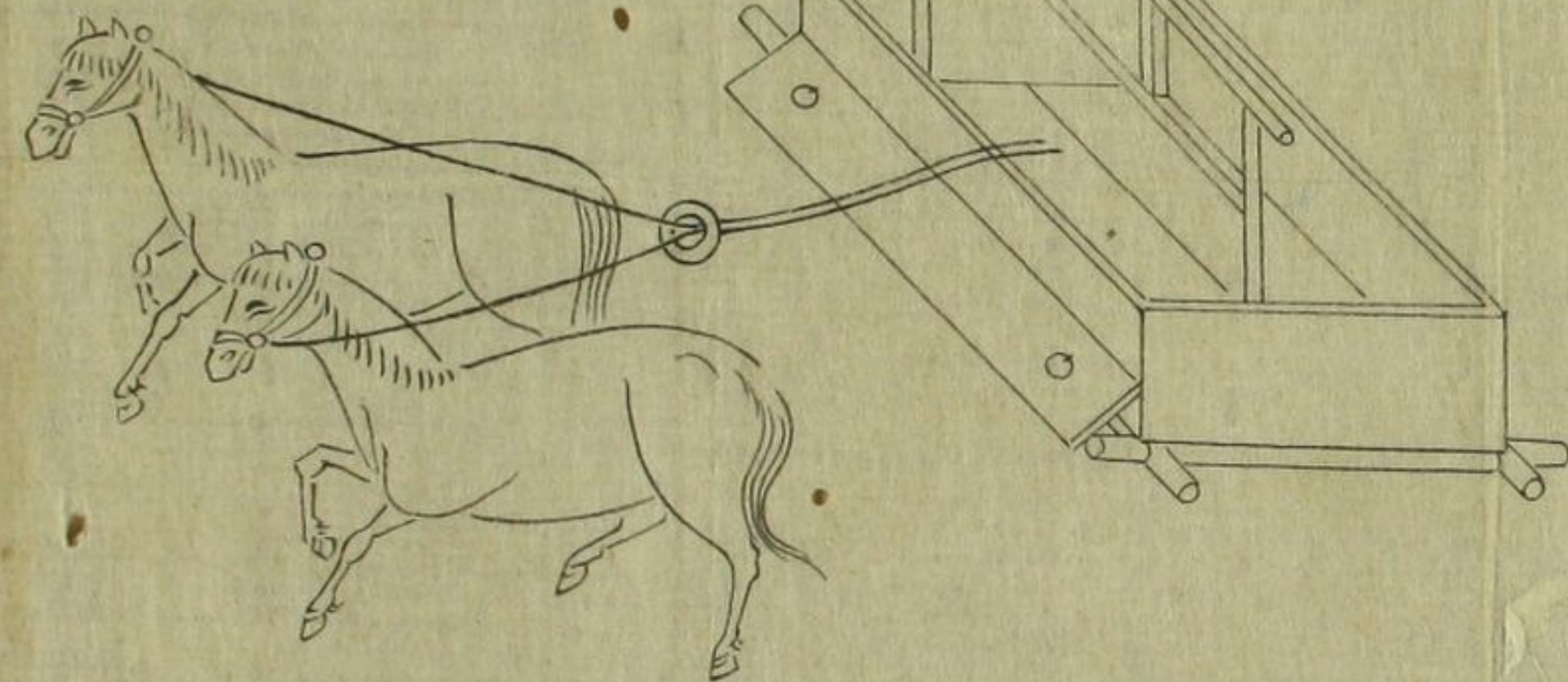


脊驅ハ  
前軫ノ  
餘ヨリ  
餘端ニ  
係ク

服馬衡  
工駕セ  
シトコロ

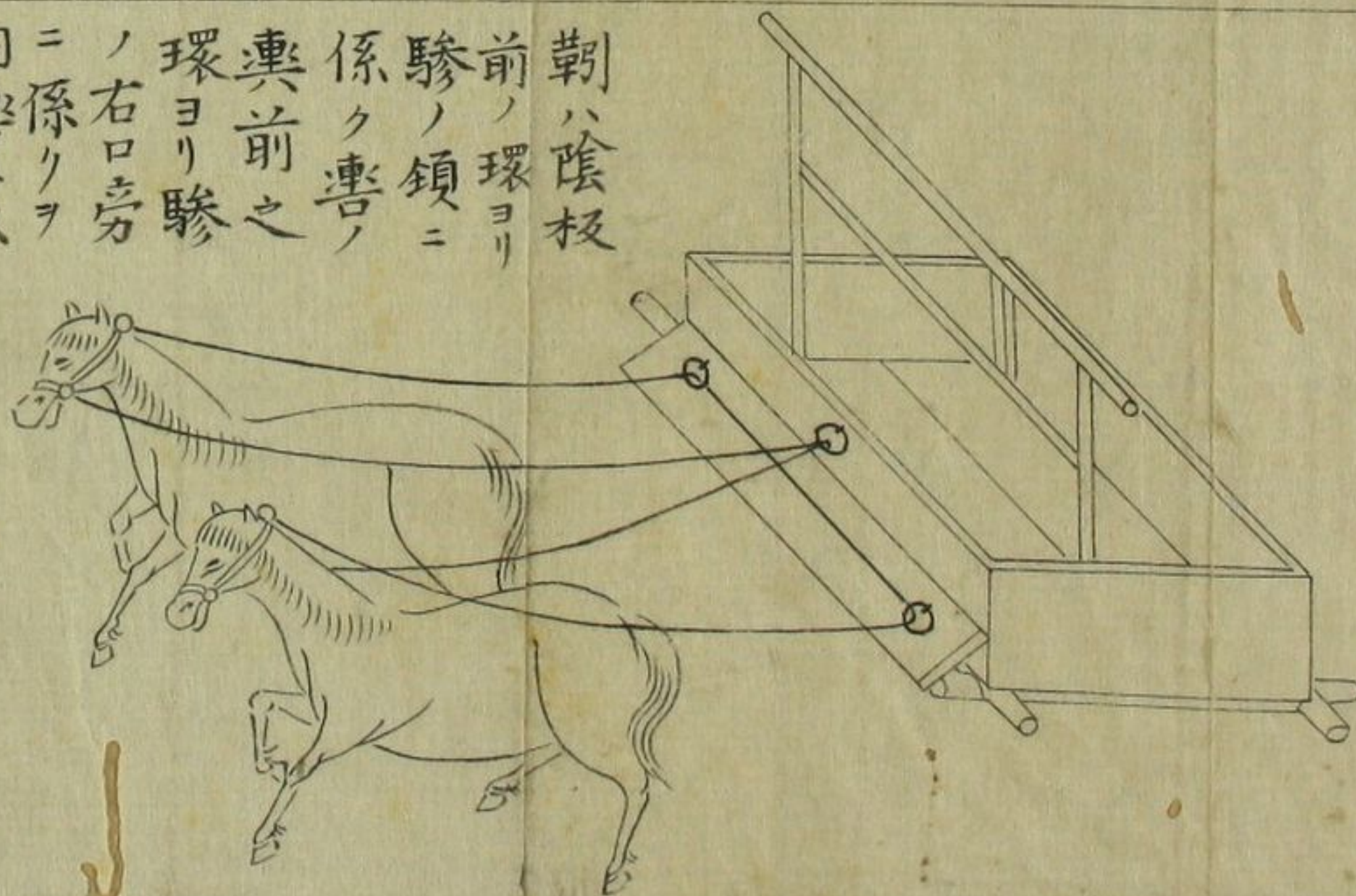


駢ノ外轡  
ハ馬ノ左  
旁ニ係テ  
御者ノ手  
中ニ取ル  
環ハ駢ノ  
外轡ヲ貫  
キ其外出  
ヲ禁ス

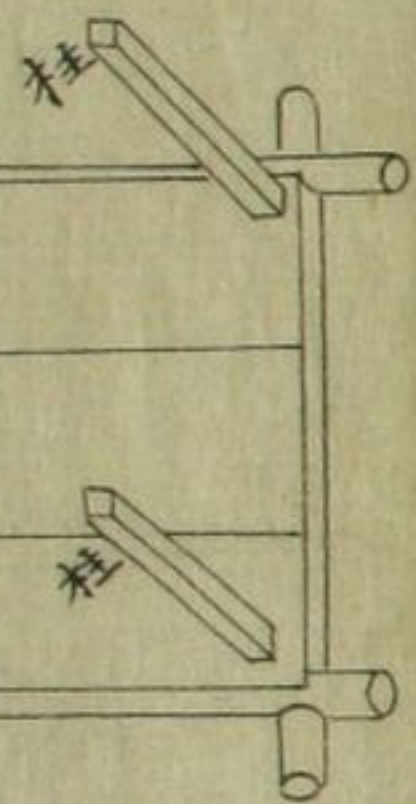
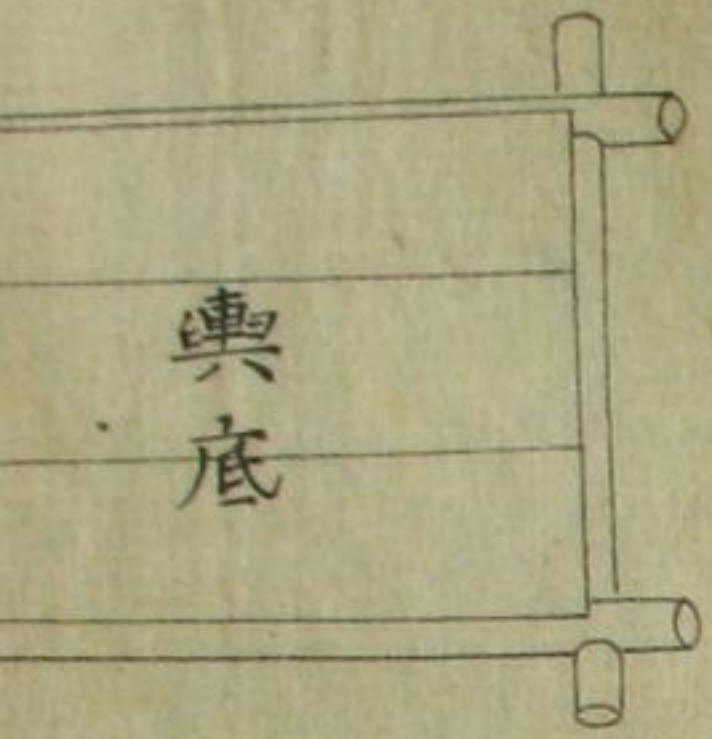


服馬ノ内  
外轡ト  
モ御者  
ノ手中ニ  
トル

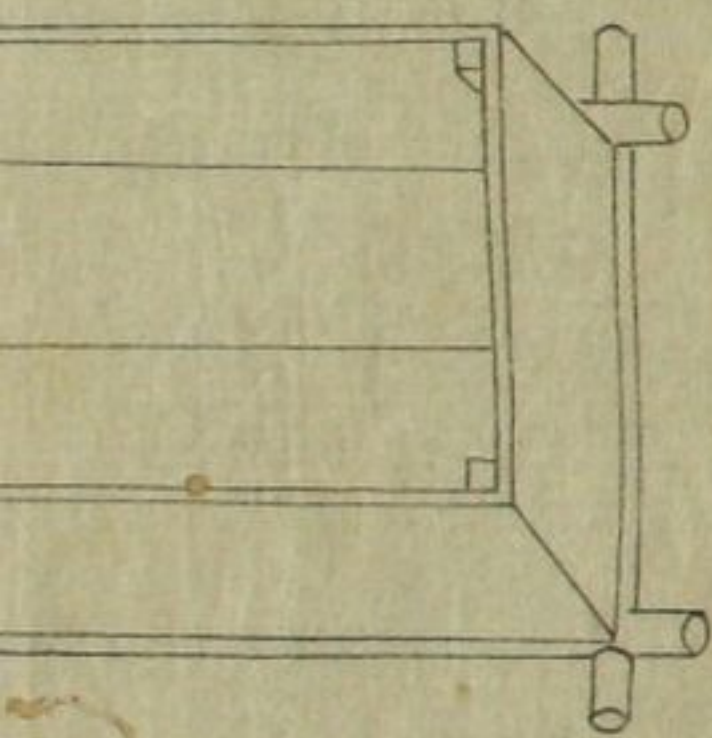
朝ハ陰板  
前ノ環ヨリ  
駢ノ領ニ  
係ク轡ノ  
輈前ノ  
環ヨリ駢  
ノ右口旁  
ニ係クヲ  
内轡トス



輿底



輿



人ノ車ニ升ル後軫エフミカケテ  
内ヘイル







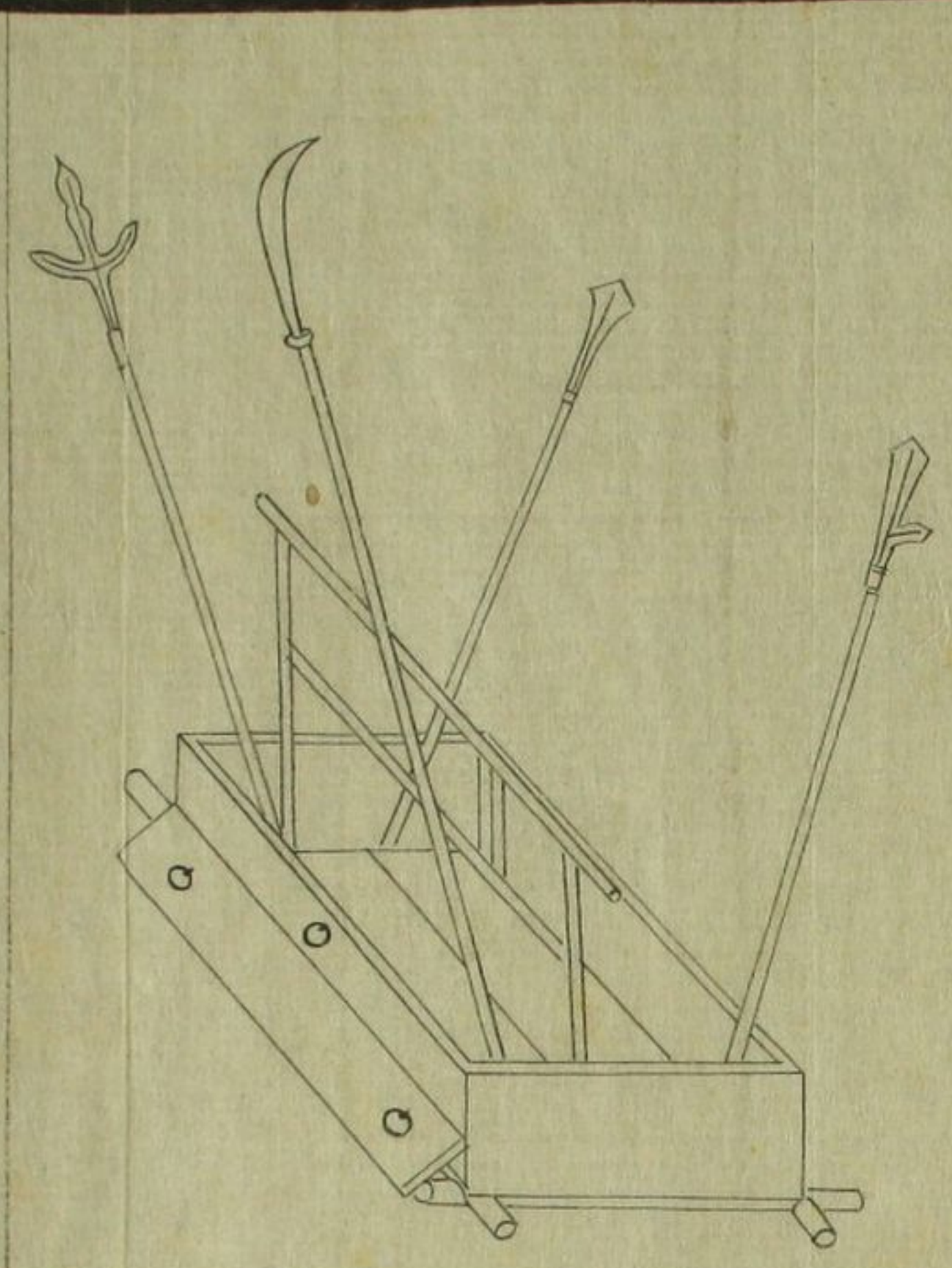
長一丈二尺

長二丈

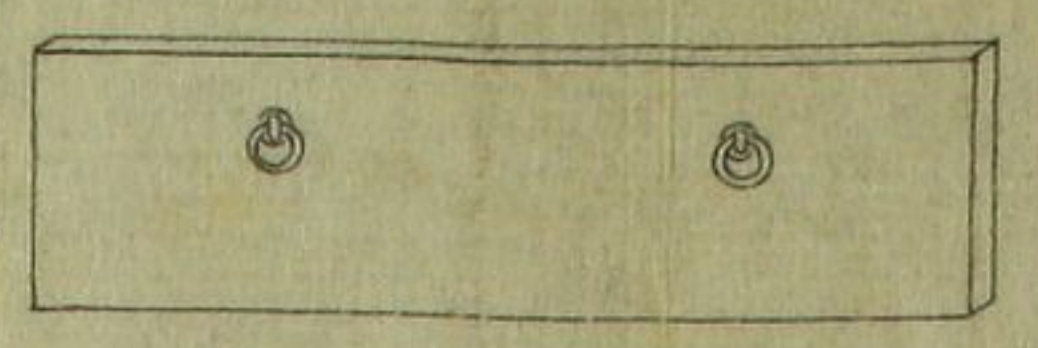
長一丈六尺

長六尺六寸

直刃長一丈

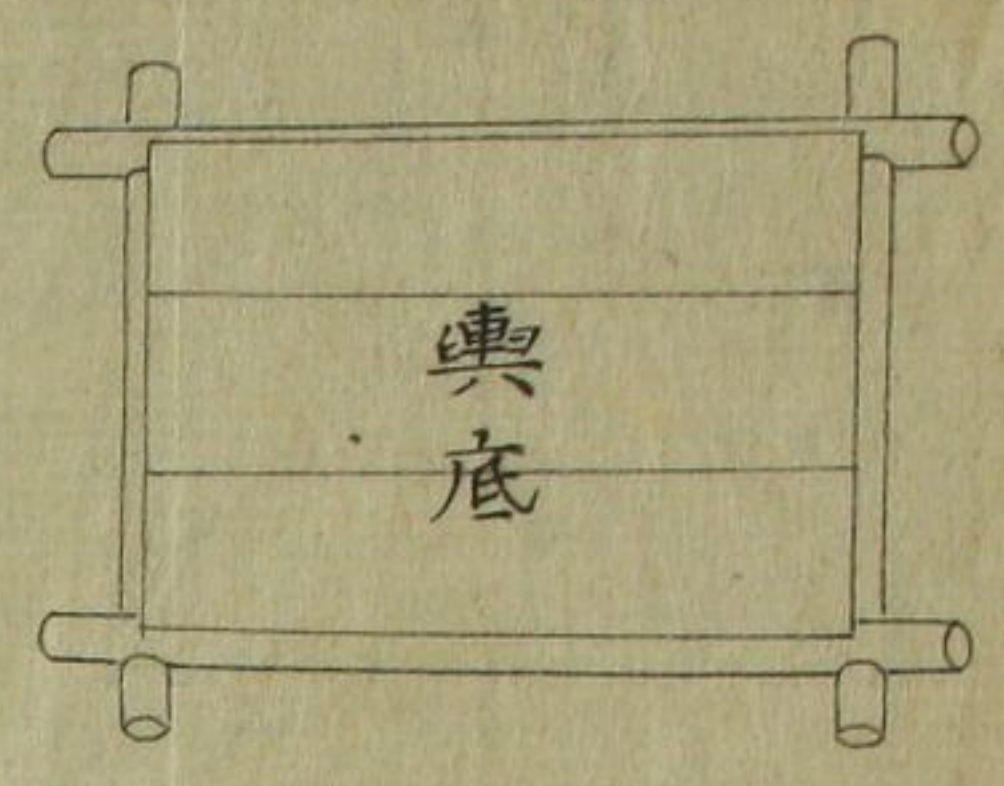


板陰

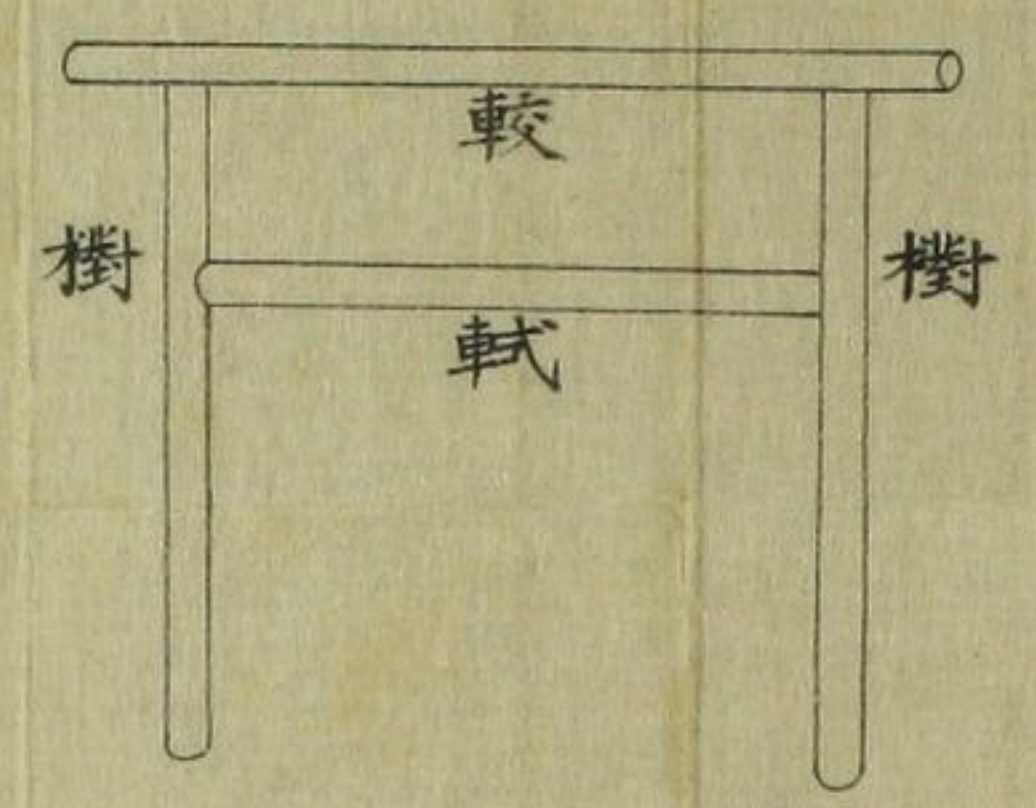


内鞘環

内鞘環



輿底



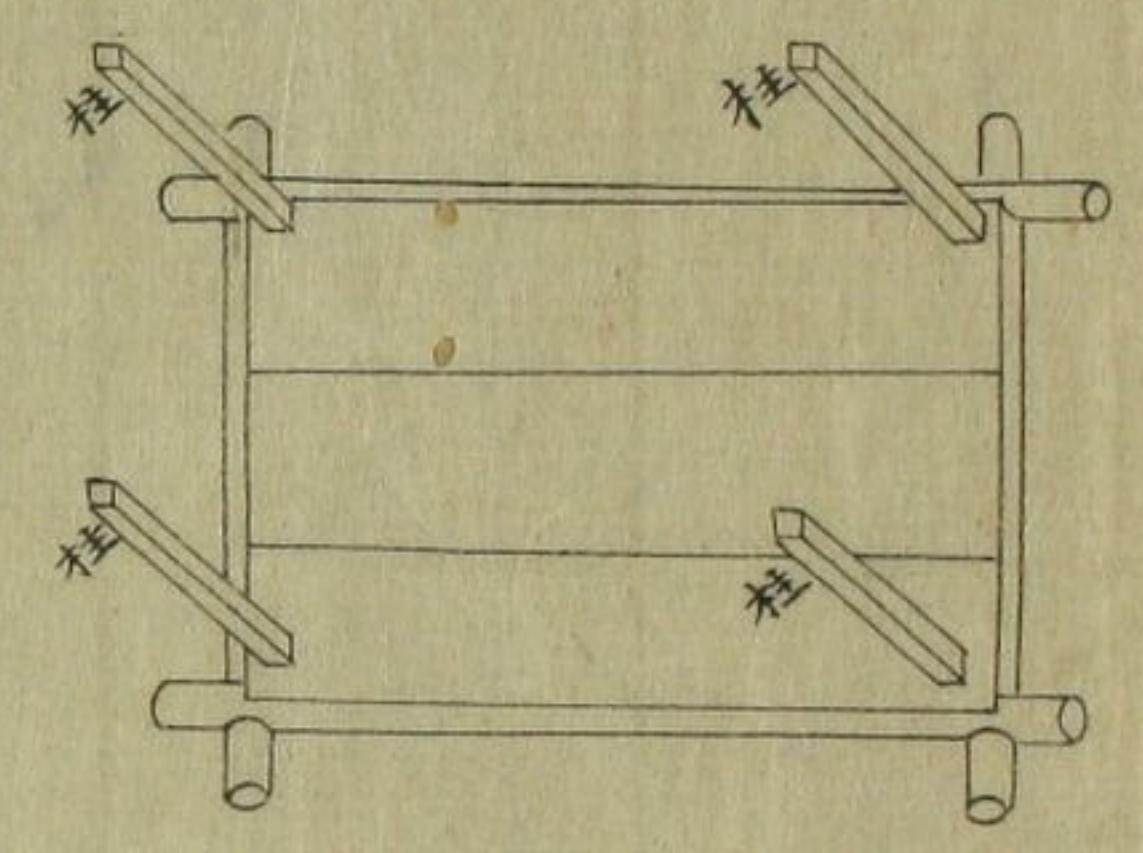
較

軾

樹

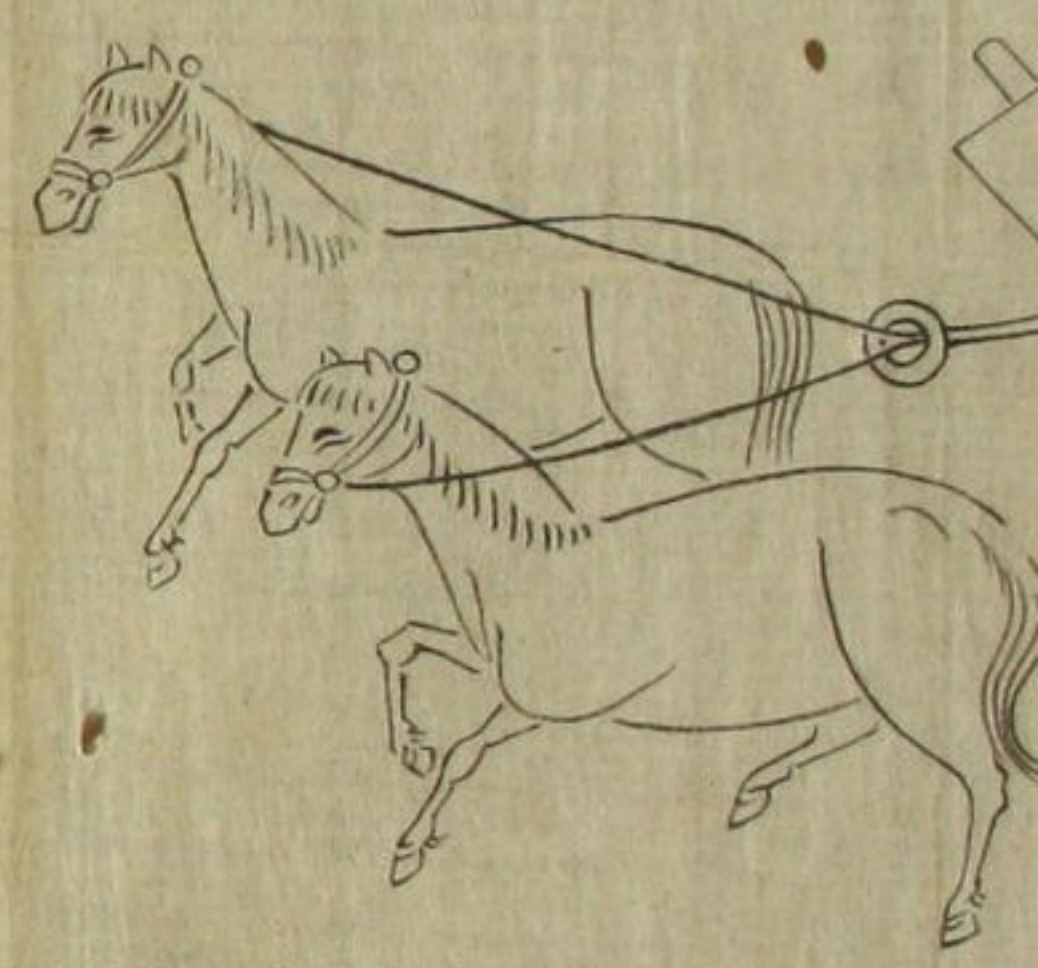
樹

較軾之木ノ圓方ヲ説サレ凡  
圓木ナルベシ



輿

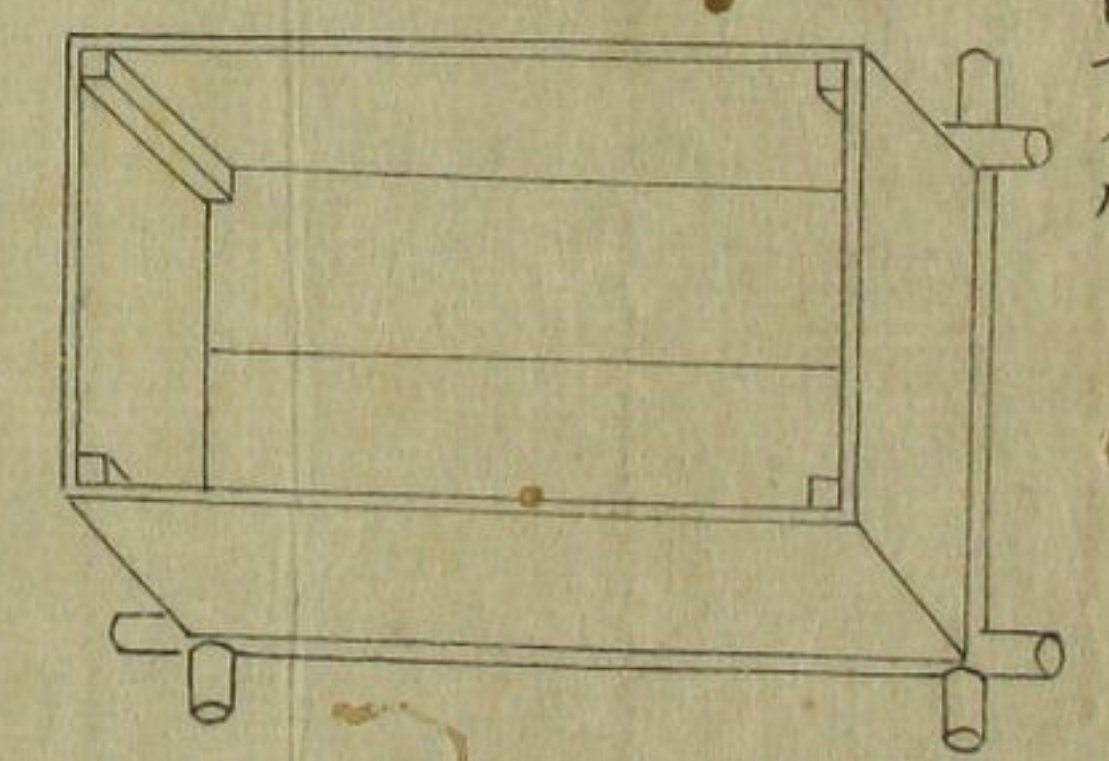
駢ノ外轡  
ハ馬ノ左口  
旁ニ係テ  
御者ノ手  
中ニ取ル游  
環ハ駢ノ  
外轡ヲ貫  
キ其外出  
ヲ禁ス



裏板之右左之輿



環 柳 戈 艾 戟 矛



人ノ車ニ升ル後軫エフニカケテ  
内ヘイル



寛政庚申歲夏四月上梓





重刊博古圖序

古人制器取法于象百工司之類以義起日用咸備所以周天下之用而已迨考之三后以來圖書如詩書左氏所載則又不徒用也其郊廟朝著吉凶慶恤鄉閭比伍服御器用往往臣下為君上監制子孫為父祖專設至其銘款咸祝祈壽祉期之世世甚而用之酌功德以為賞典須侯牧以為世守上下貢賚動以名器為重如闕鞞之甲密須之

鼓宣后鞞鑑之器先吳壽夢之鼎之類是也何也

蓋爾時天地之運淳渾而作德養才者備故不特參擬盡神懽愉成化作則垂憲而已雖器用之類亦未有不順軌盡制者矣試以伍金之範流傳人間者觀之或嘉宴犧象或清廟彝鼎以至於壺壘舟首敦觚鬲鏡之屬其銘識則鍾鼎魚鳥之文其賁飾則雲雷龍鳳之象其形制則方圓高下之式舉纖麗而合中正古質而寓工巧以養以戒均有

取義焉稽之後世大工者則淫巧大樸者或駁略故孔子所以有不觚之嘆也嗚呼法服法器古人非所以為麗也惟心一于正則于是皆不苟焉推之于大者其先王仁政之形井田學校封建禮樂之類意者皆其心神之妙也是以形而傳彼典籍今亦耿耿也有志者考古人之器則由是而知古人之政矣宣和收錄其志恐專為器為噫為器則敝矣予若是籍艱于好古者爰屬掌鹽司者黃君

景星再博佳木而翻刊之是亦孔子存羊之意焉若曰玩物喪志則予不敢

大明嘉靖七年歲在戊子菊月望日樂安蔣賜序



西清古鑑云石斛斗升合釜凡五統曰量為一施合今尺道高八寸二分  
道闊一尺六寸五分斛深七寸二分徑一尺四分斗深七寸二分與斛同升深  
一寸八分有一徑二寸一分合深七寸二分徑一尺四分斗深七寸二分與斛同升深  
尺每一尺當合七寸二分通重三百六十三兩五錢五分漢時曰新其偽詔曰  
予伏念皇初祖考黃帝皇始祖考虞帝此銘首四語是也咸在大梁  
龍集戊辰則居攝之三年改元初始矣戊辰直定則始纂之日按漢  
書以戊辰直定御王冠顏師古注謂其日皆定則猶言定日也莽安稱大  
德銷蓋土德當代故言據土德其日改正建丑蓋莽以戊辰十二月朔陰首  
為建國元年正月之朔也又漢書莽策君司有曰白燁象平考量  
以銓改其時為建國元年今銘云龍在己己歲次實沈適合蓋銘詞  
先叙其篡位之始而制器則建國元年也大梁昂星季春之月實沈  
商星孟夏之月故戊辰日歲在大梁己己日歲次實沈皆歲星所在也  
周禮稟氏為量銘曰嘉量既成以觀四國而此器亦名嘉量恭儆周禮  
以憑慈天下於此亦見又據黃鍾之律積合為升以至於斛居  
然有虞氏之制度故曰律嘉量也鹿旁云鹿吐彫切廣韻謂不滿之  
貌莽為漢臣而盜竊名號至於改正朔異器制其銘詞曰初班天下萬  
國永遵于孫享傳德年與秦二世傳之萬世者同一妄誕今株  
入黃錄不書新而仍命之曰漢亦春秋遺意耳

兩漢金石記云器時量銘五段前一段其銘文也後則分銘于斛  
斗升合倫也漢律歷志量起于黃鍾之合合倫為合十合為升十  
升為斗十斗為斛而五量嘉矣其法用銅方尺而圍其外旁有鹿鳥  
其上為斛其下為斗左耳為升右耳為合論注鄭氏曰算方一尺所受  
一斛過九釐五豪然後成斛今尚有玉器時銅斛制畫與此同也  
按玉器銅量未知存否今所見摹本篆文如此又云前一段篆文二  
十行四字惟第十三行五字大建初尺將及寸許斛斗二段各七  
行每字五分許升合倫三段各七行每字或二分許或三分許  
鴨按金石記所錄銘詞雖有摹本而篆楷相錯字畫不准且篆法  
亦未合如辨作釐懶作憚之類今從西清古鑑更定焉又市字前  
釋作米今觀隋志明是市字說文市周也言反之而周也疑取帝德  
周而後始之義周字篆書釋作寬暢謹按隋志係是市字此當  
為市之消文篆百六十二寸者言圓圓之寸數以勾股法求之自見又以  
十乘之故積千六百廿寸也漢志但云重二鈞而不載其銘詞惟隋律歷  
志引後魏景明中并州人王顯達獻古銅權一枚上銘八十一字其銘

云律權石重四鈞又云黃帝初祖德市于虞云以新稱之重百  
二十斤與此第一銘同而多上六字六字當是別刻一處不與銘文  
相連其重四鈞較漢志則多二鈞今此量重二十二斤餘即以新稱  
衡之亦無四鈞當別是一器隋志又收律嘉量斛銘入嘉量而以黃帝  
初祖銘入權衡蓋因其銘之上有律權石重四鈞六字故以此為王莽  
時銅權而斗升合倫四銘不錄為竊謂此即莽量蓋量之則為  
嘉量衡之則為權隋志誤分為二也又考十六國春秋後趙錄云趙  
王三年王和掘得圓石狀如水碓銘曰律權石重四鈞同律度量衡  
有新氏造參軍續成以為王莽時物遂命下禮官為準程云  
銘文雖簡而畧同惟云負石殊不相合豈莽時亦以石為權耶周之  
嘉量容一鬴故重一鈞莽之嘉量容一斛故重四鈞實不相遠也



商象形馬戈戣

阮若臺制軍藏

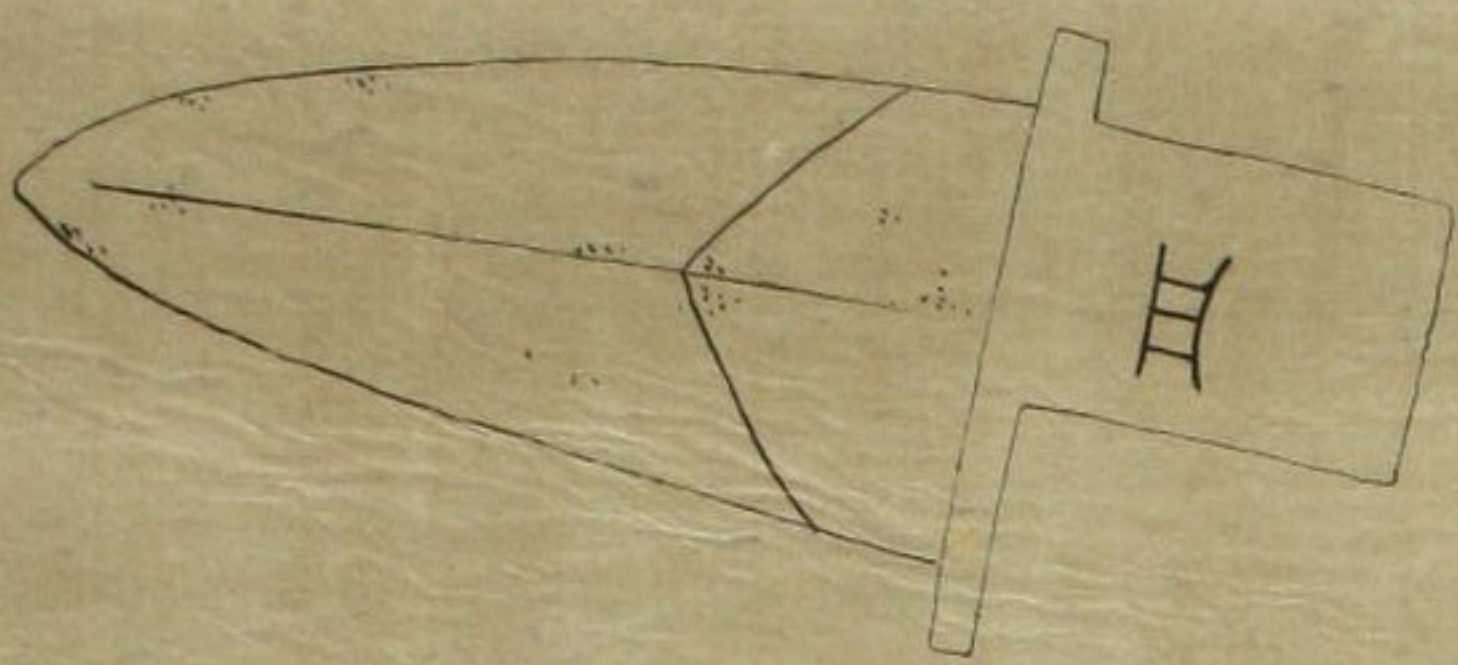


此器與前圖一



積古堂作馬文司女云面銘馬形項有鬣尾有三岐背銘即此器形安秘  
如立戈象此器如戈橫援木不為內而為登上下相穿以安秘銘在登長出處

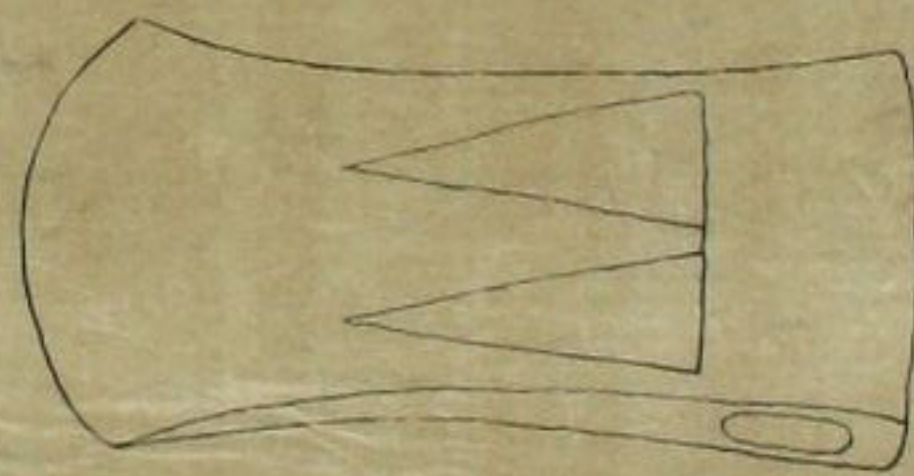
商舟戈



此器似戈似戣，無胡戈之胡，不  
如是之短，与方工記不合，疑商時  
戈也。內銘止舟字，蓋人名古之舟，  
与周通，用鼎彝中，每有此名。

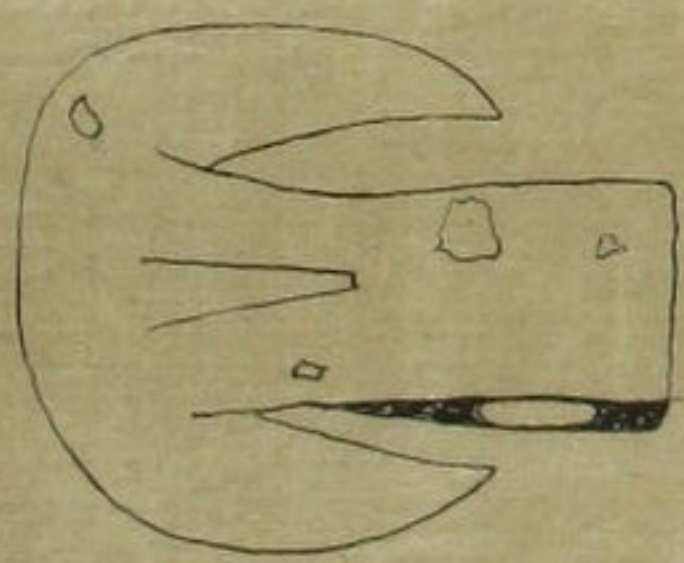
金素二

古戣



謝樸園云嘉慶癸酉秋得于  
盧氏縣有鑿可以正柄，疑古  
時儀仗所用，函有陽文巨疑  
是戣字，鴨按巨乃花飾，未必  
是字。

古戚



桂未谷云小銅戚一，辛  
丑七月得于洛陽。



全葉二

乙劍

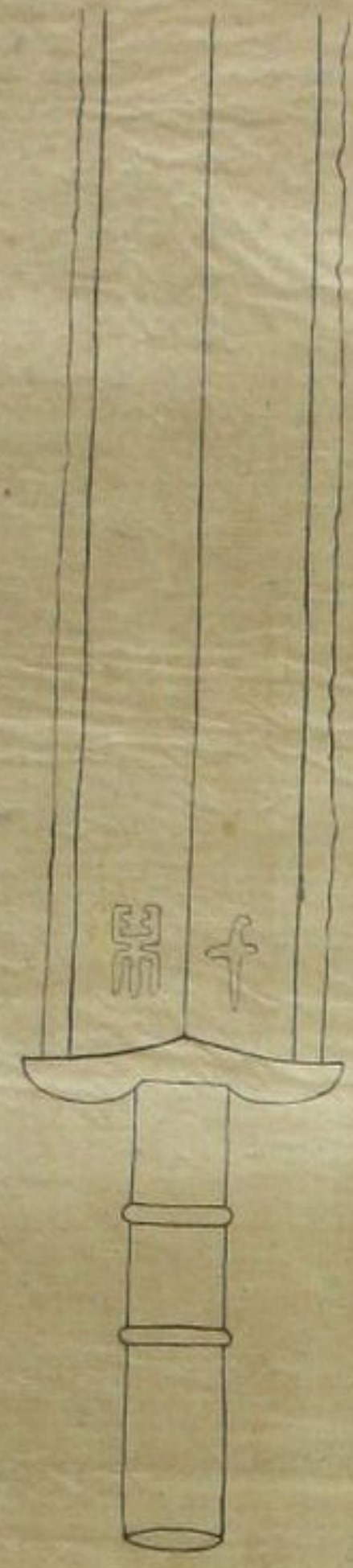


此黃秋盒司馬拓本銘乙戈二字劍而曰戈乃古人通用之文猶易而曰彘而曰禹也職上隱有豎竊之文已磨泐莫辨

乙戈

生於地然而真教

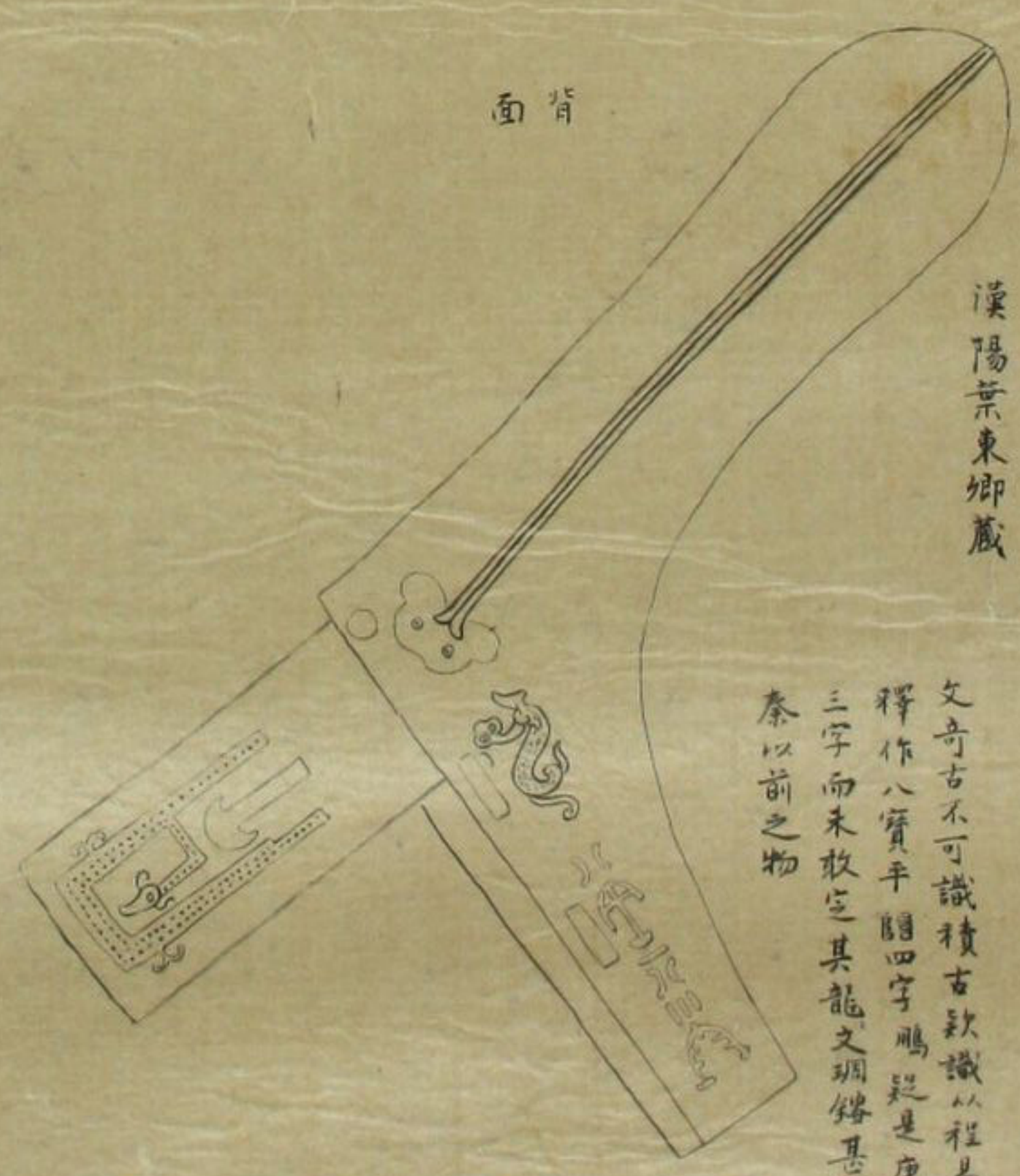
古劍



項自任城得一古劍較謝樓園劍長一寸闊一分形制畧同有朱絲銘刻二字陰文鈿金為之在其臚曰千馬此庚蘭成刀銘所謂價重十城名高千馬者也或云係千萬二字言所值千萬也

商瑀戈

漢陽葉東卿藏



文奇古不可識積古欵識以程易時說釋作八實平爾四字疑是庚永用三字而未敢定其龍文瑀錄甚細必用秦以前之物

面背

周吳季子子逞劍



吳季子之子逞之永用劍

劍銘鳥篆文字其季字用字與夏瑀戈鉤帶相類精古非常以周尺度之長三尺八寸廣二寸半重九鎰士之劍也銘在其臚此康熙八年孫遜言侍郎得于隴陽袁氏可謂一字鼎以千金者積古欵識述之甚悉











如前之入司職事

任先例之儀

不之令曾也之儀

之儀

三長年

有衛人

同日之儀

三浦

三長年為令之儀

上別天皇御司職

之事

沙羅新之儀

儀之儀

佛授文中之儀

之儀

長年

三浦中長年

長年

上別天皇御司職

任先例之儀

不之令曾也之儀

三長年

三浦

任先例之儀

之事

沙羅新之儀

儀之儀

佛授文中之儀

之儀

長年

三浦中長年

長年

森川



大正十一年

一

主感おひの末  
再すきあの本  
乃先済中お人重  
アラスカ多報財  
くわ也はちを  
はあてこころと  
すこしを御免  
く地下人下分  
七方町を御免  
お存に約九

お存に約九  
お存に約九

大正十一年

一

上列天皇御機  
儀 清泰所  
諸般也官別  
品と御感  
一申は御書御給  
く事に方り御  
清次折 高  
堤地方と御免  
も御免河和  
候も御免御  
下御中付と御

お存に約九  
お存に約九  
お存に約九  
お存に約九  
お存に約九  
お存に約九  
お存に約九  
お存に約九  
お存に約九  
お存に約九







於此何名...

遠路之形孔之...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

為出陣新務

...

...

大永六年丙  
九月廿三日為實及

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...











天香閣

五月廿二日在書齋

如夢一

畫之成致作

事如夢一不若

出別而大自識

本紙上白...  
言...  
...

王...  
...

...

天香閣

五月廿二日

如夢一

畫之成致作

事如夢一不若

出別而大自識





行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

Handwritten red text in the top right of the right page.

敬啟

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the left page.

敬啟

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬

行天... 敬





孝悌  
忠信

禮義

廉恥  
節孝

忠貞  
孝悌



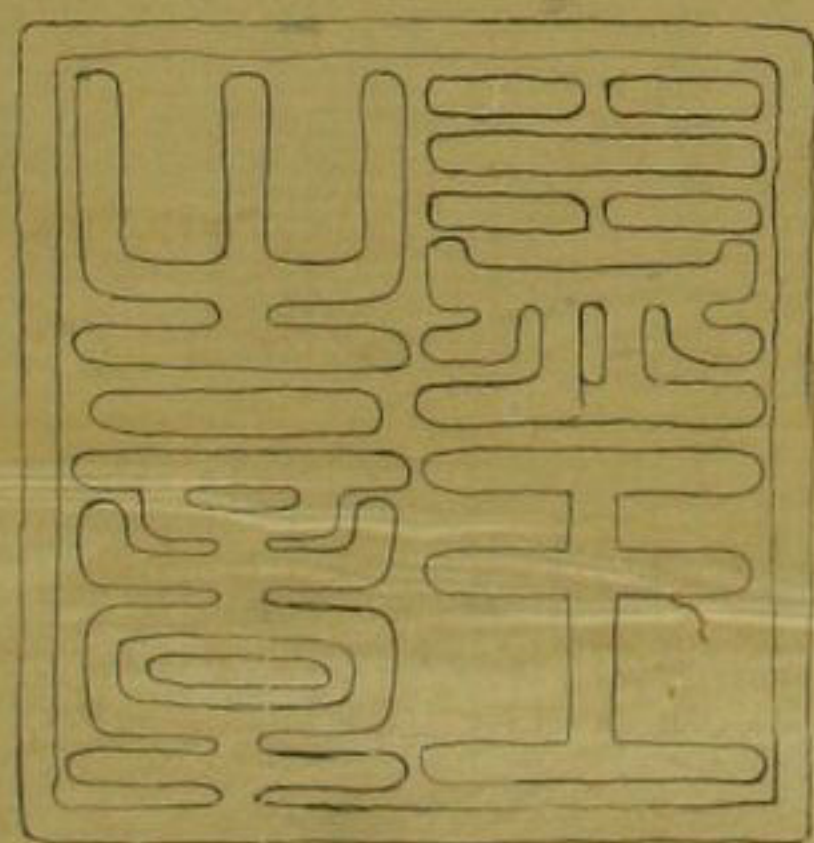


行

破

人

酒



酒





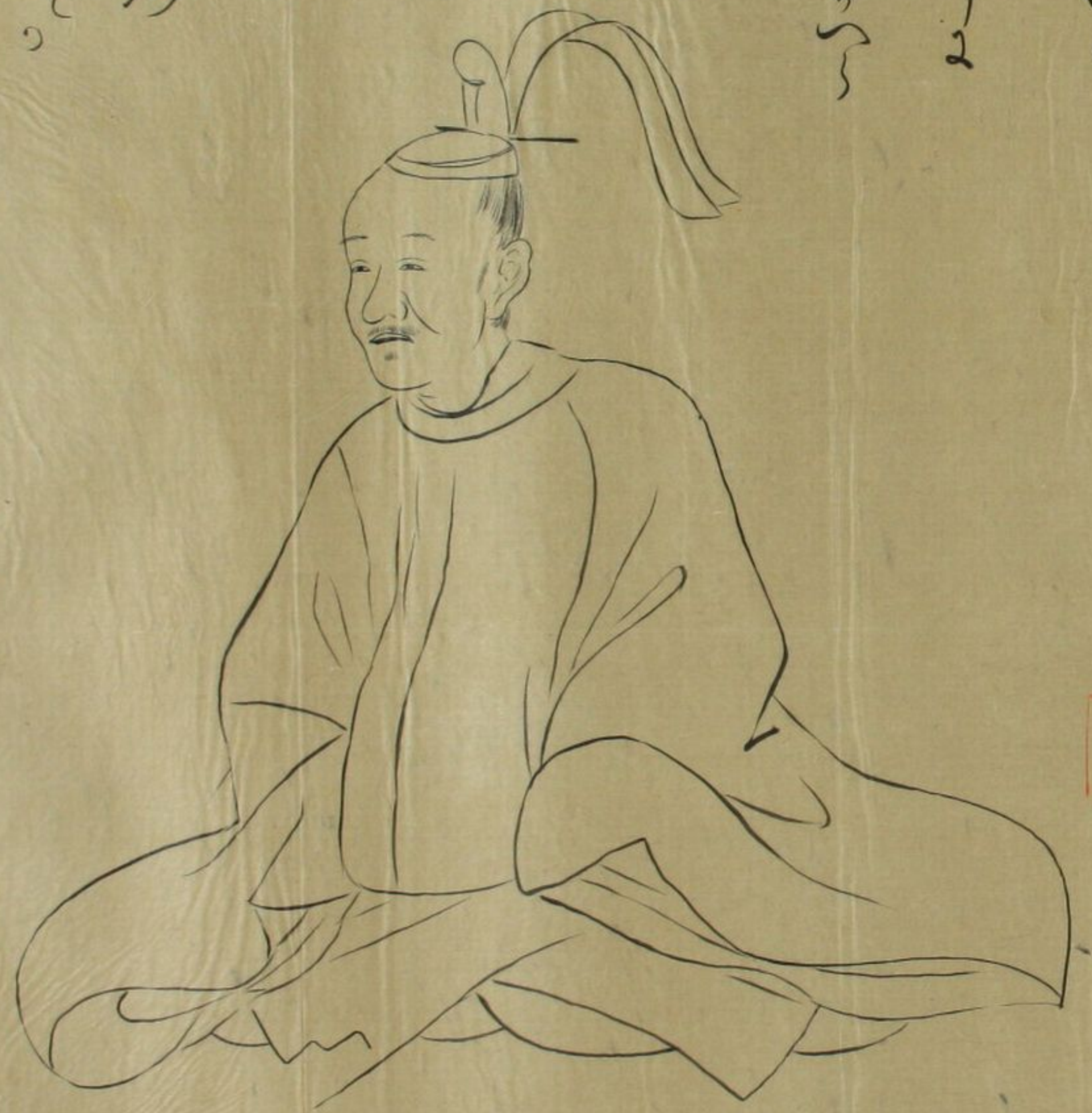
卷之九

野烟出夕流  
山月照秋林  
送行中及興  
來偶出兵  
集

卷之九



道元  
 大  
 及  
 心  
 井  
 鶴  
 田



伊勢  
 子  
 虎  
 申納吉



五  
 三  
 一  
 六





田舎の三太郎

いふとも

ふま

何了

えり  
つり  
つき

伊勢濃

海

おひろ乃

濱

尾  
申納言朝臣



道長

大  
及原清

三太郎

心

う

あ

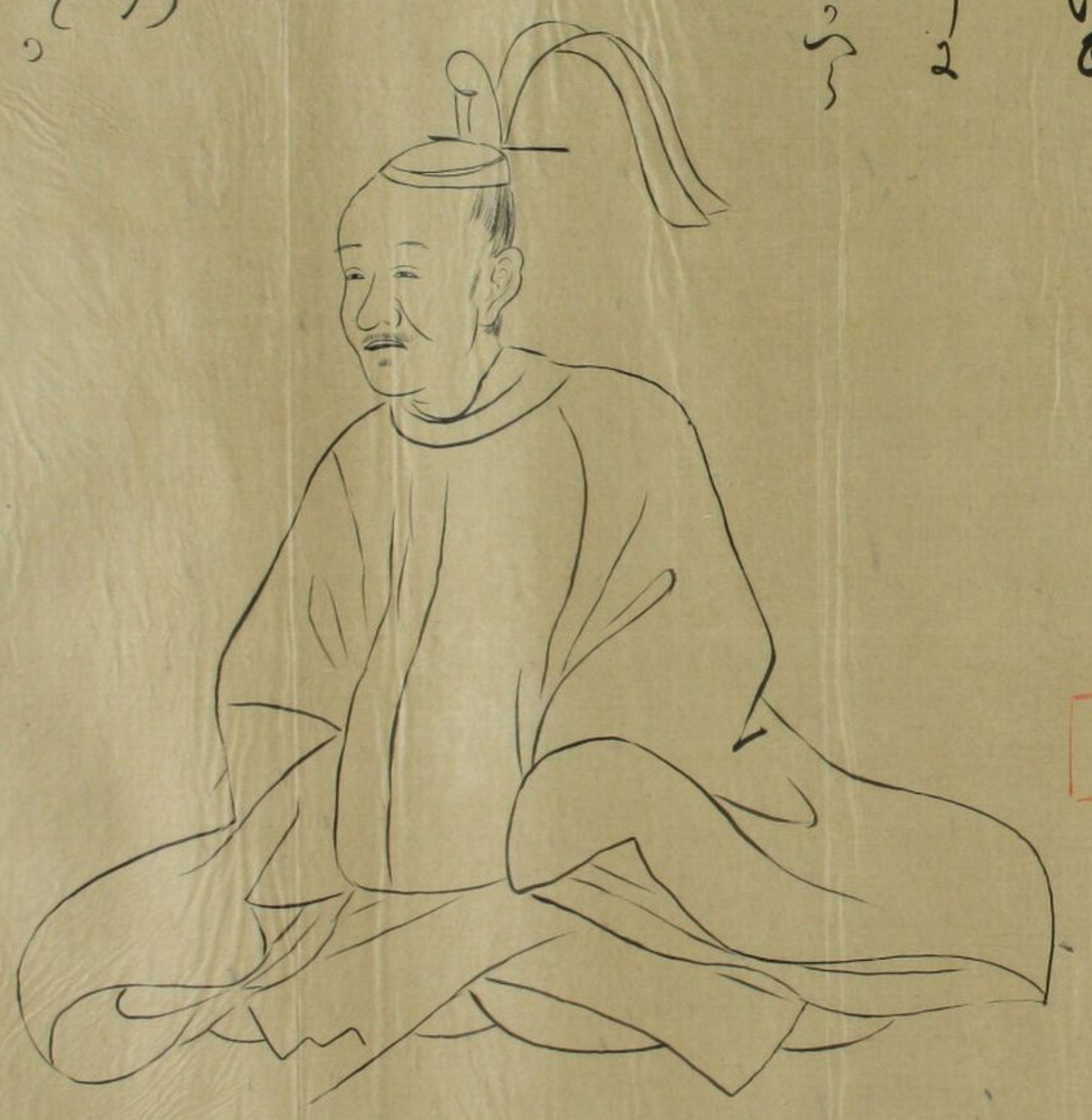
井の

酒

鶴

う

か





◎萬朝報(六月十九日紙上)曰く

「東洋美術大觀」これ自今審美書院が數十月間に完成せんとする出版物にして、計畫の大要は過般報道する所ありしが、頃日早くもその一部の體裁を見るを得たり。材料至精、印刷至巧、蓋し、これやいふべくんば空前絶後の偉大の産物の一にして事に與れる鑑識家、製版者、印刷者またいふまでもなく出版者の勞は以て古今に誇るに足るものなくんばあらず。こゝに於てか吾人世上幾多の空々冷冷知りて知らざるが如き人々に對して警告すべき責務あるを感ず。試に思へ、世の翫賞家たちよ、卿等が珍重秘藏して家寶とする畫幀圖中果して所謂折紙の疑ふべからざる保證を得べきもの幾何ありとするぞ、卿等にして、そはともあれ、吾等はたゞ自然のまゝなる墨色を好むなり、自己の所有に屬するもののみを愛するなりといはゞ、則ち止む。然らずんば吾人は卿等が知見を擴むる上よりまた美術國の國民の體面の上より切に卿等が似て非なる雪舟、應舉は放ちても、此一本を備へんことを慫慂せんとするものなり云々



何れもあつた

又、東の交り  
ま

たうさふ

ま

松風

ま

ほ

中納言



坊後居る

右 中納言

あ

は

中

人

身

根





子純

子純

北谷

子純

北谷

北谷

子純

北谷



子純

古 清原元輔

子純

子純

子純

子純





義貞於鎌倉首實檢之圖

評判十、下百



○武藏  
○七黨  
○平

馬廻之兵三千内十五百

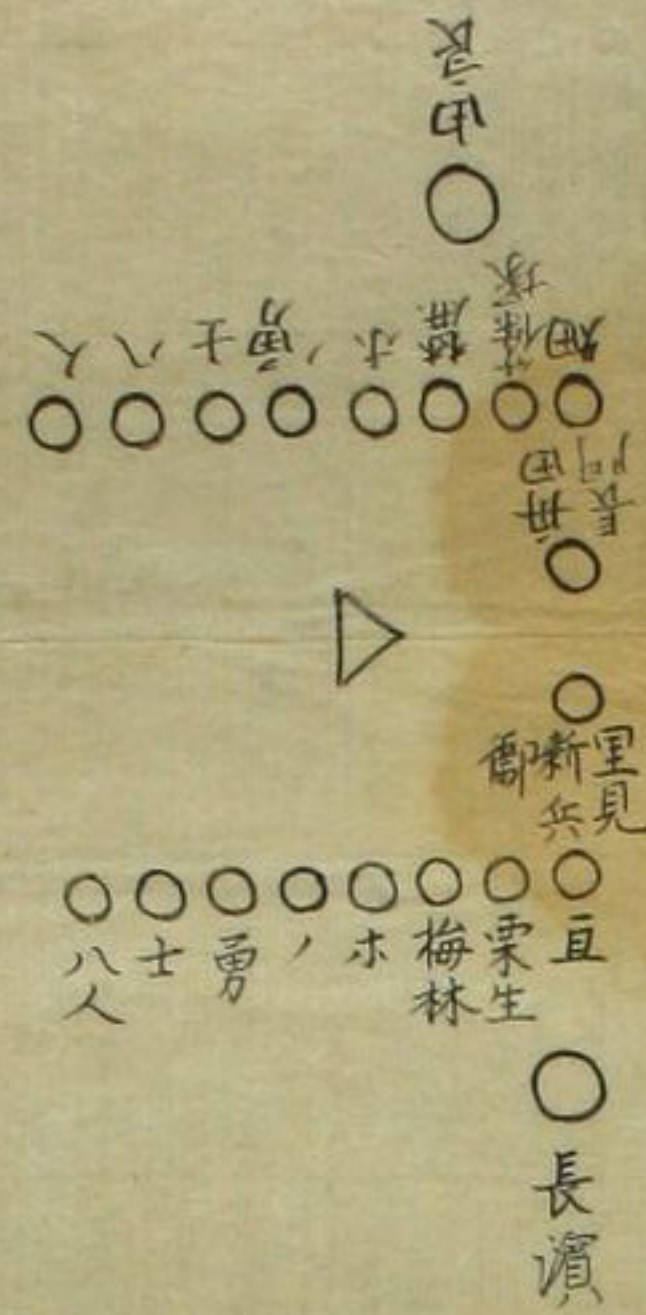
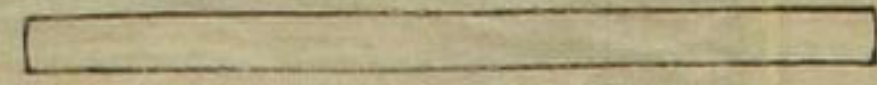
本陣、以同半町

馬廻之兵三千内十五百

○武藏  
○七黨  
○之平



十一内、十三廻馬貞義



十一内、十三廻馬貞義

十一内、十三廻馬貞義



○江田兵部十

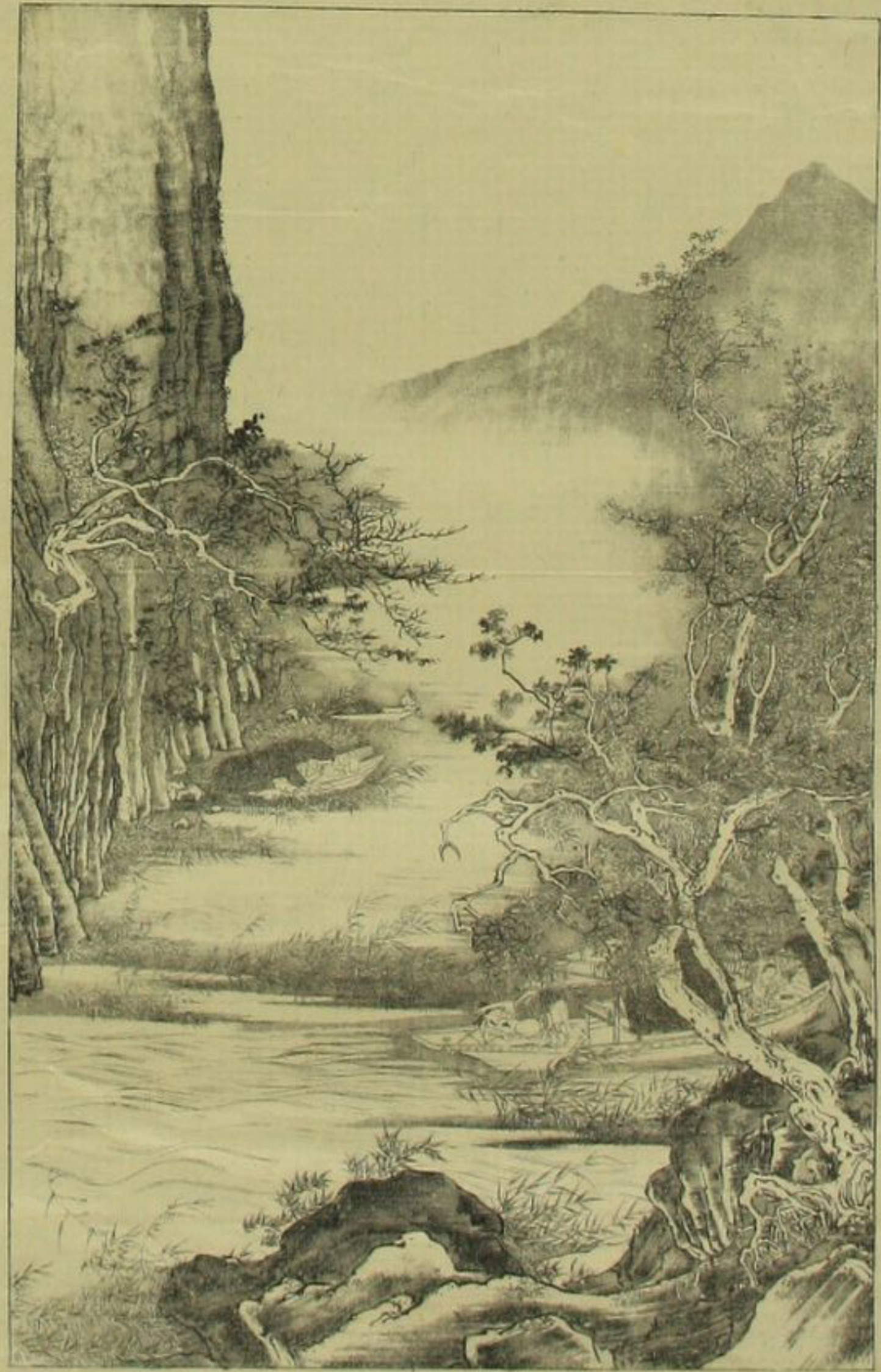
○大沼權七千五百



鎌倉幕府  
建永元年  
十一月

明和丁亥  
藤原筆

本會特別會費内藤仁君所藏



李彬筆  
山水人物二幅對之內  
景四尺五寸二分  
精製尺七寸五分  
上納得之文、編載、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百





文正瑞亭

明和丁亥季秋

藤應舉



絹本 叟幅  
横一尺六寸 竖四尺

本會特別會負内藤仁君所藏





李彬筆

山水人物二幅對之內

聖四尺五寸三分 橫貳尺七寸三分

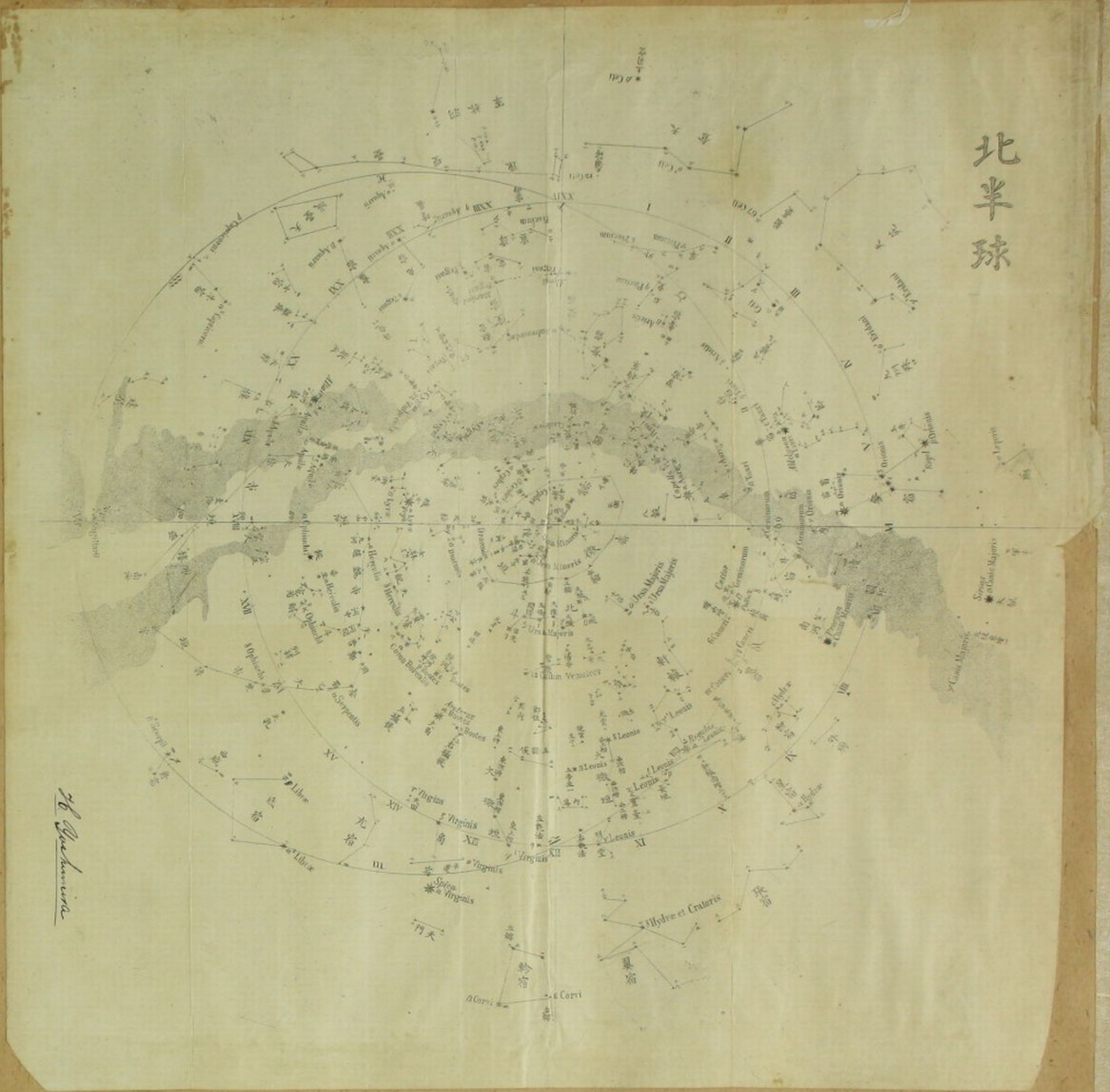
李彬傳ハ次卷ニ掲載ス猶残リ  
一幅モ次卷ニ挿入スベシ







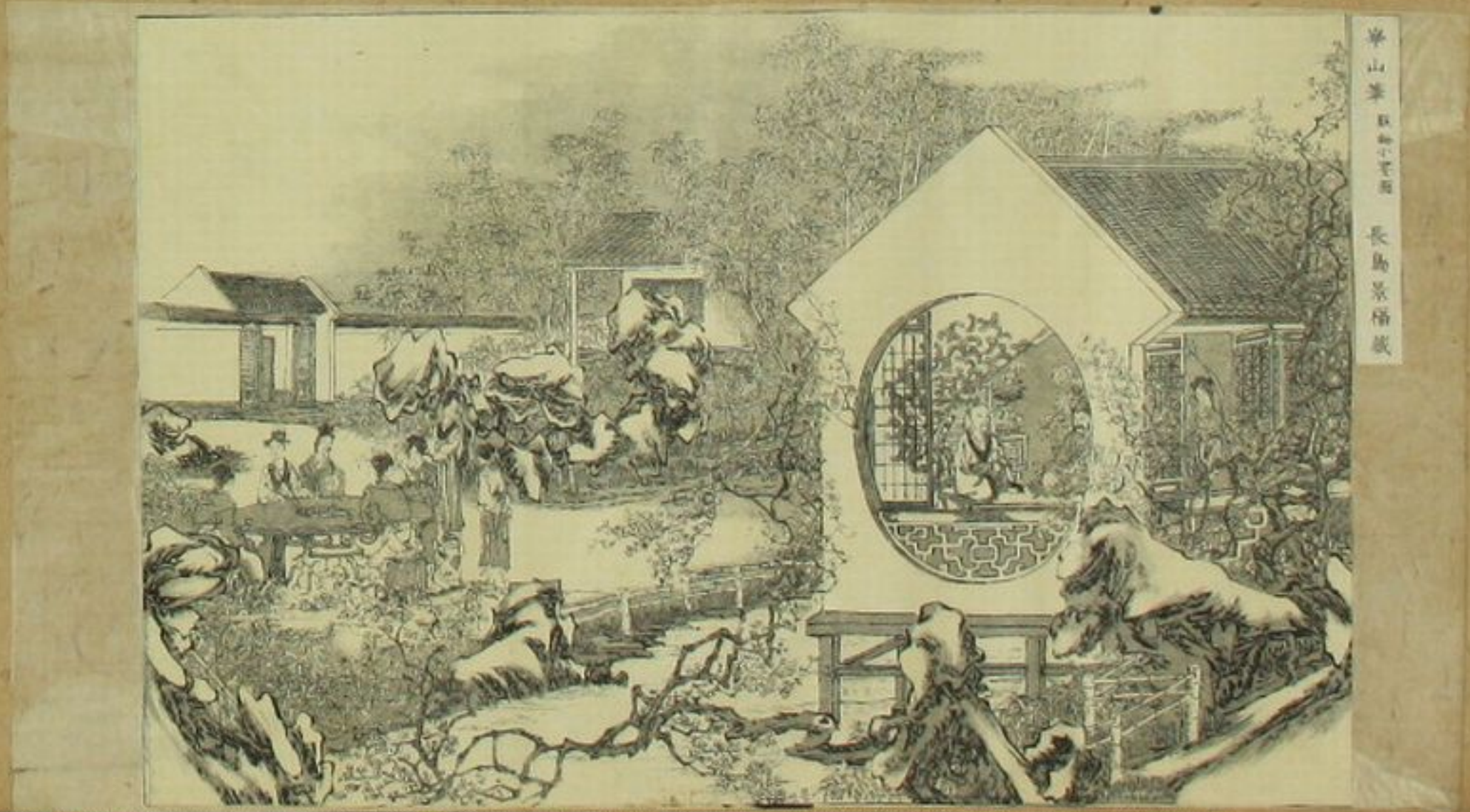
雪村景范画  
青子繪寫



*J. G. Anderson*



吉岡秋之肖像 志帥画王 英成 秋園可也



崑山景范画  
长松景范画



# 北半球









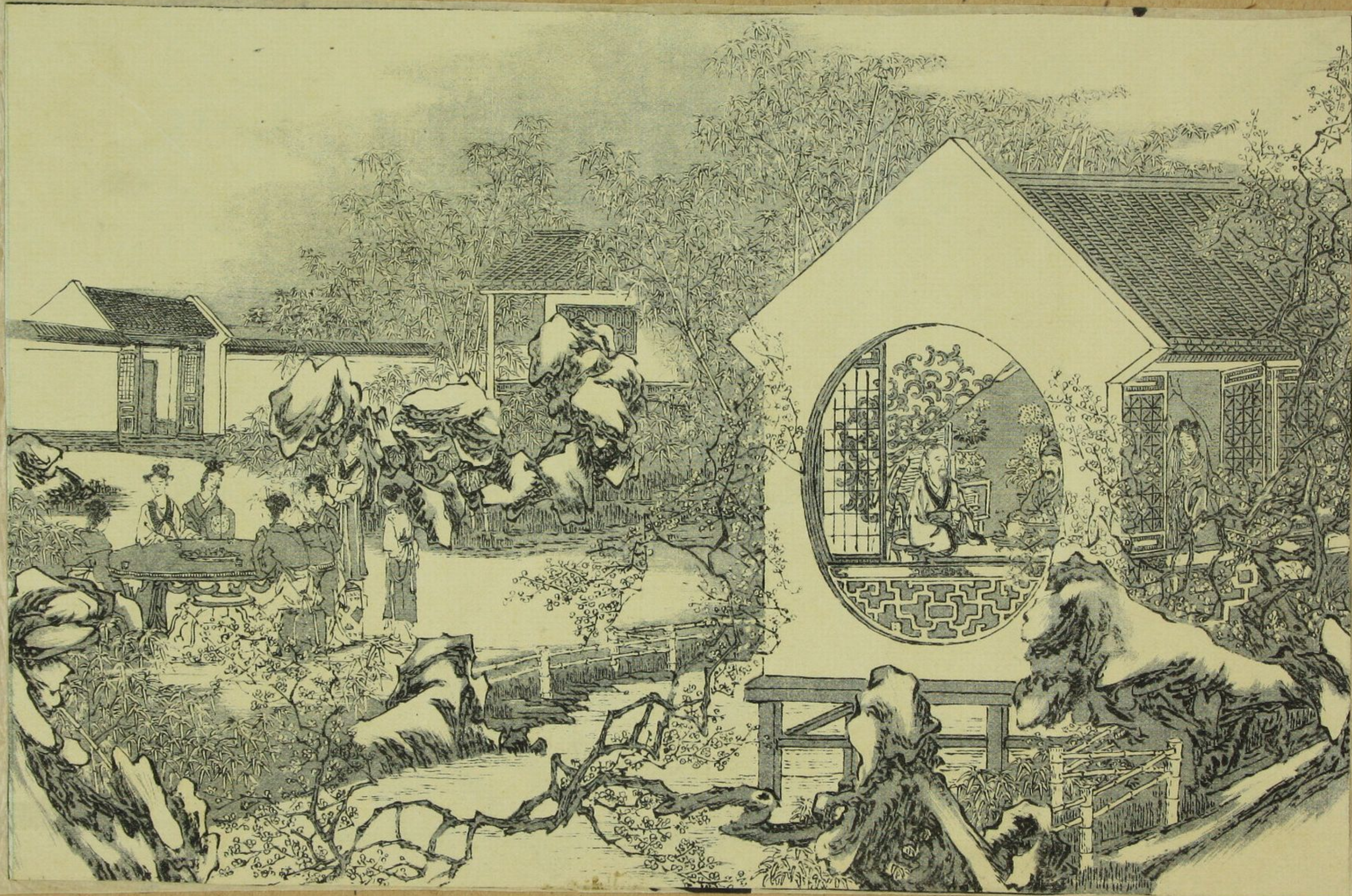








右轉



華山筆 觀梅小宴圖 長島景福藏





雪村筆瀑布布群仙圖

採僕縮寫  
廣業傳寫









宗廟記

何れと雖も、  
元朝を

七朝の書に、  
隆平

まこと神祇を、  
隆平

一、  
隆平

母、  
隆平

い、  
隆平

ち、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平

隆平、  
隆平

卷

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平、  
隆平

隆平

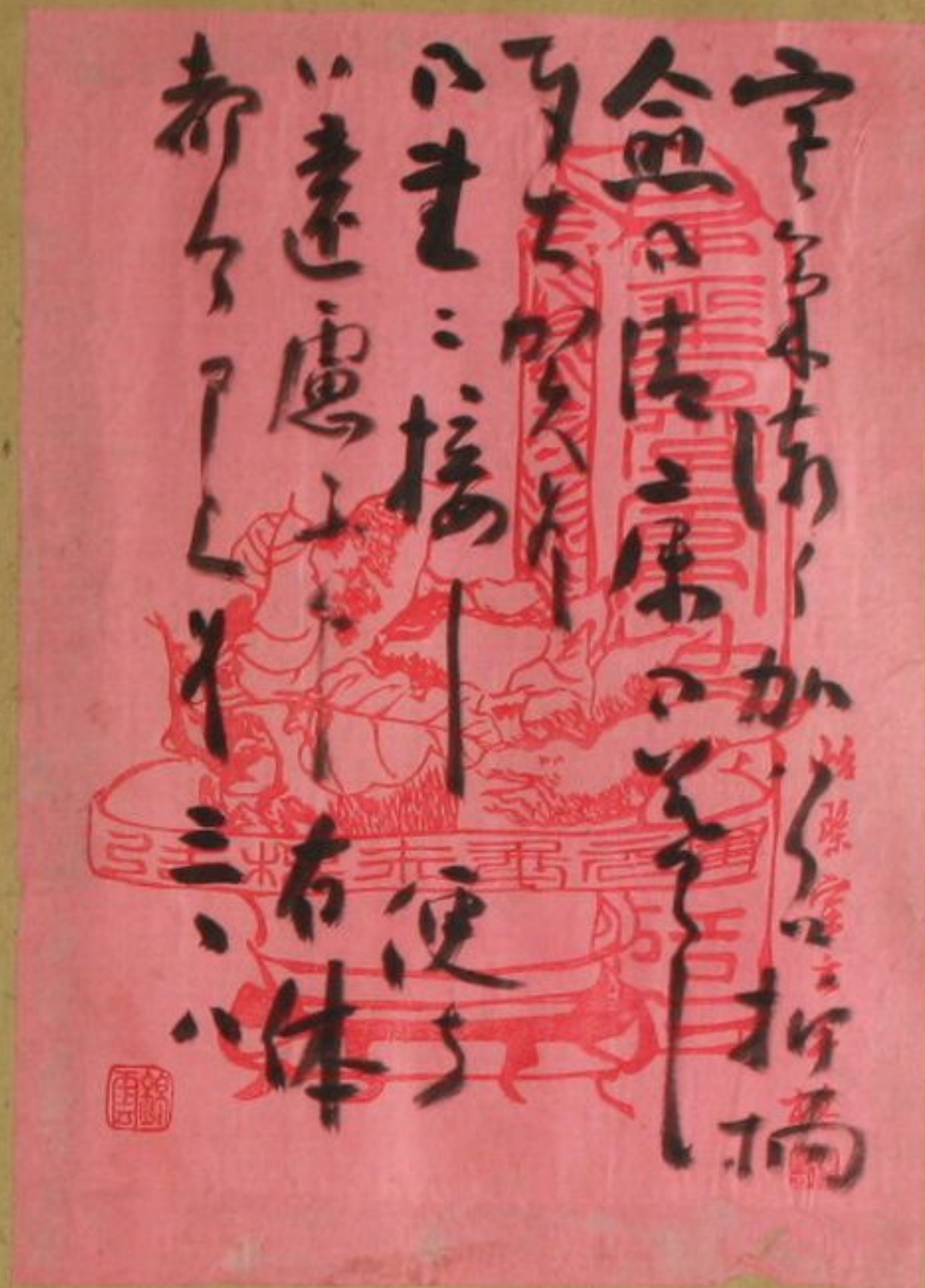
隆平、  
隆平



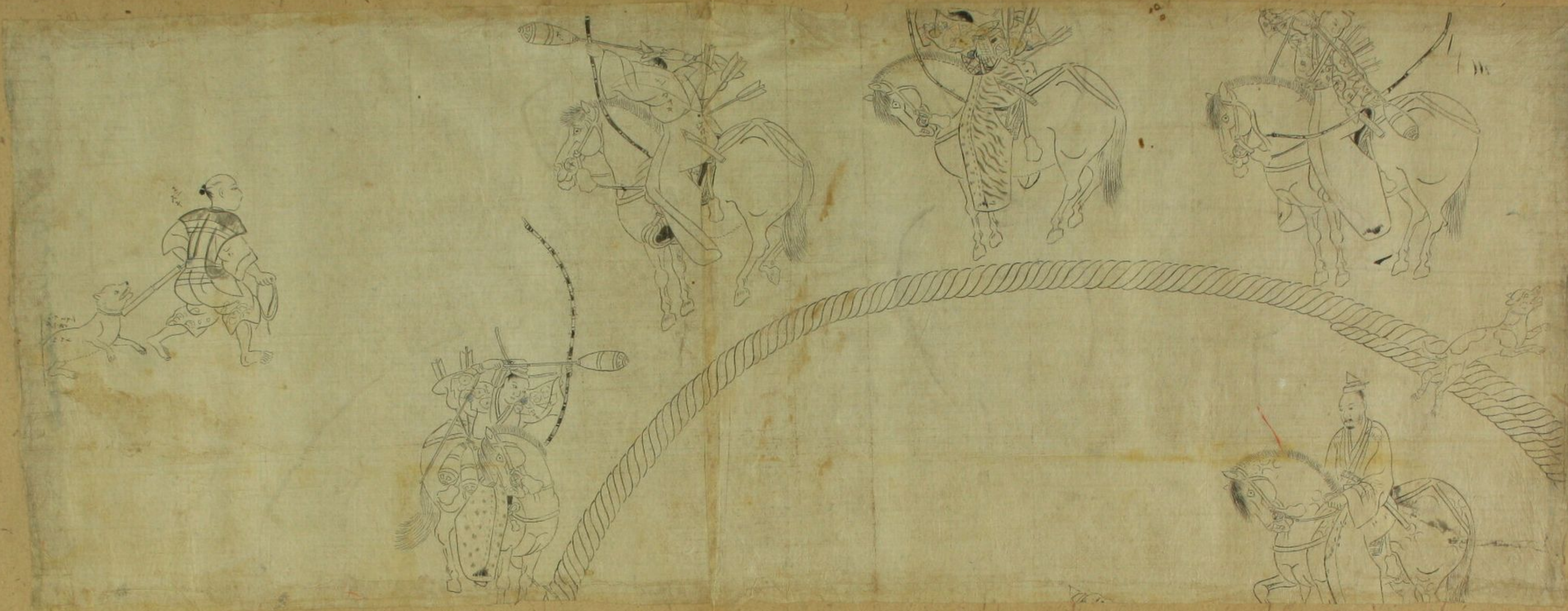
























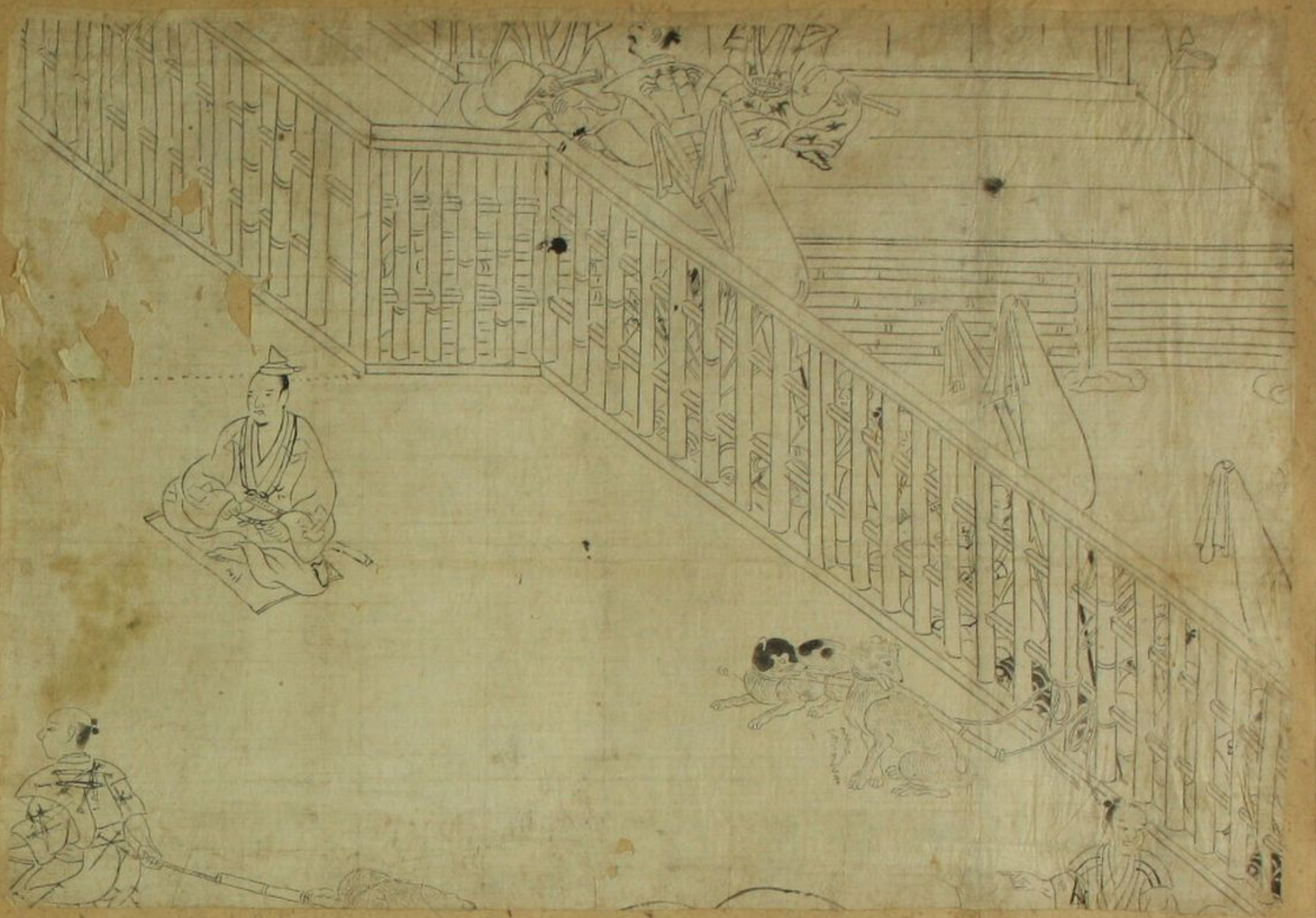












梅巖

一日山門在後亦古  
 暹國浦殿軍時忠  
 所為心下補祿後是  
 仍後從軍此件

130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9









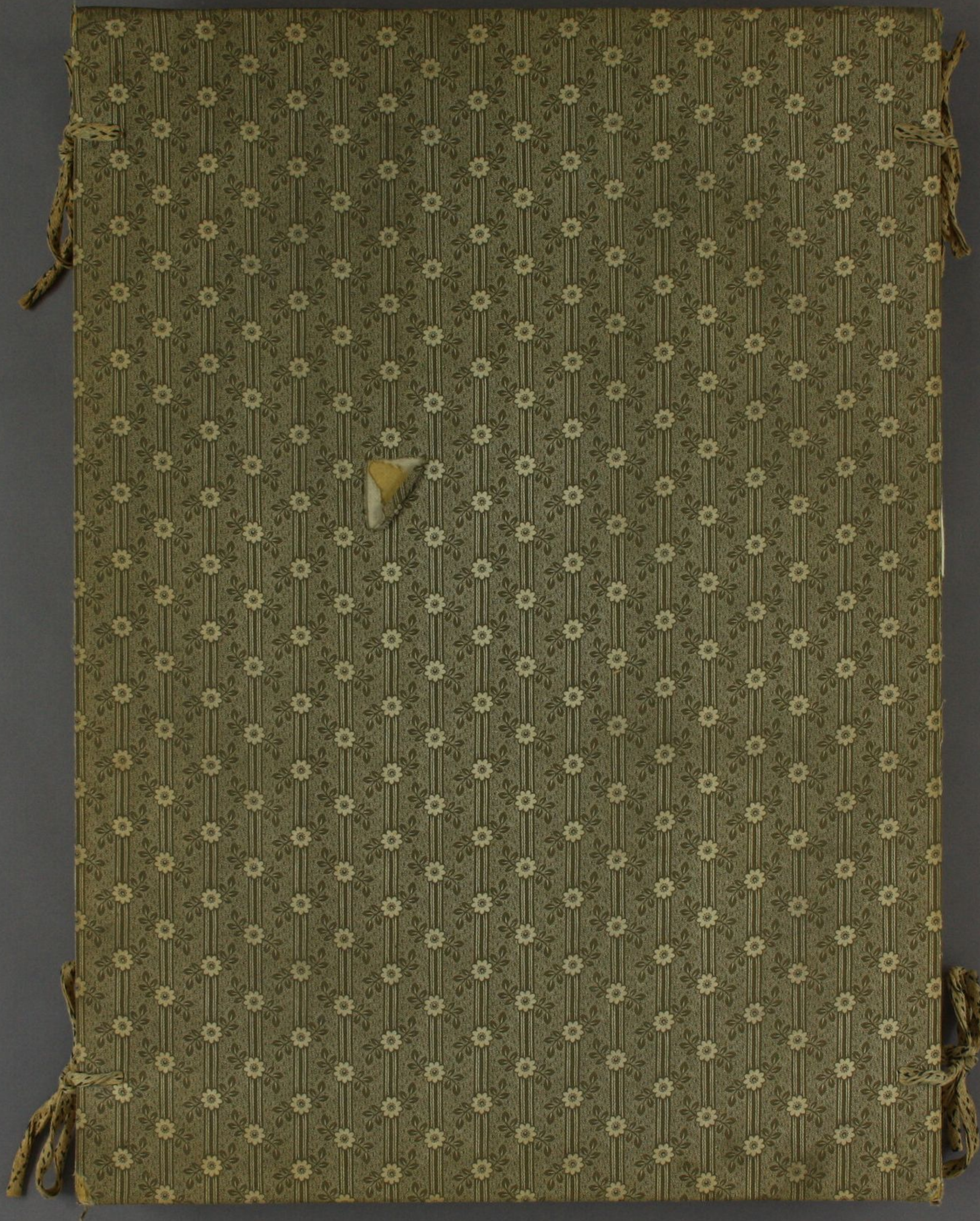


維清原宮駁字

相入器致為五亦撰二與伯君十此長券歐左田密部出下四君  
 謀室宇也人日辭焉十東之自力萬縣高取洲類君慶於日方  
 欲可溫壯忠俄職三三京改由也乃演中事行死軍等正志勤過  
 治厥勤建味宏時識得三十年我進黨者是請說學繼有數監正志勤過  
 三友碑論奔萬心一四國始君官會校罷故月黑被木志勤過  
 十多志余多紛國德望月八大撰氣不與許始長乃不創四禁小而王人通  
 八年君要撰事望月八大撰氣不與許始長乃不創四禁小而王人通  
 歲厥昔相長之不罕二月撰衆相其同時四月九謀果愈清銅七歸次弱稱  
 次功為識氏際際傳第十伯議應其議志政府拜今高年三月井君貞君  
 乙不眾常有三度生作日次內議與志頭有顯巡病月文貞君貞君  
 十其男一變產雅沒總黨而君者城自城幸是高至實與同京都志越  
 一越志一產且苟非年舉領職相大郎之長陸部開問志都志越  
 月山存故女且苟非年舉領職相大郎之長陸部開問志都志越  
 得矢雄濟為長厚之所間八九知半自意人持新詳詢者仕年本高  
 每野峻世記上其親而十當多甚亦而由不得賜鴻務對君謀未十世  
 市文其一行那威志間有撰為激在相黨許民謁縣聽官合開欲緝月  
 河雄越至老實承故氣歷五三顯而此雖為君望鄉病賜宜慶結紳之  
 三撰水老實承故氣歷五三顯而此雖為君望鄉病賜宜慶結紳之  
 鼎文洪益係家籍並不能於五亦撰二與伯君十此長券歐左田密部  
 以十窮維知高年麗為之目十私辭而任職二彌人西園用年藩  
 茲厥身銘二郎者新帝善議愛媛則為改五年連謀二彌人西園用年藩  
 勤身銘二郎者新帝善議愛媛則為改五年連謀二彌人西園用年藩  
 出嗣宗榮益入葬政軍叙正爾自願合會其志法美為遇進軍士  
 宗榮益入葬政軍叙正爾自願合會其志法美為遇進軍士  
 以取德永泉傳  
 真野叱石雕刻

維清原宮駁字  
 天皇即位八年庚辰之歲建子之月以  
 中宮不愈創此伽藍而鋪金未遂龍駕  
 騰仙大上天皇奉遵前緒遂成斯業  
 照先皇之弘誓光後帝之玄切道濟郡  
 生業傳臚却忒於高蹈敬勸貞金  
 其銘日  
 巍巍蕩蕩藥師如來大發誓願廣  
 運慈哀椅換聖王仰迓冥助爰  
 飭靈宇莊嚴調御亭亭實刹  
 森穿法域福崇德切慶溢萬



























お納り網進の方白下御帳一甚日夏冬御帳几帳帷帽額几帳四甚御登代

御茵一帖 布毯二卷 表結衣福造之紋 御草鞋 口切之 御草蓑 墨色 二脚

香盤所之灯臺二本 日新香盤三脚小殿上之 但唐縁白

厚敷之衣除唐縁之 日本香盤御脚小口所之灯臺二本 厚上蓑 縁唐草

輕物白布二枚唐二枚 是御侍子代之唐縁一枚と二ツ折りてその上

揚子御調之方 法華殿御座二帖 小造御座還御進方

大汁台 朝餉ノ旨香盤所御子水之間を拾上帖厚敷二帖

公庫御台 芦簾指之段 一リ純衣

同日 戌刻侍所御座還御 一は海所御座は布毯不敷改還御之若湯行と令取給人

内苑寮官人浴之方人浴之業之と也 御湯行御座ノリ下ニモツキアリ 次ニ山ノ右に流物

次之業のくくひアツテ秋大麻指御 還御 長下之素履之御座也

日夜戌刻開園解陣 次供御膳

口 巳刻 破侍所 御座御座也 御座也

口 音楽陣儀

口 若書御次

元文二丁巳年 中御門院御侍所之御也

おとほ魚大香支のく一藏りものをとられ求  
て家内功代中御侍所之御也 此れを御  
座にをり給也

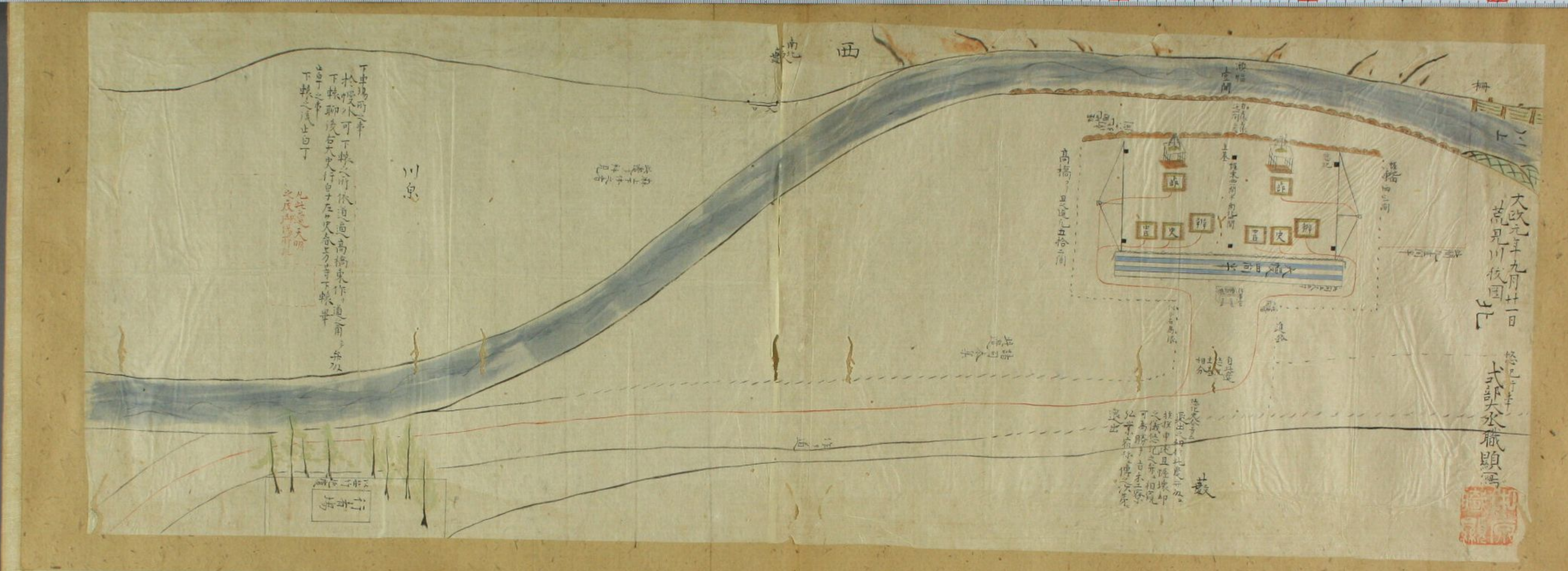
寛政五のく一八月廿六日

書









大政元年九月廿一日  
荒見川依回

式部大丞職頭  
藤

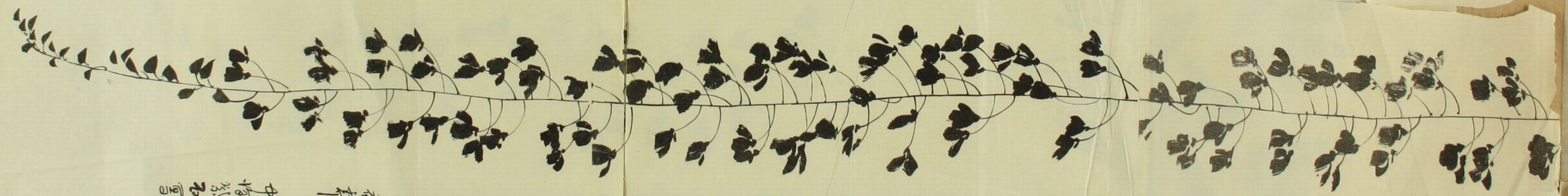


下流場所  
於堰下可下轉  
下流御後台  
下轉之處止白丁

川息

西

長十回九寸余 花敷前首花奈



中督紫石画







西  
南北

此處上下休之者  
其處之詳見

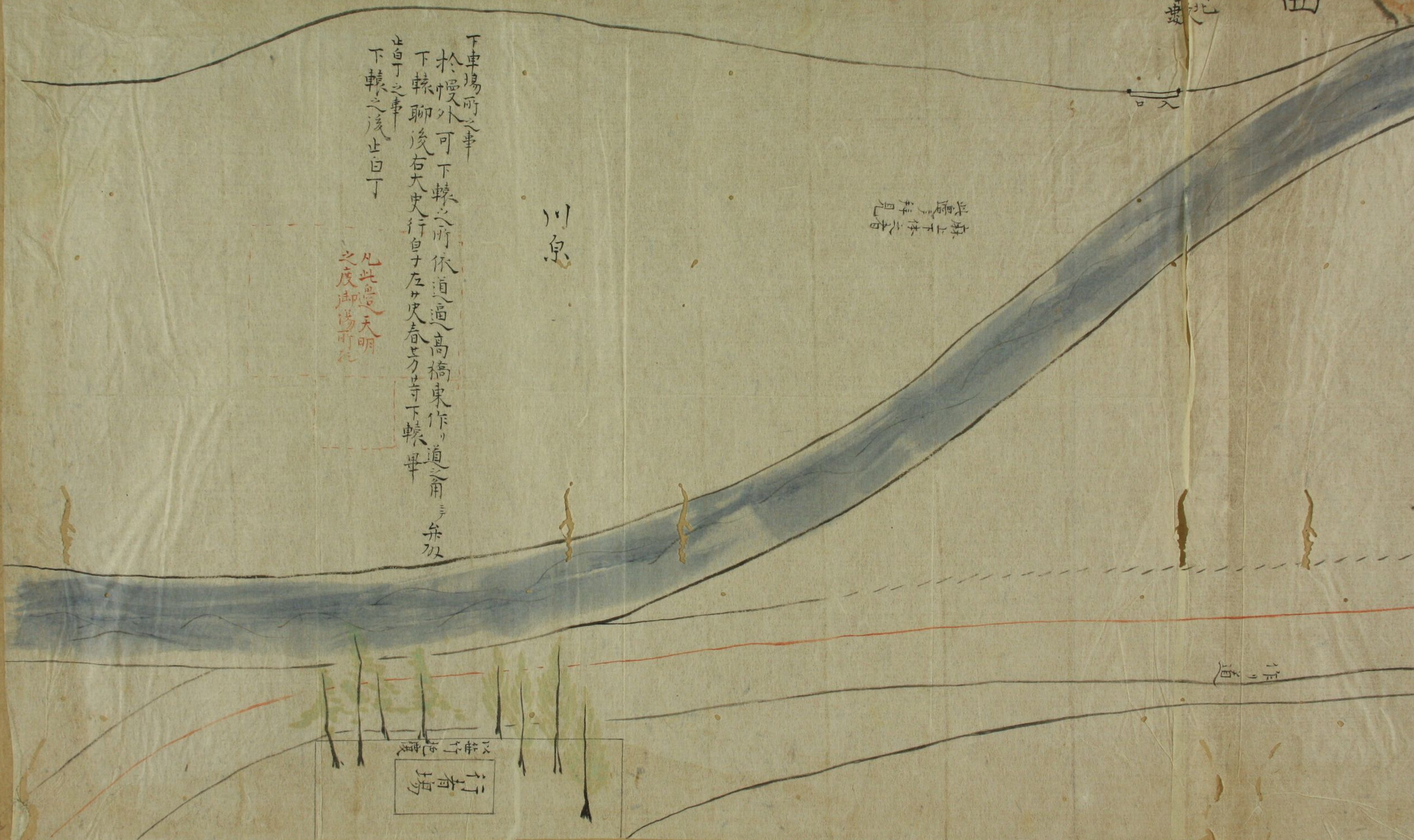
川泉

下車場所之事  
於慢外可下轉之所依道過高橋東作道之用并  
下轉聊後右大史行自于左大史春也寺下轉畢  
止白丁之事  
下轉之後止白丁

凡此邊天明  
之度即湯所死

作道

行有坊  
此處之詳見









左ノ表ハ日本ノ古來ヨリ高名ノ勇士及ヒ力士ノ體重身長ナルカ未タ文化ノ普カラサル時ニ於テ只口傳ニ上リシモノ、ミテ集メタルモノニシテ其正否ニ就テハ種々ノ説アリテ其レガ正確ナルモノトシテ報道スルニ由ナシ併シ古昔ノ日本人ハ今日ノ日本人ヨリ偉大ナリシコトハ古代ノ衣服器物及武器等ニ依リテ推知スルヲ得ヘク從テ左表ノ外尙ホ偉大ノ人モ多カリシナラシガ統計ノ學モナク之ガ取調ベ等モナカリシカ故ニ世ニ現ハレサルモノ多カラント思ハル只左ノ表ハ得ルガ儘ニ列記シテ讀者ノ參考ニ供ス

(編者 讀)

日本古今勇士力士ノ體重身長表

身長	體重	姓名	身長	體重	姓名	身長	體重	姓名
七尺五寸	四十五貫	野見宿禰	六尺三寸	四十一貫	兩國梶之助	六尺三寸	四十二貫	菅谷勘四郎
七尺八寸	四十八貫	當麻蹴速	六尺三寸	四十三貫	雷電源八郎	六尺三寸	三十七貫	大矢島新左衛門
七尺五寸	四十二貫	紀ノ名虎	六尺三寸	三十五貫	大嵐大五郎	六尺二寸	四十二貫	箕島重太左衛門
六尺三寸	三十二貫	伴ノ善雄	六尺二寸	三十六貫	辻風雲五郎	六尺三寸	三十七貫	北國勘太夫
六尺一寸	三十二貫	小野道風	六尺五寸	四十四貫	黒縁鬼右衛門	六尺三寸	四十七貫五	不動堂岡右衛門
六尺二寸	三十八貫	多田滿仲	六尺三寸	三十六貫	金繩仁太夫	六尺五寸	三十八貫	寶曆年中 鬼面山谷五郎
七尺餘	三十八貫	鎮西八郎爲朝	六尺二寸	四十貫	相引森右衛門	七尺餘	三十八貫	九國山新治
七尺五寸	四十二貫	山村伊豆守	六尺四寸	四十五貫	大山治真右衛門	七尺	三十六貫	雲井川辨太夫
七尺五寸	四十貫	河津三郎祐泰	六尺三寸	四十二貫	生田川寅之助	八尺	四十二貫	釋迦ヶ嶽雲右衛門
六尺八寸	三十五貫	股野五郎景久	六尺二寸	四十二貫	朝ノ雪勘治	六尺二寸	三十四貫	駒ヶ嶽儀右衛門
六尺五寸	三十四貫	眞田與市義貞	六尺三寸	四十三貫	一ツ松半太夫	六尺三寸	三十五貫	大木戸源太夫
六尺五寸	三十三貫	畠山治郎重忠	六尺餘	四十一貫	綾川五真治	六尺三寸	三十九貫	虹ヶ嶽袖右衛門
六尺四寸	三十三貫	貴田孫兵衛統治	六尺二寸	三十七貫	黒雲宗太夫	七尺五寸	三十八貫	鬼方島礪右衛門
六尺五寸	三十五貫	木村又藏重勝	七尺	四十貫	黒岩勘太夫	六尺五寸	三十七貫	鷲ヶ嶽音右衛門
六尺八寸	六尺八寸	阪田金時	六尺二寸	四十貫	大崎澤右衛門	七尺	三十八貫	二所ヶ瀧軍太夫
六尺五寸	七尺二寸	平井保昌	六尺五寸	三十二貫	竹柱權十郎	六尺三寸	四十七貫	谷風梶之助
七尺二寸	六尺七寸	朝比奈三郎義秀	六尺七寸	四十二貫	窟林右衛門	七尺六寸	四十八貫	九紋龍清太夫
六尺八寸	六尺二寸	曾我五郎時宗	六尺二寸	四十貫	御用木無右衛門	六尺一寸	三十八貫	小野川喜三郎
七尺五寸	六尺二寸	武藏坊辨慶	六尺二寸	四十一貫	錦龍田右衛門	六尺三寸	三十九貫	陣幕島之助
七尺	六尺二寸	岩見重太郎兼相	六尺二寸	四十貫	今川三右衛門	六尺五寸	四十五貫	雷電爲右衛門
六尺一寸	六尺八寸	天野源左衛門	六尺八寸	三十九貫	唐竹茂右衛門	六尺二寸	三十六貫	玉垣額之助
六尺二寸	六尺六寸	山崎庄兵衛	六尺六寸	三十六貫	片男浪空右衛門	六尺二寸	三十三貫	鬼面山與一右衛門
六尺一寸	六尺二寸	井上五郎兵衛	六尺二寸	三十五貫	御手洗佐右衛門	六尺三寸	三十六貫	大脚丈右衛門
六尺餘	六尺二寸	可兒才藏	六尺二寸	四十四貫	山響源右衛門	六尺二寸	三十七貫	緋織力彌
六尺餘	六尺七寸	伴圓右衛門	六尺七寸	三十七貫	北國勘太夫	六尺二寸	三十五貫	千田川熊藏
六尺餘	六尺七寸	母里太兵衛	六尺七寸	四十六貫	忍山峰右衛門	五尺七寸	三十八貫	阿武ノ松縁之助
六尺二寸	六尺二寸	龜田大隅	六尺二寸	四十五貫	引浪沙右衛門	五尺九寸	三十八貫二	文政年中 稻妻雷五郎
六尺餘	六尺七寸	樋口内藏助	六尺七寸	三十七貫五	雷チ電右衛門	五尺八寸	三十八貫三	不知火諾右衛門
六尺一寸	六尺二寸	別所貞之進	六尺二寸	四十二貫	錦木塚右衛門	五尺八寸	三十七貫五	秀ノ山雷五郎
六尺餘	六尺五寸	稻葉助之進	六尺五寸	四十六貫	大碓灘右衛門	六尺三寸	三十七貫	猪玉山森右衛門
六尺八寸	六尺三寸	渡邊勘兵衛	六尺三寸	三十三貫	榎ノ尾曾ツ之助	六尺二寸	三十七貫三	境川浪右衛門
七尺一寸	六尺八寸	小勝間太臈	六尺八寸	四十二貫	待乳山重藏	六尺	三十七貫三	雲龍久吉
七尺八寸	六尺四寸	大力學士	六尺四寸	三十六貫	原田川吉平	六尺一寸	三十七貫三	不知火光右衛門
八尺	六尺五寸	眞髮成村	六尺五寸	三十六貫	松浦瀧七之助	六尺二寸	三十七貫三	慶應年中 鬼面山谷五郎
六尺八寸	六尺三寸	宮居眼左衛門	六尺三寸	三十二貫	錦崎三右衛門	六尺二寸	三十七貫五	陣幕久五郎
六尺一寸	六尺四寸	深尾又治郎	六尺四寸	三十八貫五	轟音右衛門	六尺三寸	三十八貫	白藤源太
六尺二寸	六尺四寸	鯨江又二郎	六尺四寸	三十六貫	月岡眞三郎	六尺三寸	三十六貫	四ッ車大八
六尺五寸	六尺二寸	青地與右衛門	六尺二寸	三十九貫	桂川源右衛門	六尺五寸	三十八貫	潘髮長五郎
八尺三寸	六尺九寸	明石志賀之助	六尺九寸	三十六貫	浦風浪右衛門	七尺五寸	三十八貫	天正年中 雷權太夫
七尺五寸	六尺四寸	仁王仁太夫	六尺四寸	三十三貫	出羽ノ海治良吉	八尺二寸	三十八貫	石槌權右衛門
七尺三寸	六尺四寸	雷電龍右衛門	六尺四寸	三十四貫	兩國市太左衛門	七尺八寸	三十八貫	牛股武右衛門
七尺	六尺四寸	稻妻電五郎	六尺四寸	四十三貫	御所車半之丞	七尺餘	四十五貫	生月鯨太左衛門
六尺六寸	六尺二寸	山嵐藏右衛門	六尺二寸	三十二貫	汐風力松	七尺餘	四十五貫	
六尺四寸	六尺二寸	白山新三郎	六尺二寸	三十五貫	國見山嶽右衛門			
七尺三寸	六尺三寸	鬼勝象之助	六尺三寸	四十五貫	丸山權太左衛門			

文武叢誌第六十二號附錄

(明治三十一年十二月十五日發行)

編者 堀越平三郎  
 印刷所 東京牛込區山伏町二十一番地  
 發行所 全牛込區矢來町三番地  
 印刷所 全牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
 發行所 株式會社 秀英舎第一工場  
 印刷所 全牛込區市谷柳町二十五番地  
 發行所 日本體育會事務所

(明治二十六年十一月十四日通信省認可)







聖堂講釋の圖

聖堂は江戸幕府時代において、幕府が江戸に設けた官立の學校なり。この圖は教官の講書を一同の聽聞するところなり。

(東京帝國大學藏版)

寺子屋の圖

江戸幕府の時代多少の文字あるものは、民間の子弟を集めて、讀書及び習字、或場合には算術の初歩を授く、之を寺子屋といふ、是れその時代に於ける普通教育の方法なり。

(東京帝國大學藏版)



# 春曙

花よりかきんりや  
 はるあけのこころ

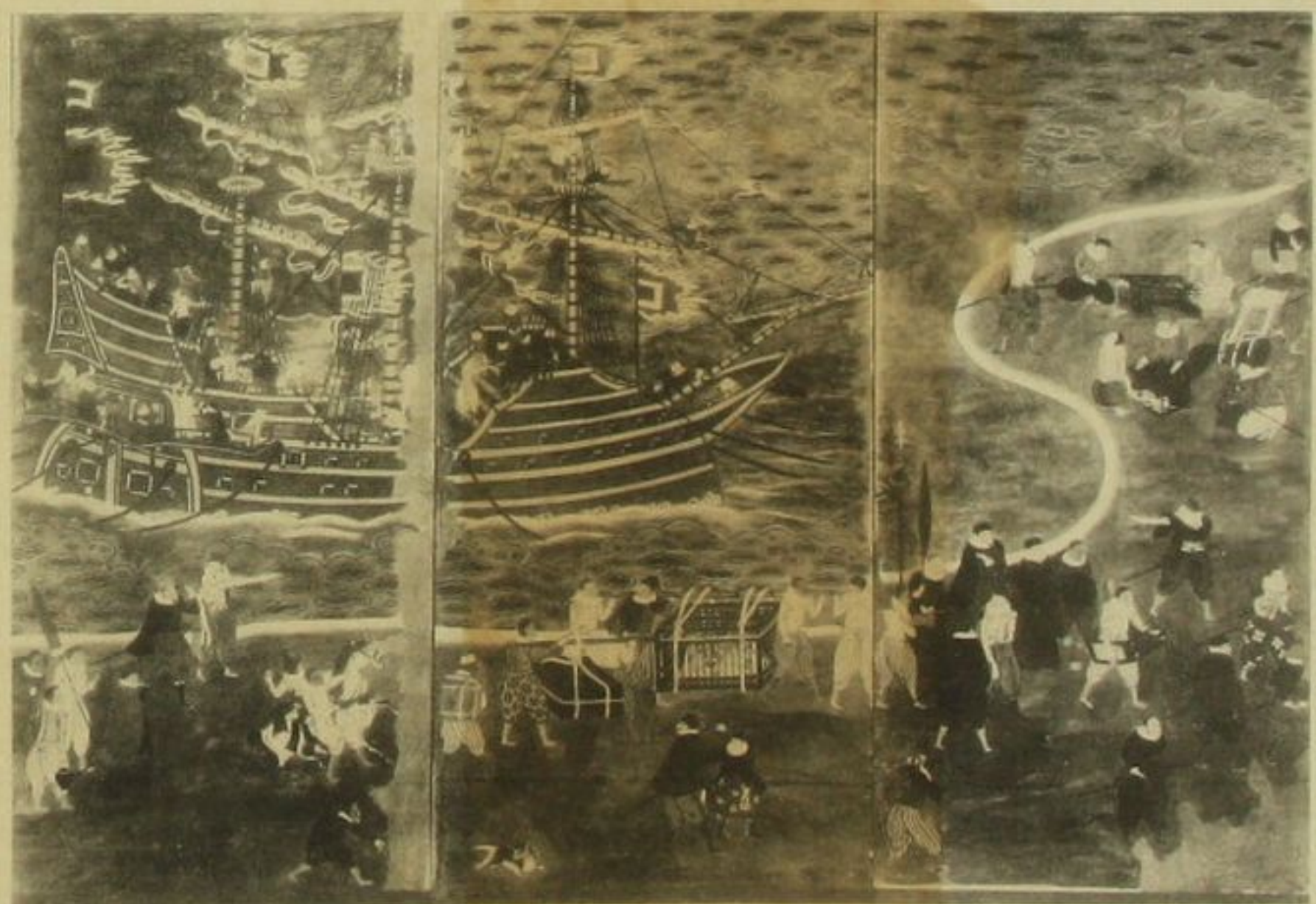


## 菱川師宣筆 演劇の圖

此圖は東京帝室博物館所蔵『花街演劇繪卷』中、『演劇の巻』の一段なり。同繪卷は菱川師宣が寛文十二年(西曆一千六百七十二年)より、元祿二年(一千六百八十九年)まで、前後十八年の間に畫きし者にして、其筆致に、其着色に、師宣が圓熟せる特色を示せる傑作たるのみならず、或は其序跋に、或は別卷に、狂歌堂四方眞顔、蜀山人、萬象、櫻川慈悲成、六樹園等の諸大家が、狂歌の寄合書きをなし、錦上更に花を添へたるものなり。師宣は菱川派の祖にして、吉兵衛と稱し、晩年友竹と號す、房州保田の人、幼より江戸に出て、貞享の交、板刻の繪本に、浮世繪に、盛名を博せし大家なり。此一段は貞享四年中冬の筆に係り、『風流和田酒盛』と題せる一劇を畫きし者にして、九左衛門、村山平十郎、さる若山左衛門、伊藤小太夫など、一々に金文字にて其優人の名を傍署したれば、當時の戲場に關せる好箇の一史料たるべし。



南蠻人上陸圖



南蠻人上陸圖

室町幕府の末に南蠻人來朝してより、  
彼我貿易の事また漸く開くるや、邦人  
その風俗の奇異なるを見、往々之を圖  
にして屏風に貼付す、その現存するも  
のまた少からず。多くは文祿、慶長頃  
のものに係る、この寫眞はその中の一  
種の模本に據りしものなり。

(東京帝國大學藏)



唐故通議大

夫行薛王友

柱國贈秘書

少監國子祭

酒太子少保

顏君廟碑銘

并序

第七子光祿

大夫行吏部

尚書充禮儀

使上柱國魯

郡開國公真

卿撰并書

集賢學士李

陽冰篆額

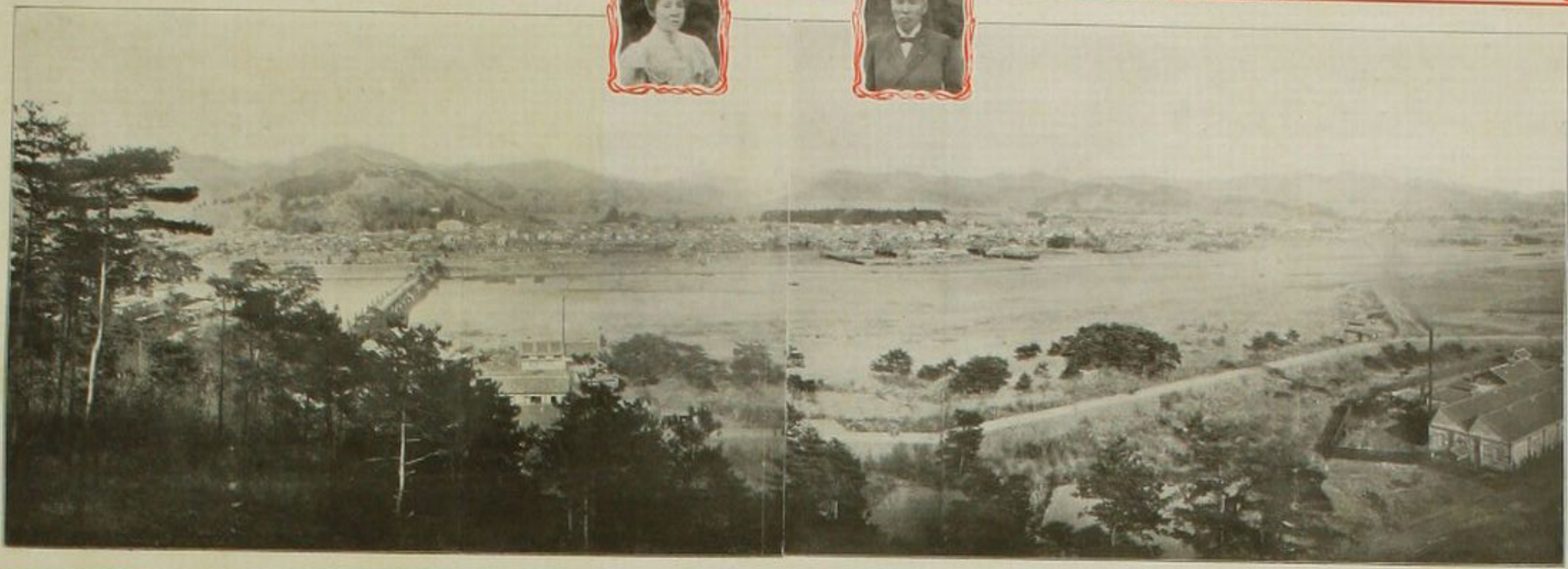
簪孔悝有夷

鼎之銘陸機

有祠堂之頌



◎ 大隈總長歡迎 ◎



早稻田大學栃木縣校友會



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100







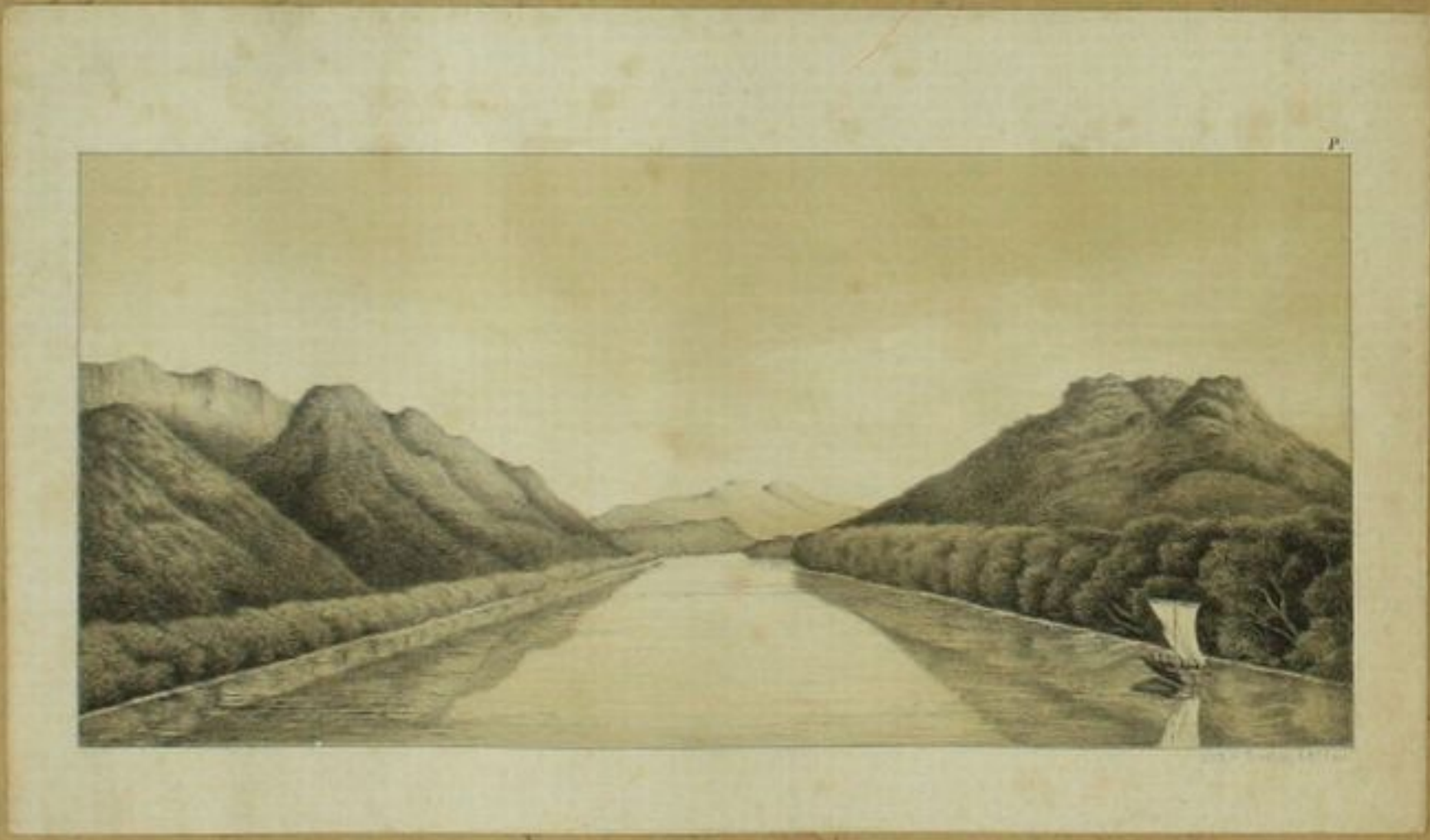


Figure 191  
Figure 192  
Figure 193  
Figure 194  
Figure 195  
Figure 196  
Figure 197  
Figure 198  
Figure 199  
Figure 200  
Figure 201  
Figure 202  
Figure 203  
Figure 204  
Figure 205  
Figure 206  
Figure 207  
Figure 208  
Figure 209  
Figure 210  
Figure 211  
Figure 212  
Figure 213  
Figure 214  
Figure 215  
Figure 216  
Figure 217  
Figure 218  
Figure 219  
Figure 220  
Figure 221  
Figure 222  
Figure 223  
Figure 224  
Figure 225  
Figure 226  
Figure 227  
Figure 228  
Figure 229  
Figure 230  
Figure 231  
Figure 232  
Figure 233  
Figure 234  
Figure 235  
Figure 236  
Figure 237  
Figure 238  
Figure 239  
Figure 240  
Figure 241  
Figure 242  
Figure 243  
Figure 244  
Figure 245  
Figure 246  
Figure 247  
Figure 248  
Figure 249  
Figure 250  
Figure 251  
Figure 252  
Figure 253  
Figure 254  
Figure 255  
Figure 256  
Figure 257  
Figure 258  
Figure 259  
Figure 260  
Figure 261  
Figure 262  
Figure 263  
Figure 264  
Figure 265  
Figure 266  
Figure 267  
Figure 268  
Figure 269  
Figure 270  
Figure 271  
Figure 272  
Figure 273  
Figure 274  
Figure 275  
Figure 276  
Figure 277  
Figure 278  
Figure 279  
Figure 280  
Figure 281  
Figure 282  
Figure 283  
Figure 284  
Figure 285  
Figure 286  
Figure 287  
Figure 288  
Figure 289  
Figure 290  
Figure 291  
Figure 292  
Figure 293  
Figure 294  
Figure 295  
Figure 296  
Figure 297  
Figure 298  
Figure 299  
Figure 300



海歌乃之

天保六年五月  
海老元之也  
也海乃之也  
也海乃之也

哲人去兼味  
廊川也之也  
裕院歌佳









和漢名畫選內容見本

(此現各畫同書に於けるもの約二十一分也)

此卷松岡城同章の巻と直被  
 是刻の間に六の取直と申  
 軒僧と成るハ沙狂鳴合と



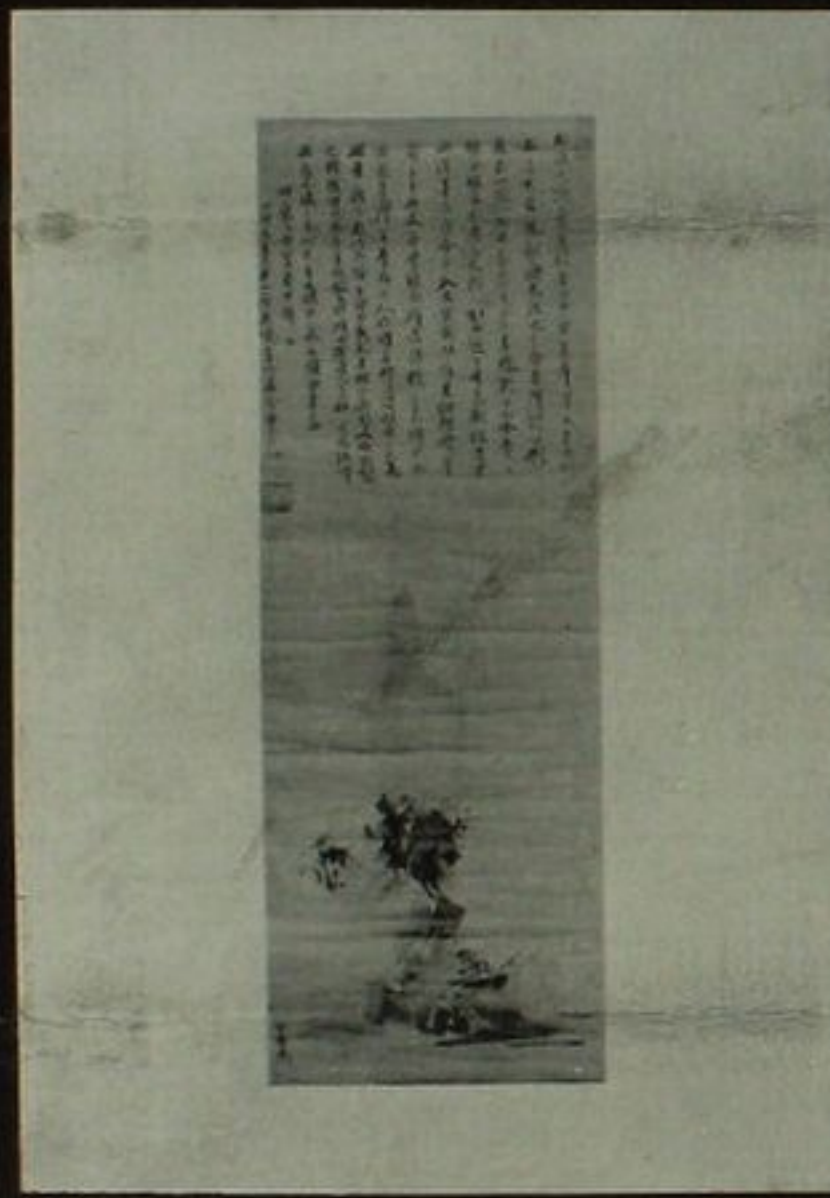
(三)



(二)



(一)



(六)



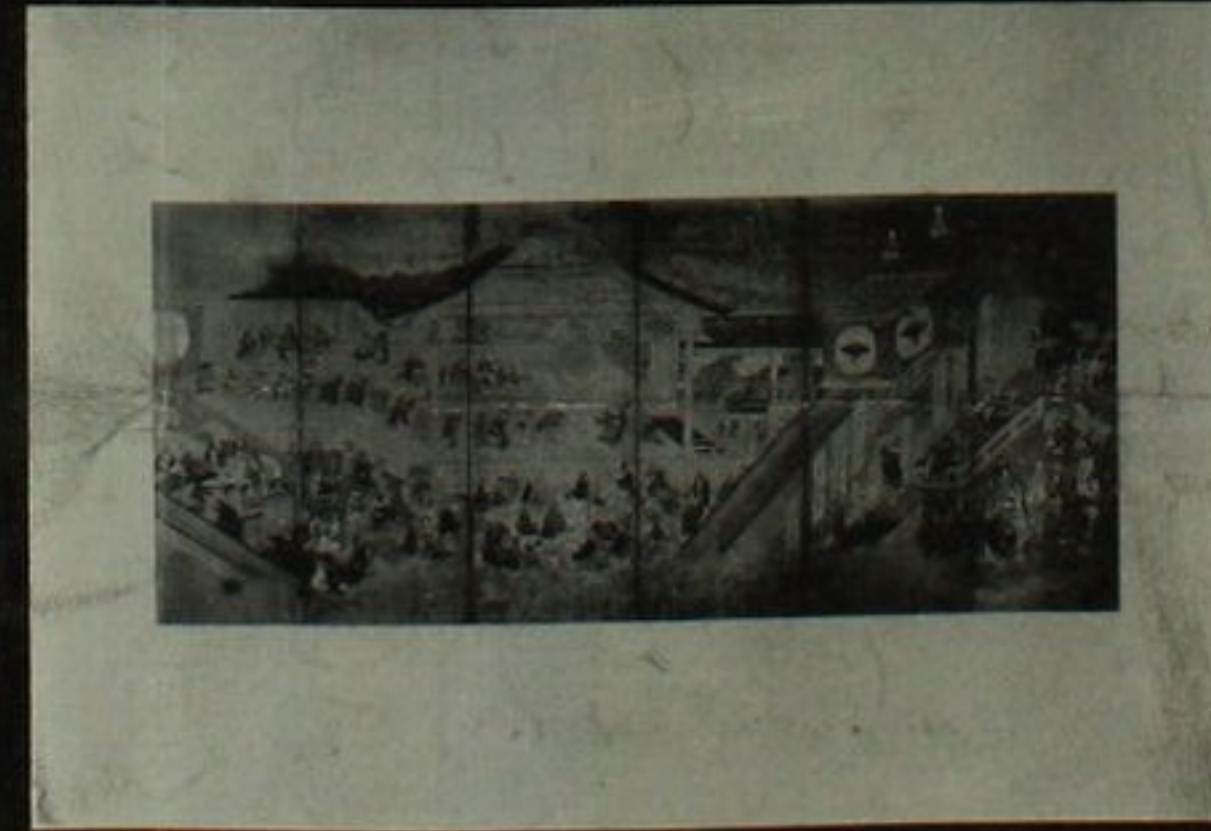
(五)



(四)



(九)



(八)



(七)

東京 東洋館 蔵 片印 石

正倉院御物鳥毛立女屏風下繪 (三)  
 雪舟筆破墨山水圖 (六)  
 松村春風筆鹿圖 (九)

(二) 帝室御物春日權現記  
 (五) 筆不詳瑛天圖  
 (八) 菱川宣師筆觀劇圖

(一) 帝室御物聖德太子像  
 (四) 渡邊華雪中孤雁圖  
 (七) 梁楷筆布衣圖









頭羊の翁

虫

翁郎次孝室陰櫻



之をいふはふりやむしは智(し)也  
左の下のハ、中めふふり、元は良也孝



藏寺隆法(寶國) 寸現 塔萬百



宣和博古圖三十卷

宋大觀中王黼等奉教撰其稱宣和者徽宗未改宣和紀年以前有宣和殿也其書所收古器真贋雜辨證尤多疏謬為諸書所指摘者不可備陳然音釋舛而銘字尚存論說誤而器形猶在故考古者或有取焉

宣德鼎彝譜八卷

明宣德中禮部尚書呂震等奉教撰所記皆當日鑄器圖式工料及供用名目未附釋

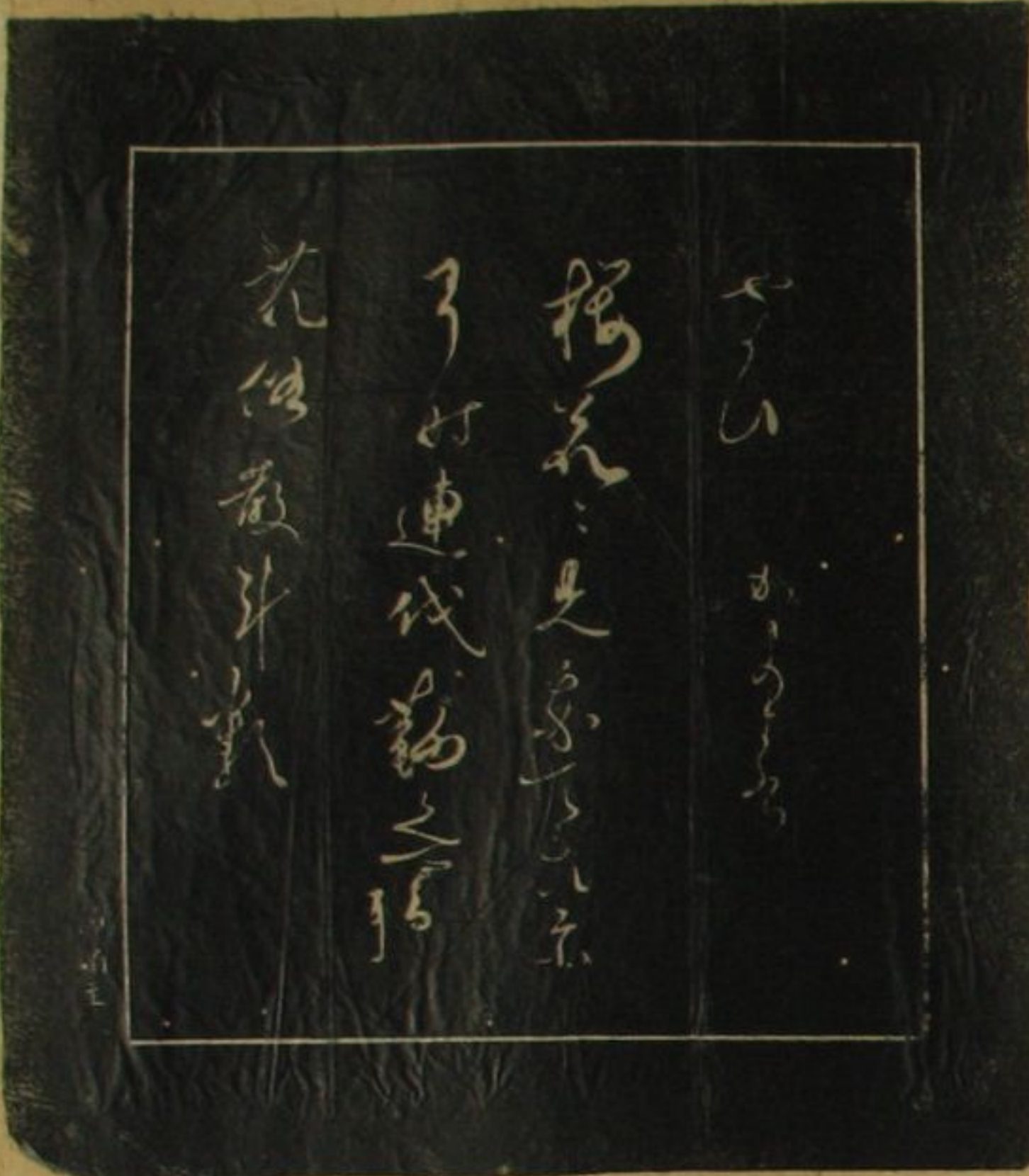
名二卷具列仿古規模尺寸記載尤詳

欽定五清古鑑四十卷

乾隆十四年奉教撰皆即內府收藏古器繪圖列說體例雖仿考古諸圖而後據經典辨別款識一一考證精核無所牽合附會於其間則萬非諸圖所及也

六乘齋遺墨

Table with multiple columns and rows of small text, likely a calendar or a list of items.



鼎錄一卷

舊本題梁虞荔撰考荔已任陳稱梁為誤又荔卒於陳武帝天嘉二年乃預記陳宣帝太極殿鑄鼎事尤為不合殆亦徑攬改也

考古圖十卷續圖五卷釋音五卷

考古圖宋呂大防撰其書在博古圖前較目古圖為精審續圖五卷錢曾讀書欲求記亦以為大防所作然體與大防書少異書

中引呂與升考古圖又有紹興壬午紀年則非大防所作觀釋文所註諸字皆在考古圖內無一字及續圖亦可見也

嘯堂集古錄二卷

宋王洙撰洙亦作球未詳孰是其書集古器款識各以今文釋之又併載古印數十吾衍學古編嘗摘其所收偽跡二事然古器真偽相參釋文亦彼此互異諸家往、抵牾亦不但此書也

名花國色

陳德信



花亭春  
五風十雨  
主人多喜事  
婢能歌舞  
僮僕勤幹  
妻孥不倦排當  
子弟艱藉  
正開值生日  
門僧解栽接  
借園亭張筵  
欲謝時待解醒  
從貧處移入富家

花也難  
晚婦妬與鄰  
恨人愛與保  
主人慳鄙  
庭上持七八  
盛開位私忌  
賞花著棋闌茶  
盛開侵主臨門  
遺權奪人乞接頭  
露頭跳足對酌  
國史流涎盡  
凋落後苦掃

未條似未妥當有漏遺亦有清堂  
明治六年四月

種樹家六三





嘉永四辛酉

町御奉行

南 遠山左衛門尉様  
北 井戸對馬守様

御評定所 毎月 二日 十日 廿日 廿五日 卅日 卅五日 卅日 卅五日 卅日 卅五日

寺社御奉行

服坂淡路守様  
本多中務大輔様  
松平紀伊守様  
太田根津守様

御勘定御奉行

石河土佐守様  
松平河内守様  
池田播磨守様  
一色丹後守様

三御奉行 毎月

道中御奉行

池田播磨守様  
深谷遠江守様

火附盜賊御改方

水野甲子二郎様

服坂様

本多様

紀伊守様

太田様

池田様

一色様

馬喰町御奉行

音山様

秋葉赤雲様

竹垣若松様

諸舖屋用御奉行

東條公大  
中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎

中田次郎  
中村次郎  
安藤次郎













池邊大宮治天下天皇大御身勞賜時歲  
次丙午年凶於天皇天皇與太子西誓願賜我大  
御病太平欲坐故將造寺藥師像在任奉詔狀  
當時崩賜造不堪者八治田大宮治天下天皇  
皇及東宮聖王天命受賜而歲於丁卯年任奉

法隆寺

中壇金銅藥師佛光背銘

(日本書紀(四列))

皇二年三月廿九日

藤原字合平家經



三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す  
三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す  
三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す

三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す  
三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す

三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す  
三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す

三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す  
三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す

三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す  
三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す

三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す  
三代目高雄真跡 全文畢  
三浦屋北甚母より後行小文を抄通る為皆同し 表紙に別人の多し故に是を正す





三代目高権真照

全文畧

長井十足蔵

三浦屋地母より譲りたる文一巻初通名高皆同一巻末に別人乃多記して延宝三年とあり  
三代目初と明証して是則子持高尾之延宝二年印本吉系失墜一以高尾の客十郎左門と  
以名をく一九一と書く例もあれはきく為八九款あり考へ

新思堂益泉誌

三代目高権真照  
長井十足蔵  
三浦屋地母より譲りたる文一巻初通名高皆同一巻末に別人乃多記して延宝三年とあり  
三代目初と明証して是則子持高尾之延宝二年印本吉系失墜一以高尾の客十郎左門と  
以名をく一九一と書く例もあれはきく為八九款あり考へ



草花詩人  
毛更志  
張出



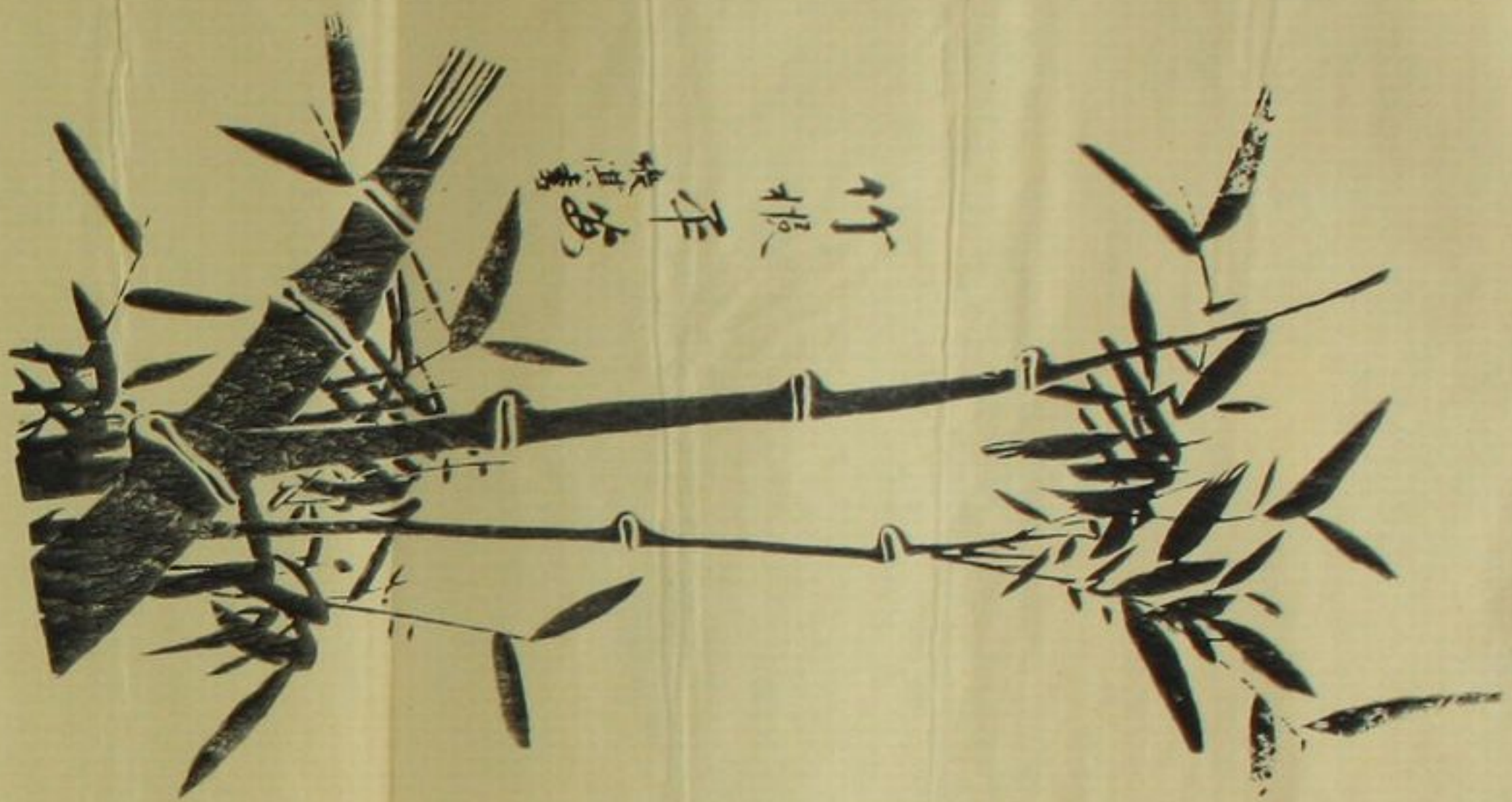
取 藏 西 僧 唐



餘寄奇

- 一 餘寄いよ。目那梅酒で  
 良於常(一)如兼も為らサアリ  
 寄〜寄〜セビの子持  
 寄〜寄〜ヤレラセ
- 一 仲の酔いセビと心ハセビハ  
 来〜あ〜来〜サアリ  
 寄〜来〜
- 一 目那梅酒は海は良於常  
 良於常も為ら〜餘の念を  
 来〜入〜一玉二玉三玉一の





竹根平安



卷全國八十

大果參入赴

大士

建元

福星

八參果

唐僧

祿星

六觀火輪  
大士

行者

洞雲火

紅鞍

兜

大朝因經取  
卷四十八卷  
大經有五十

唐安金

羅香

唐真宮

祖迷徐

總共

大セビ百海シヤシの  
ヲシヤシヤシのシヤシ

至  
日本紀第一册見曰伊弉諾尊板御背揮以進矣  
因投黑影考此即化成蒲陶云々  
古事記上册見伊弉那岐命取黑御鬘投奈乃  
生蒲子云々  
本居曰蒲子の成日ヨリ一蛇ト思フ此蛇のヨリ蒲  
子爲ニ似テ玉を世ヨリハ假令のヨリシ形也  
似ヨリハ人面ノ黒クモハ似テ玉也  
谷川士清句玉考云以其實疑々相似言之也可  
以見此寶玉之狀也云  
五  
日本紀神代卷紀曰天照大神云々結髮爲髻  
雲爲髻使以八坂瓊之五百箇御統  
髻髮乃云々  
七  
又赤雲鳴尊取天照大神髻髮及腕所纏八  
坂瓊之五百箇御統云々  
九  
又一言素文鳴尊以其頭所纏五百箇御統  
之瓊云々  
十  
又一言神弓明玉此神奉迎而進以瓊八坂瓊  
之曲玉也故云素文鳴尊持理玉而到之於天  
也  
日本紀神代卷神代卷見曰伊弉諾尊板御背揮以進矣  
因投黑影考此即化成蒲陶云々  
古事記上册見伊弉那岐命取黑御鬘投奈乃  
生蒲子云々  
本居曰蒲子の成日ヨリ一蛇ト思フ此蛇のヨリ蒲  
子爲ニ似テ玉を世ヨリハ假令のヨリシ形也  
似ヨリハ人面ノ黒クモハ似テ玉也  
谷川士清句玉考云以其實疑々相似言之也可  
以見此寶玉之狀也云  
五  
日本紀神代卷紀曰天照大神云々結髮爲髻  
雲爲髻使以八坂瓊之五百箇御統  
髻髮乃云々  
七  
又赤雲鳴尊取天照大神髻髮及腕所纏八  
坂瓊之五百箇御統云々  
九  
又一言素文鳴尊以其頭所纏五百箇御統  
之瓊云々  
十  
又一言神弓明玉此神奉迎而進以瓊八坂瓊  
之曲玉也故云素文鳴尊持理玉而到之於天  
也



三頭

古書曰蔓又蔓又蔓

日本紀第一國段一書曰伊弉諾尊拔鈕背揮以逃矣

長髮

因投黑髮此即化成蒲陶云々

斗頭

古事記上國段見伊邪那岐命取黑御髮投棄乃生蒲子云々傳六十六

本居曰蒲子の成りよま就て思へて此髮のさる蒲

菊葛カハに似て玉を垂もろが彼實のなりけり形もや

似りりん色の黒かりきむし彼實もよ

らるや

谷川士清勾玉考云以其實蕤々相似言之也可

以見此貫玉之狀也云々

五頭

日本紀神代卷紀曰天照大神云々結髮ハシ為髻ヒキ縛

統永和年他締切又音

裳ミモ為袴便以八坂瓊之五百箇御統御統此云美須磨屢纏其

髻ヒキ髮及腕ミナタ云々

七頭

又素戔嗚尊乞取天照大神髻髮及腕所纏八

坂瓊之五百箇御統云々

九頭

又一書素戔嗚尊以其頸所嬰五百箇御統ウナギ

之瓊云々

又一書有神号羽明玉此神奉迎而進以瑞八坂瓊

之曲玉カマ故素戔嗚尊持瓊玉而到之於天

上也

素戔嗚尊將昇天時有一神云々

十頭

素戔嗚尊對曰亦欲獻珍寶瑞八坂瓊之曲玉云々天照大神謂素戔嗚尊曰亦欲獻珍寶瑞八坂瓊之曲玉云々

可以授予矣







三手

古事記上御身但邪那岐大神云々次於投棄左御手  
手纏云々

仁德紀日時有從者取得田道之手纏與其妻

乃抱手纏而縊死云々田道、妻と戦て死せし處なり  
乃手纏ハ和名物ノ多末岐ニハ小手ナルニ

万葉十五和多都美能多麻伎能麻乎

本居前ノ説玉トモ小手トモ決シ難キヨシナリ

伊邪那岐命云々即其御頸珠之玉緒母由良邇取由

良迦志而賜天照大神而御之云々故其御頸珠

名謂御倉板舉之神訓板舉  
云多邪

本居前云御頸珠古ハ男女共ニ玉を緒ニ連フリテ

頸ヲ頭ニ手呈シ衣ニシテ飾スル

云々母由良ハ緒ヲ貫ル玉トモノ動キ

て相觸ルク鳴ル云々

古事記上御字氣曰天照大神神云々即解御髮御美

豆羅而乃於左右御美豆羅亦於御髮亦於左右

御手各纏持八尺勾瓊之五百津之美須麻流之

珠而自美至流四字  
以音下效此

古事記上御字氣曰速須佐之男命乞度天照大

御手取纏左御美豆良八尺勾瓊之五百津之

美須麻流珠而云々亦乞度所纏御右御美

手五手  
万葉十五  
三代貞觀十二年二月  
十二リノ糸  
勅充壹岐嶋野并手  
纏各二百具  
和名抄射藝具譜  
和名多末岐  
一云小手也  
大神宮或頸玉手  
三玉下

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

手

八手頭

六手頭

三

堂





豆良之珠云々亦乞度所纏御髮之珠云々

又乞度所纏左御手之珠云々亦乞度所纏右御手之珠云々

書紀神代紀一忌部遠祖太玉命掘天香山之五百箇真坂樹而上枝懸八坂瓊之五百箇御統云々天石屋戸云々

又書曰玉作部遠祖豐玉者造玉云々上

又一書曰中枝懸玉作遠祖伊弉諾尊兒天明玉所

作八坂瓊之曲玉日姓錄云古語拾遺云々極明玉神トアリ

又一書素戔嗚尊身輻轆然解其左髻所纏

五百箇統之瓊給瓊御音瓊々云々

古事記上石屋戸科玉祖命今作八尺勾瓊之五

百津之御須麻流之珠而云々天香山之

五百津真賢木知根許士爾許士而自許下五於

上枝取著八尺勾瓊之五百津之御須麻流之

玉云々十八

古事記曰爾其沼河日賣木開戸自内歌曰云々

麻多麻傳多麻傳佐斯麻岐云又須勢理昆貴命願

乃多麻提佐斯迦開佐祢

斯欲能

十一四

又九頭

輻力同切漢書輻轆不絕

轆刀胡切由玉造

瓊且楊切說文云玉聲也

玉命之孫送十二

玉造

玉造

玉造

玉造







女者是誰之妝耶云々

其ハ延喜ニヨル今大十二ハ  
任絶ヲ任ノ一字ニ依ル

赤玉

古事記十五卷玉依皇賣豐玉毘賣命歌曰阿加  
陀麻波ヲ緒刺舞光目袁佐間比迦禮朽斯良多麻能岐美  
何余曾比斯多布音又久阿理祁理

本居前云阿加陀麻波ハ赤玉者ナリ書紀の注ハ明  
玉ト云々トシテ一此記ハ玉珠ト白玉ト對テ  
ト云フハ形トナリ

契沖が海底の珊瑚なりと云ハハ

幸氏云表佐間比迦禮朽ハ緒刺舞光ナリ實ハ緒刺舞光  
映テ光照を云テ玉の甚美麗ト云ハ形ナリ







親  
心  
代  
子  
子

學

子

貞

楷

澧

如

倪

心  
心  
目  
也  
子  
子  
子  
子  
子





子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子



觀  
心  
代  
子  
子

望  
筆

行  
筆

貞  
秀

馬

哲  
恭

澧  
子

和  
英

倪  
子

心  
心  
心  
心

心  
心

心  
心  
心



考

馬子

弗子

昔子

周子

依子

倪子

袂子

嘉子

茂子

心

心

心

心

心

心

心

心

心

心

心



造出俗衣舍教誨法花任以人示識文字性又類鄙  
徹句。授之珠費功力終不懈。仍此人誦法向半使夢  
有人教之自後稍能寤。至白。而漸覺瘡愈。比誦一部畢  
歸肩手復生肥體如常。而巧為瘡疾。臨嘗患腫。僧微遣  
以人禁呪有驗。自說云。此後存仁。裕為秦州刺史。表僧微  
所。並移舍為陶泉。初此地之水。僧微常逐。及山下。自  
供一報。色有陷。之。爾出。故。因。以。名。陶。寺。也。僧。專。以。勸。善。為  
務。而。自。明。禪。宗。遠。追。崇。教。如。文。鳥。永。徽。二。年。正。月。日。屬

黑。徒。爾。自。言。將。死。既。而。端。坐。泥。床。旬。日。不。動。至。天。氣。晴  
朗。而。花。如。雪。香。而。不。消。方。二。里。許。樹。葉。上。皆。有。白。色。如  
粉。粉。若。三。日。乃。復。常。色。而。僧。微。已。終。至。今。三。系。獨。生。如。故  
之。不。臭。惟。唯。目。淚。下。云。微。中。子。安。泰。小。及。州  
人。並。說。之。也。

河。東。有。陳。行。尼。常。法。花。任。訪。不。書。者。一。人。數。倍。翻。直。持  
丙。淨。室。令。宮。以。一。起。一。浴。爐。音。董。衣。仍。於。寫。法。之。室。鑿  
壁。通。外。加。一。竹。筒。令。醫。人。每。欲。出。息。輒。通。合。竹。筒。吐。氣  
壁。外。宮。位。一。百。八。年。乃。畢。供。養。嚴。重。盡。之。恭。敬。執。門。僧

河。東。沙。門。釋。道。英。少。傾。禪。以。練。心。為。本。不。慎。或。儀。法。而  
徑。律。與。義。莫。不。一。門。縣。解。遠。近。僧。尼。爭。就。請。使。英。輒。報  
謂。曰。汝。尚。未。疑。且。思。疑。之。成。法。以。來。向。之。還。而。思。疑。之。因  
思。自。解。而。去。少。思。不。悟。重。亦。向。者。英。乃。說。其。機。要。皆  
喜。宿。而。運。嘗。其。人。亦。服。黃。河。中。流。航。渡。亦。人。皆。天。道  
俗。望。見。英。設。法。河。慟。矣。是。時。冬。末。河。冰。始。泮。岸。稍。堅  
英。乃。水。中。出。行。至。岸。穿。冰。而。去。岸。人。教。喜。爭。款。解。衣  
之。英。日。體。中。尚。熱。勿。皮。衣。也。徐。出。而。飯。了。各。寒  
之。視。其。身。體。如。火。炎。之。識。者。以。為。入。空。故。也。或。時。有。人。收  
牛。駕。車。合。蒜。數。飯。或。者。俗。衣。疑。長。數。寸。嘗。之。仁。壽  
寺。道。懸。教。甚。矣。之。日。晚。亦。令。懸。眉。日。上。恆。結。誓。令。相  
豈。不。為。息。譏。嫌。英。笑。答。曰。懸。心。方。地。勢。不。勉。休。息  
而。空。飢。俄。何。自。昔。也。道。懸。欲。服。貞。觀。中。卒。法。端。及。道。侯  
皆。說。之。也。  
幽。州。沙。門。釋。智。英。精。練。有。學。識。隨。大。乘。中。發。心。造。石。作  
藏。之。以。備。法。藏。院。而。於。幽。州。北。山。聖。藏。乃。石。室。之。窟。四  
壁。而。以。寫。法。又。取。石。刻。史。寫。藏。諸。法。室。用。每。一。室。由。三

法。端。常。集。大。眾。講。法。花。任。以。此。尼。在。本。精。實。遣。人。請。之  
尼。因。詞。不。許。法。端。責。讓。之。尼。不。得。已。乃。自。送。付。法。端。等  
開。讀。唯。見。黃。紙。了。無。文。字。更。用。錄。而。皆。悉。如。此。法。端。亦。恐  
懼。乃。送。還。尼。之。也。之。位。交。以。香。水。洗。函。沐。浴。頂。戴。蓮。佛  
行道。於。七。日。七。夜。不。指。休。息。改。而。開。相。文。字。如。故。貞。觀  
二。年。法。端。自。向。臨。說。當。其。說。法。名。字。略。忘。之。特。記。其。事。云。耳  
蒲。州。仁。壽。寺。僧。釋。道。縣。少。聰。慧。好。學。為。州。里。所。崇。敬。講  
涅槃。八。十。條。遍。号。百。轉。契。貞。觀。二。年。崔。義。直。任。虞。鄉

縣。令。人。請。縣。澤。淨。初。卷。題。此。法。謂。亦。人。曰。去。聖。遠。遠。微  
言。隱。絕。庸。愚。題。此。法。謂。亦。人。曰。去。聖。遠。遠。微  
歸。向。自。有。識。悟。今。之。漢。說。心。於。師。不。時。日。改。復。顧。在。心。改。而  
講。至。師。子。且。之。疾。而。平。道。法。與。勸。義。立。身。自。徒。跣。送  
之。南。山。之。際。時。十。月。六。日。地。冰。凍。不。展。於。地。之。生。花。如。蓮。而  
小。如。及。手。之。者。有。一。花。義。直。奇。之。令人。夜。守。之。看。夜。睡。有人  
盜。折。其。花。以。旦。視。之。周。身。並。多。花。出。括。百。餘。莖。修。七。日  
乃。萎。乾。義。直。及。道。侯。皆。說。之。云。耳

以。石。塞。門。用。鐵。錮。之。時。隨。賜。帝。幸。派。郡。內。史。侍。師。蕭。瑤  
曾。后。之。同。母。弟。也。性。甚。信。佛。法。以。其。子。自。后。之。施。僧。千。進  
錢。物。以。助。求。之。瑞。之。施。僧。已。百。近。相。野。中。之。爭。共。捨。施  
故。榮。得。遂。其。功。榮。嘗。以。役。近。改。多。道。僧。奔。濤。於。崇。嚴。寺  
造。木。仙。堂。并。會。堂。宿。屋。而。舍。亦。凡。難。辨。想。亦。費。法  
物。故。亦。於。起。作。一。夜。瀑。雨。雷。電。震。山。以。且。既。晴。乃。見。山。下  
有大。松。柏。數。千。株。而。水。所。澗。流。積。道。次。山。東。少。林。木。松。柏  
尤。稀。道。僧。皆。疑。不。知。本。支。推。尋。蹤。跡。遂。自。西。山。窟。岸  
削。木。漂。送。本。以。於。是。遠。近。歎。服。謂。為。神。助。榮。乃。使。運。擇  
取。其。木。條。皆。與。其。色。且。喜。悅。而。共。助。造。堂。宇。頃。之。畢  
成。皆。如。其。志。焉。黃。兩。造。石。佛。七。尊。以。自。觀。十。三。年。卒。事  
不。猶。迷。其。功。殿。中。系。柏。里。主。持。大。理。系。宋。宣。四。小。皆。有。臨。說。云。耳  
臨。以。十。九。年。從。事。智。幽。州。師。人。之。同。云。亦。而。以。事  
東。魏。末。鄴。下。人。共。入。西。山。採。銀。鈔。出。其。未。畢。而。穴。窟。有。一  
人。在。以。石。塞。門。不。得。出。而。音。傷。植。之。穴。窟。有。小。穴。不  
合。微。見。日。光。以。人。自。念。終。無。理。乃。一。心。念。仙。之。文。身。亦。已。歷











上... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元... 慶元...

上... 慶元...

才... 三度悉撤... 手長...

次... 延持... 下盤... 及手...

退... 去... 殿上... 切...

長... 役... 延... 等...

次... 手... 長... 同...

右... 字... 保... 十九...

再... 行... 也...

包... 延... 四... 月...

後... 年...

右... 字... 保... 十九...

再... 行... 也...

包... 延... 四... 月...

後... 年...

方... 錄...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...

此... 家... 之... 記...











大藏系多由勤  
官方

本工寮

主殿寮主人

大藏系多由勤

十月十日 章弘

大藏系多由勤  
御朱印  
十月十日  
大藏系多由勤  
御朱印  
十月十日

享保二丁酉年九月十日  
於河原書院 御朱印項裁之  
御朱印一列六人宛書  
御朱印見相續  
以後御朱印後項裁之  
御朱印之字

三河國津島郡内武拾四箇村  
高き方貳名石餘別段  
依代之例領知之状二件

享保二年八月十日御朱印

三宅儀前古の

享保二丁酉年十月廿九日  
朽木氏御朱印  
石川通江古  
御朱印  
御朱印  
御朱印

村付之文之書通

享保二年八月十八日

石川通江古  
總茂判  
朽木氏御朱印  
植元判

三宅儀前古の

家督御朱印

御朱印

和儀系多由勤

御朱印  
御朱印  
御朱印

御朱印  
御朱印

十月

御朱印  
御朱印

送

一河書下

御朱印

一平井書下

御朱印

御朱印  
御朱印

御朱印  
御朱印

御朱印  
御朱印

御朱印  
御朱印

御朱印  
御朱印

御朱印  
御朱印

御朱印

御朱印

其元儀此節

於宜様御縁組御用懸

被命旨候也

十月廿一日

家令

武田正勝取







家督御禮願

宗令

巨勢縫殿助

初儀送立身跡武被

作并作二并清序之節家督之

清禮中上度立願作以上

宗令

巨勢縫殿助

十二月

送



庭上樓  
野遺雉

右御月次題

各可令詠進給

之旨

院御氣色惡

二月廿 資董

一位殿 奉

廣橋前大納言殿

飛馬井大納言殿 奉

廣橋大納言殿 奉

右京大夫殿 奉

左衛門督殿 奉

左兵衛督殿 奉

頭中將殿 奉

中院中將殿 奉

三條西中將殿 奉

高松中將殿 奉

勘解由次官殿 奉

藤谷中將殿 奉

中院侍從殿 奉

武者小路中將殿 奉

中務權輔殿 奉

前源大納言殿 奉

前新源大納言殿 奉

山科中納言殿 奉

右衛門督殿 奉

芝山前中納言殿 奉

裏山前中納言殿 奉

侍從宰相殿 奉

左大辨宰相殿 奉

源宰相中將殿 奉

堀口前宰相殿 奉

風早前宰相殿 奉

外山前宰相殿 奉

冷泉大夫殿  
藏人辨殿

奉 奉



6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7



會席  
御料理

御汁 青島根干

御向 發筒 細作 子候 宗且荒布 千二カ

御飯

御菓子籠 楊子 切身 茶付 水蒸

御曳物 鯛大蒲餅 赤 綱

御吸物 什物 火入れ 煮物

皇承正七年十月  
京都住田屋長九郎  
御料理  
一口

下

御

御

御  
御  
御

公御着座

次敷圓座 冠者 理髮料

次冠者着圓座

次宣雜具 冠 河坂 掃巾

次加冠人目理髮人 理髮 人務

研 亦便宜

次理髮人進着圓座

作法了退

次加冠人起座着圓座

加冠復座

次理髮人進納整雜具

退

次撤雜具

次冠者起座於便所

老烟心  
月波  
才作馬

次撤圓座  
次公御退  
二拜退

就御元服  
可有御事始  
吉日

皇承正七年十月  
京都住田屋長九郎  
御料理  
一口

六月七日 丁卯

五月二十日 刻部權輔保高





會席

御料理

御汁 青海苔  
根芽

御向

贅酒  
鯉細作  
子漬  
宗且荒布  
キンカン

御飯

御菓子掬

梅活  
うれ、切身  
系付 苺  
はしき 氷漬

御曳物

鯛大蒲許  
赤 鯛

御吸物

牡丹湯  
火入れ  
煮ゆる

御肴  
一筋

寛永十七年十月

高松位田原長九郎

一口

御肴御座  
内材御座  
覆輪浪法

天明三年  
御相模舟表名

上

御湯

梅活  
系付

御香物

乙二六

御東換

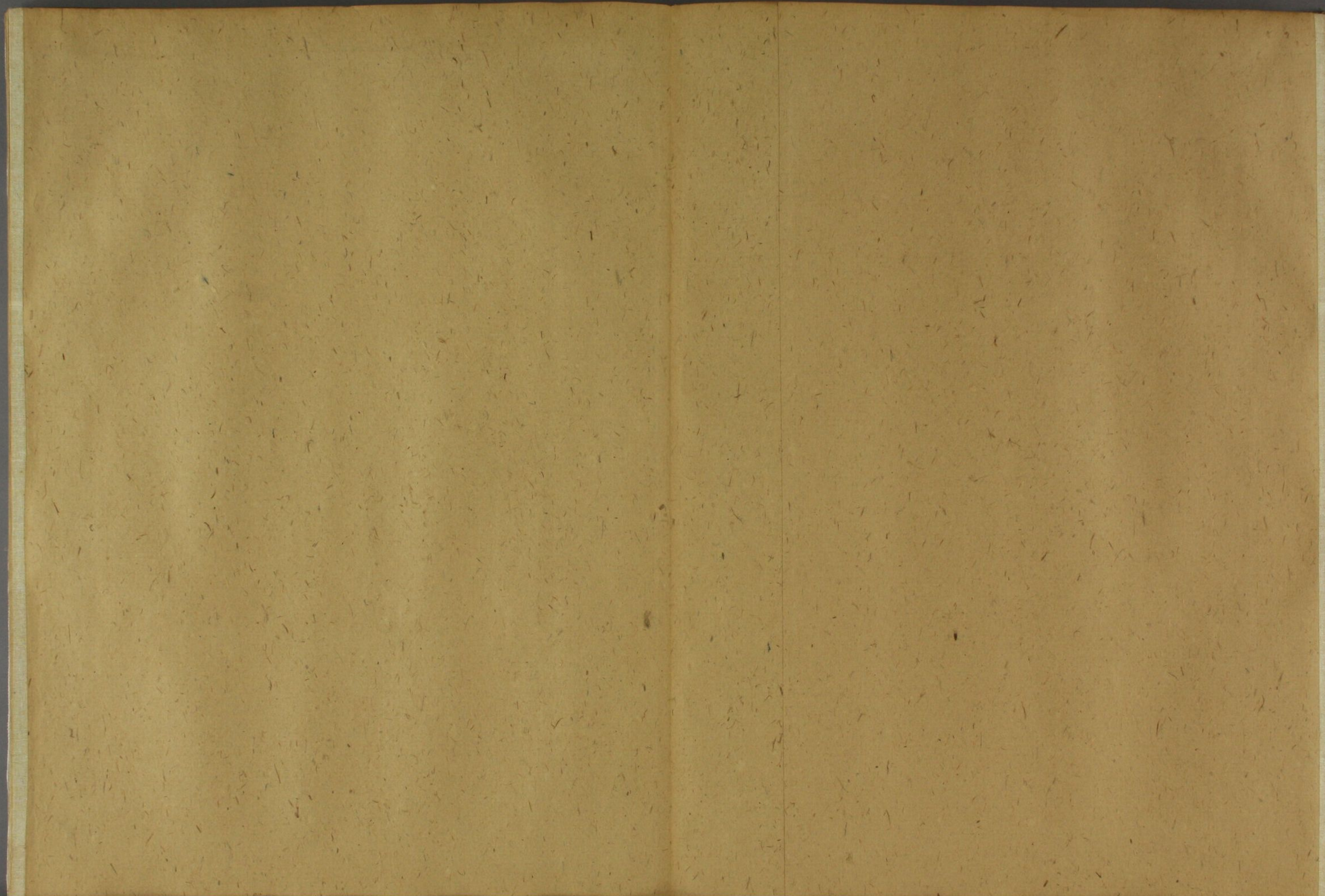
御肴  
御座  
御座

5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2











家主出座

次家司覽冊勸文入管

為勸文返館

次公卿着座

次理髮上首依氣也着座着公卿座未

次家司數円座二升冠者三枚料一升

料

次冠者着座

親眼人扶持之

次置雜具

次理髮人進着座理髮

之儀不渡座

次加冠人進着座加冠

渡座

次理髮人納雜具畢

渡座

次冠者入曹司

次撤雜具

今夜卿食祿勸益等

儀畧之

次諸卿退去

入殿者示勸

外能方

悟於茶助藤原利有

右道之北山

十月廿日 奠

御吉方之事

御歳十二

生氣方奠

六月三日 刊部權輔傳高

文代元月七日 刊部權輔傳高

一叔父 昨夜改改元之儀

二十日暇之石混穢之儀

重服中故九日着服之儀

書誌之儀

混穢之儀

宣之儀

一叔父 昨夜改改元之儀

昨夜改改元之儀

右 此書付下之儀

此書付下之儀

於宜 攝沙日喜越

於虎 攝沙日喜越

於志 攝沙日喜越

於志 攝沙日喜越



又代文子月七日始刑戶殺去極之極極極  
内法...

一 叔父昨夜政死志山極

二十日暇心志不混穢山仍

重服中故九十日者服之極

書志子山志山志山志

山志山志山志山志

混穢心志事及書志子山志

宜心山志事

山志山志山志山志

一 叔父松尾宮内從少輔昨夜政

率去心

右 每書竹下山志事

山志山志山志山志





奉為... 御上... 御下...

御上... 御下...

御上... 御下...

御上... 御下...

御上... 御下...

御上... 御下...

御上... 御下...

御上... 御下...

明後日十二可有  
院號定可...  
攝政殿御消息...  
十月十日...  
謹上野中御後

上原...  
謹言

故諺有之曰...  
人贊其子之忠...  
莫知其苗之碩...

子曰回之為人...  
子之過不及...  
行一則則其...

御上...







借る事  
廿九日

あかきよとりのよのふとさや  
いへももれいあし  
らんやりのよとさあまれ  
そごよやりのよとさ

ひららのやひららの  
ひららのやひららの  
つらのおとせつをておま  
あふふ代子こてあていあ

伊勢海

いよの海の。清さなまて  
志ほくひまのりやま  
わひやむろ見えむやむろえ

多進信号

井伊信号

多進信号

京方

重良

重隆

重直

迎儀

好古

迎興

南越方

言奉

則豊

廣好

廣勝

廣麻

天王寺方

重也

山井庄信曹

基壽

文秋

呂双調子

安石ら  
只拍子

香破

席田

多惠

胡飲酒

伊勢海

伊勢海

常楽

故諺有

諺曰

人莫知

莫知其

莫知其

莫知其

莫知其

子日回

子日回

子日回

子日回

子日回

子日回

子日回

子日回



明後日十二日可有

院號定可之魯仕ル結ル名ル

攝政殿御消息取仍

上管古存一思惶謹言

十月十日 左中將隆彰

謹上日野中納言殿

追上げ

封限可為辰一息必之

遅ル之ル之ル魯仕ル上ル思惶

謹言

名可月用

侍中 隆彰 人 敬

隆彰







一御長持 貳掉

但黒塗御紋付  
壹号 貳号

一同 七掉

但春慶御紋付  
壹号 七号

一同 九掉

但白木御紋付  
壹号 九号

一折衣折

一黒塗御簞笥 貳掉

一白木御簞笥 貳掉

一長持 四掉

内次

一扠風 貳掉

一琴衣折 壹掉

一釣臺 五掉

一押板

以上

松平直亮様家紋

安井泉

明治十年十月十日

寛政八年四月廿四日 宣

侍臣 幸于薄備侍知任

治孝公

轉任大臣 賜賞 宣旨

家孝公

任右大臣 賜賞 宣旨

資矩卿

頼照卿

定福卿

公由卿

相定卿

基陳卿

胤定卿

公則卿

胤定卿

福長卿

有泉

長教卿

長教卿

源氏長者之事  
次官人合撤膝突  
次上卿起三座

源氏長者之事

次官人合撤膝突

次上卿起三座

上卿 權大納言 經秀卿

辨 左中辨 資興

右左衛門守奉行頭右辨光胤  
朝臣假請而宣旨之

延享二年十月五日

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨

任右大臣 宣旨

任左大臣 宣旨



上便... 延享二年... 十月七日... 宣下... 刻限參着仗座... 次職事來仰... 任大臣大將如元隨身... 兵仗牛車等之事... 上御微喧職事退... 次上御移着端座... 次令官人敷靴... 次上御以官人召大外記... 大外記來靴... 上御仰乞詞... 任大臣大將如元等... 之事... 大外記稱唯退... 次上御令官人召靴... 靴來靴

笠原方... 天皇... 南... 笠原方... 天皇... 南... 笠原方... 天皇... 南...

維清原宮馭宇

天皇即位八年庚辰之歲... 中宮不念創此伽藍而鋪... 遂龍駕騰仙上天皇奉... 遂成斯業照先皇之弘... 之玄功道濟郡生葉傳... 高躅敢勒貞金其銘曰... 蕩々藥師如來大教誓... 哀倚換聖王仰延真助... 在嚴誦御亭々寶刹... 崇億劫慶溢萬齡

延享二年... 十月七日... 宣下... 刻限參着仗座... 次職事來仰... 任大臣大將如元隨身... 兵仗牛車等之事... 上御微喧職事退... 次上御移着端座... 次令官人敷靴... 次上御以官人召大外記... 大外記來靴... 上御仰乞詞... 任大臣大將如元等... 之事... 大外記稱唯退... 次上御令官人召靴... 靴來靴

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百







上院子... 天照文...

七十八  
陸王 皇座志 青海皮 陸王 春楊柳 陸王 青海皮

七十九  
陸王 三君林秋 陸王 皇座志 陸王 青海皮

八十  
陸王 皇座志 陸王 青海皮

八十一  
陸王 皇座志 陸王 青海皮 陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

陸王 皇座志 陸王 青海皮

8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7



七十八 陸王 皇慶志 平 青海皮 陸王 春楊柳 陸王 平 勇務

七十二 陸王 三哥林秋 智原志 陸王 勇者 青海皮

七十九

三十九 陸王 白王 陸王 青海皮

三十四 陸王 志 務勇者 陸王 白王 陸王 青海皮

陸王 十秋末 臥乳 務勇者 陸王 勇者 青海皮 秋末

陸王 秋末 天 青海皮 陸王 勇者 古 秋末 林秋 陸王 平

陸王 林奇 秋末 陸王 勇者 秋末 春 陸王 秋末

陸王 勇者 名及 日 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 青海皮 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末

陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末 陸王 勇者 秋末



延享二年

十月七日陣宣下申刻

任大臣家重云宣下次第

刻限參着仗座

次職事來仰々詞

任大臣大將如元隨身

兵仗牛車等之事

上卿徹唯職事退

次上卿移着端座

次令官人敷軾

次上卿以官人乃大外記

大外記來軾

上卿仰々詞

任大臣大將如元等

之事

大外記稱唯退

次上卿令官人召辨

辨來軾

延享二年十月十日

臣假請寫

此次守奉行頭左大辨頼西朝

上卿權領三官并宗卿

次上卿起座退

次令官人撤軾

大外記稱唯退

隨身兵仗牛車等之事

上卿仰々詞

大外記來軾

次上卿以官人更乃大外記

辭稱唯退

牛車之事

上卿仰々詞



維清原宮馭宇

天皇即位八年庚辰之歲建

子之月以

中宮不念創此伽藍而鋪金玉未

遂龍駕騰仙大上天皇奉導前緒

遂成斯業照先皇之弘誓言之後亭

之玄功道濟郡生葉傳曠却或於

高躅敢勒貞金其銘曰魏々

蕩々藥師如來大教誓願廣運慈

哀倚換聖王仰遙真助之愛饒靈亭

庄嚴調御亭々寶刹疾々法城福

崇億劫慶溢萬齡







衝重看物御色目

子盤  
看 籍

皿  
御看一  
座器

生看  
籍

皿  
御看一  
座器

次御盃一枚

居手盤

次御水子  
行口

御厨所番長原唐言



















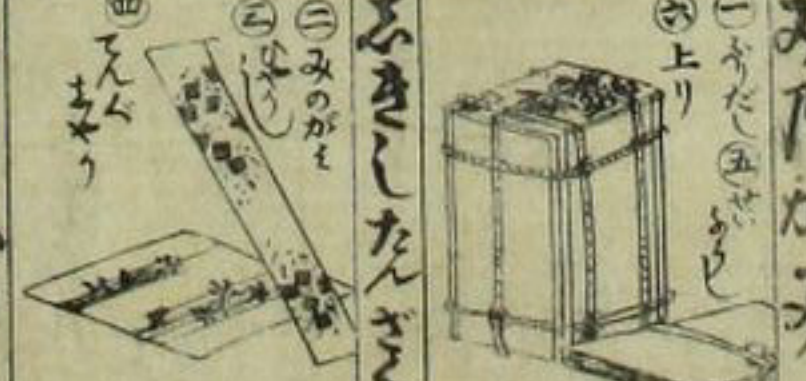
























以下  
4 丁  
白紙



8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

紙名盡 壽語六

非賣品

 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>		 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>
 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>		 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>
 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>		 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>
 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>		 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>
 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>		 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>	 <p>紙名盡</p>

本郷區湯嶋天神町五番地 上村平兵衛



6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8

# 六語壽

# 紙名盡

非賣品



<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>
<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>
<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>
<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>
<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>	<p>紙名盡</p> <p>一 上り 二 中り 三 下り 四 大高摺紙 五 かんい</p>

本郷區湯嶋天神町三丁目五番地  
上村平兵衛